

# 富岡町 住民意向調査 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁  
福島県  
富岡町



## 目 次

I 調査の概要.....	5
1. 調査目的.....	7
2. 調査項目.....	7
3. 調査対象.....	7
4. 調査時期.....	7
5. 調査方法.....	7
6. 調査実施主体.....	7
7. 回収標本数.....	7
8. 回答者の属性.....	8
(1) 性別.....	8
(2) 年齢.....	8
(3) 職業(震災発生当時・現在).....	9
(4) 震災発生当時居住地区と居住年数.....	10
(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在).....	11
9. この報告書を読む際の注意.....	13
II 調査結果.....	15
1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況.....	17
(1) 震災発生当時の世帯構成.....	17
1) 震災発生当時の同居家族人数、学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表).....	17
2) 震災発生当時の住まいでのペット飼育(現在世帯主または世帯の代表).....	20
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主または世帯の代表).....	21
(3) 震災発生当時の職業.....	23
(4) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域および移動手段.....	26
1) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域.....	26
2) 震災発生当時までの通勤・通学手段.....	28
(5) 震災発生当時まで買物をしていた場所および移動手段.....	30
1) 震災発生当時まで買物をしていた場所.....	30
2) 震災発生当時までの買物の交通手段.....	31
(6) 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況.....	33
(7) 震災発生当時の介護・福祉サービス利用.....	35
2. 現在の避難状況.....	36
(1) 世帯の避難状況(現在世帯主または世帯の代表).....	36
1) 分散状況.....	36
2) 別居家族人数.....	37
(2) 現在の世帯構成.....	38
1) 現在の同居家族人数、学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表).....	38
2) 現在の住まいでのペット飼育(現在世帯主または世帯の代表).....	40
(3) 現在避難している先の自治体.....	42
(4) 現在の住居種別(現在世帯主または世帯の代表).....	44
(5) 現在の職業.....	46
(6) 震災発生前後での就労変化.....	50

1) 現在勤務先の会社・組織・団体の変化.....	50
2) 求職状況 .....	52
3) 職を探していない理由 .....	54
3. 現在の避難生活における困りごと.....	56
(1) 避難生活の中で困っていること .....	56
(2) 医療サービスについて困っていること .....	58
(3) 介護・福祉サービスについて困っていること .....	60
(4) 教育(学校)について困っていること.....	62
(5) 就労について困っていること .....	65
(6) 地域のコミュニティについて困っていること.....	67
4. 今後の避難生活に関する意見 .....	69
(1) 避難期間中過ごしたい場所.....	69
(2) 避難期間中の転居予定先.....	72
(3) 避難期間中に希望する住居形態.....	74
(4) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数.....	79
5. 町内外生活拠点に対する意見 .....	81
(1) 町内外生活拠点への居住意向 .....	81
(2) 町内外生活拠点へ移転するまでに待てる年数.....	83
(3) 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること .....	84
(4) 生活拠点に求めるもの .....	86
(5) 生活拠点を町外に設置する場合の望ましいコミュニティの単位 .....	88
(6) 他の町村の住民とともに移転することについて.....	89
6. 富岡町への帰還について.....	91
(1) 富岡町へ帰還する前提として必要と思う条件 .....	91
(2) 避難指示が解除された後の富岡町への帰還意向.....	94
(3) 富岡町に帰還する際に行政に望む支援内容 .....	95
(4) 富岡町帰還までに待てる限度年数 .....	97
(5) 帰還を判断するのに必要な情報 .....	98
(6) 富岡町へ帰還しない理由.....	100
(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング .....	102
1) 今後の生活拠点への転居時期.....	102
2) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階.....	103
(8) 今後の生活において行政に望む支援.....	105
7. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて.....	106
III 調査票(付:単純集計結果) .....	111

## I 調査の概要



## 1. 調査目的

富岡町住民の避難期間中の生活環境の整備や、復興の拠点のあり方等の諸施策の適切な実施を行うための基礎データを収集することを目的とする。

## 2. 調査項目

- (1) 回答者属性
- (2) 東日本大震災発生当時および震災前の状況
- (3) 現在の避難状況
- (4) 現在の避難生活における困りごと
- (5) 今後の避難生活に関する意見
- (6) 町内外生活拠点に対する意見
- (7) 富岡町への帰還について

## 3. 調査対象

### (1) 調査対象

満 18 歳以上の全富岡町住民

### (2) 対象数 13,191 人

## 4. 調査時期

平成 23 年 12 月 3 日(月)～平成 23 年 12 月 18 日(火)  
(平成 24 年 1 月 8 日(火)到着分までを集計対象とした。)

## 5. 調査方法

郵送法

## 6. 調査実施主体

復興庁 福島県 富岡町

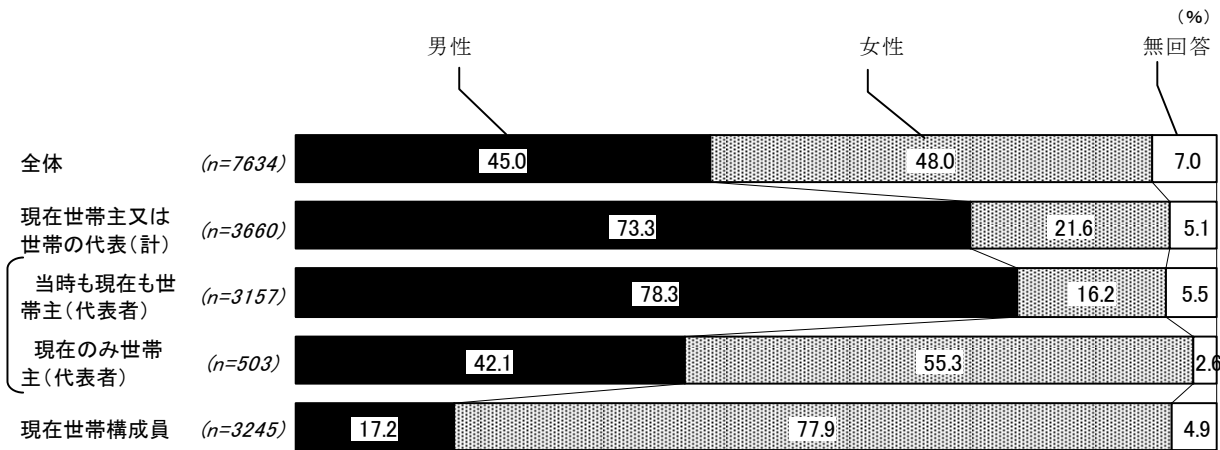
## 7. 回収標本数

有効回収数(率) 7,634 人(57.9%)

8. 回答者の属性

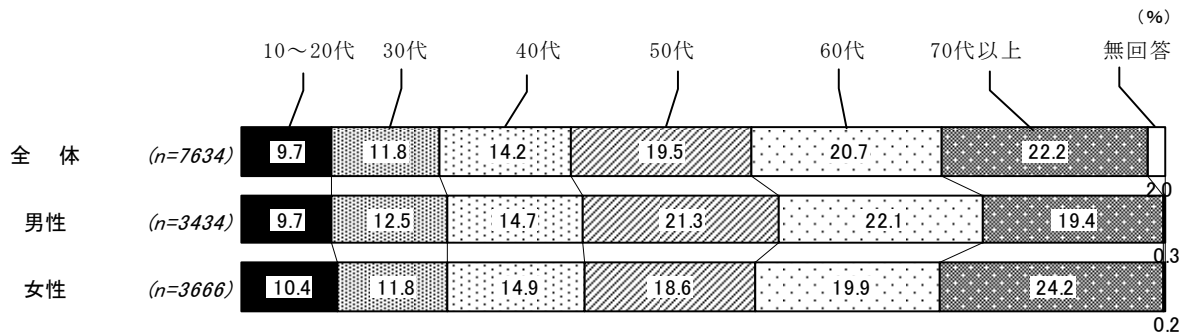
(1) 性別

図表1 性別

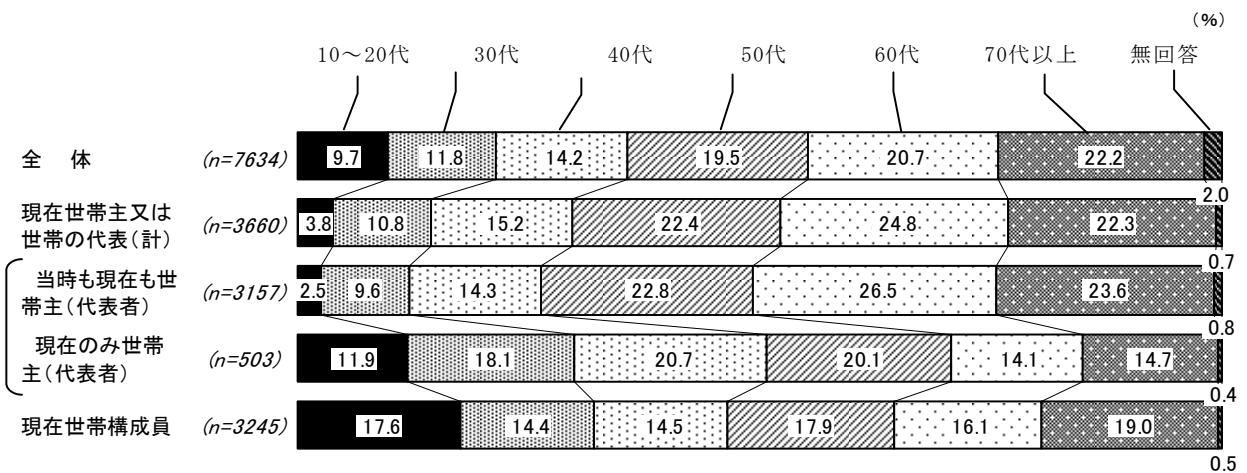


(2) 年齢

図表2 年齢



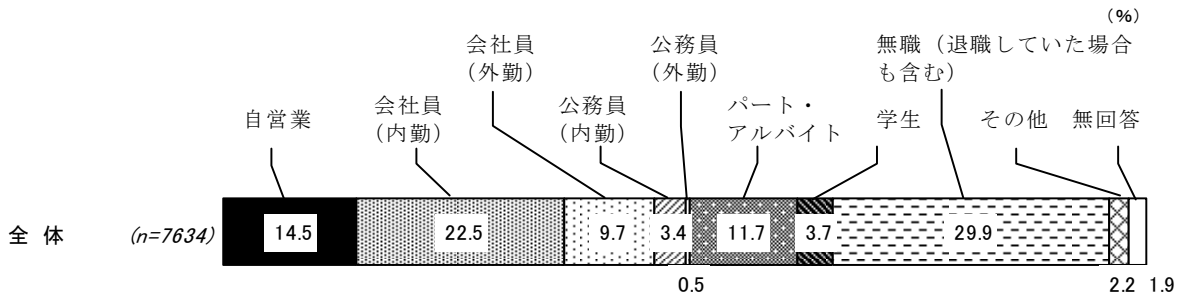
図表3 年齢(世帯主・構成員別)



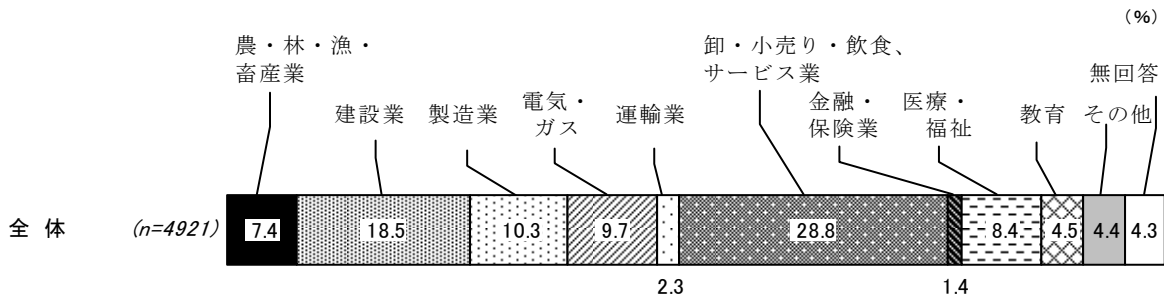


(3) 職業(震災発生当時・現在)

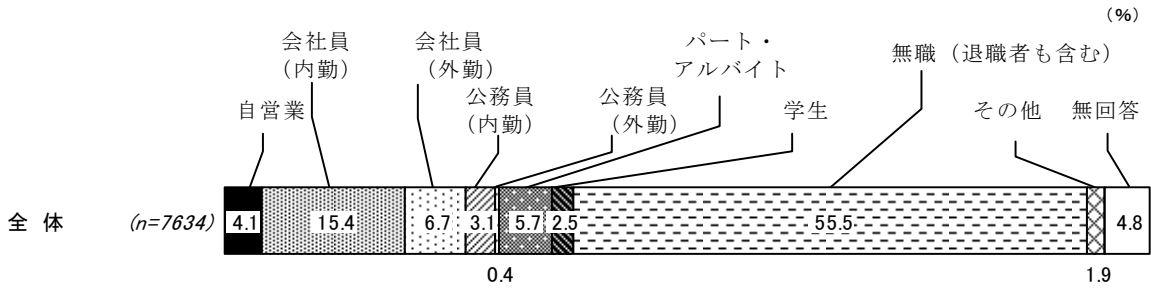
図表4 職業(震災発生当時)



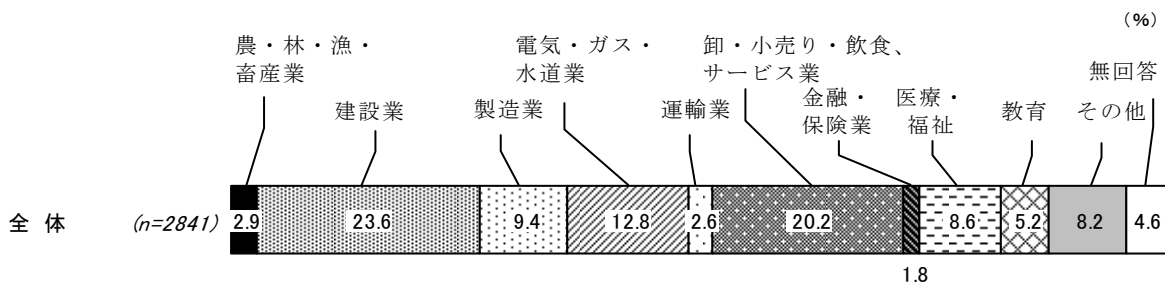
図表5 業種(震災発生当時)



図表6 職業(現在)



図表7 業種(現在)

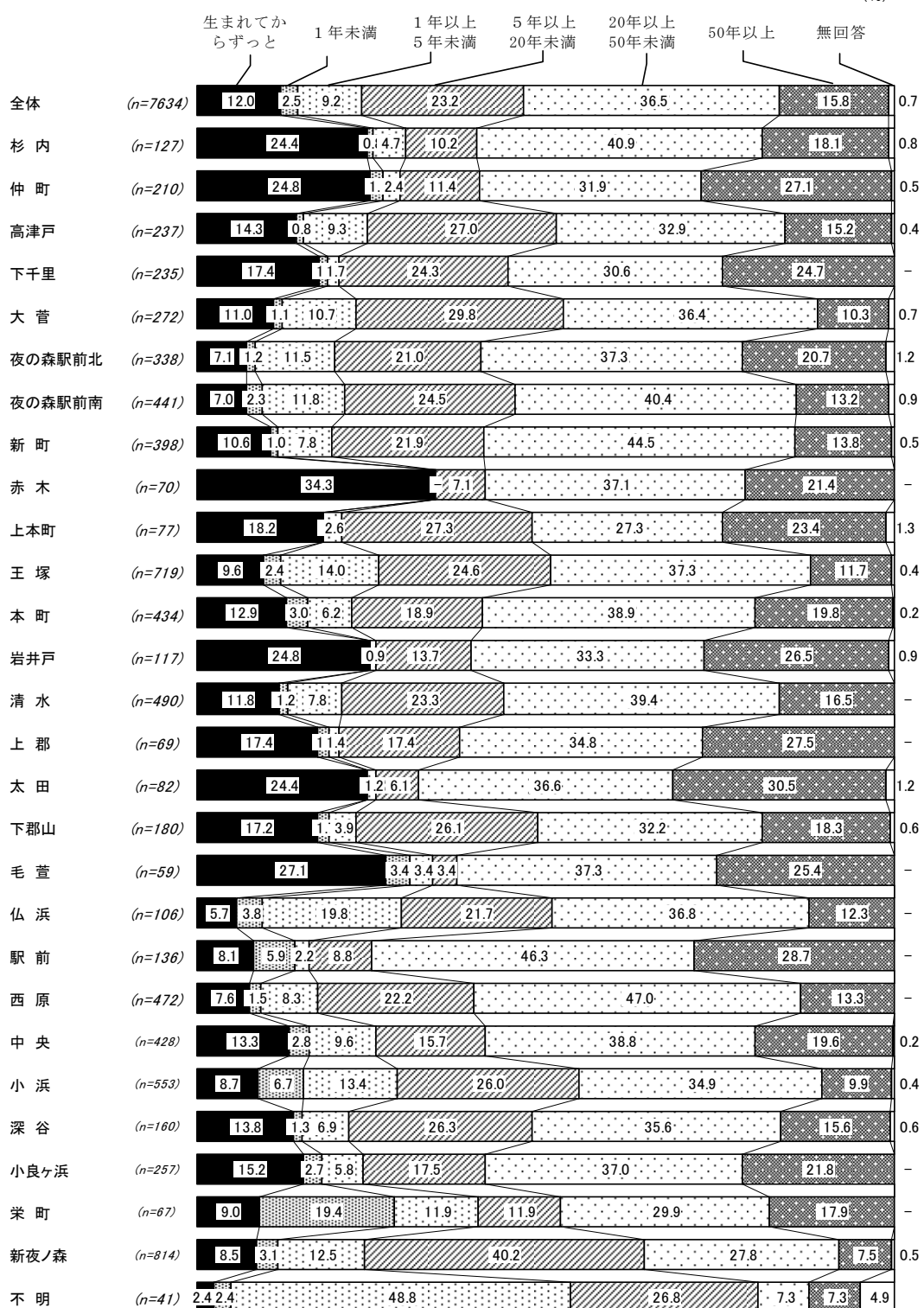


(4) 震災発生当時居住地区と居住年数

図表8 震災発生当時居住地区

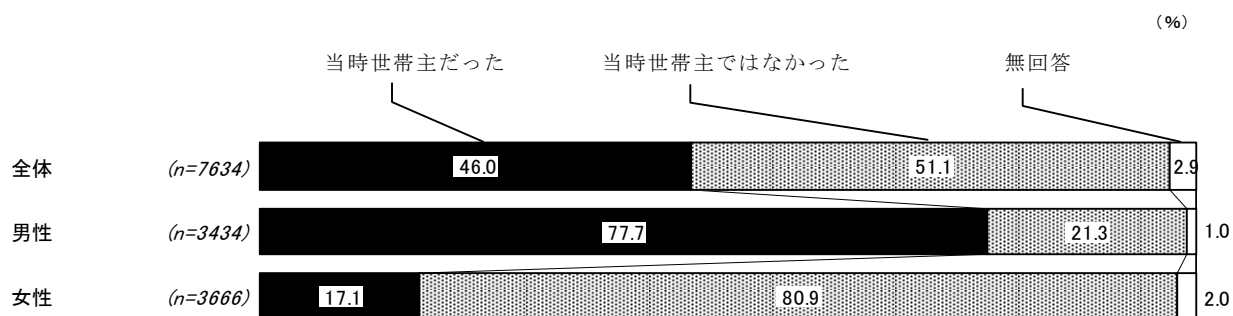
		杉内	仲町	高津戸	下千里	大菅	夜の森駅前北	夜の森駅前南	新町	赤木	上本町	王塚	本町	岩井戸	清水	上郡	太田	下郡山	毛萱	仏浜	駅前	西原	中央	小浜	深谷	小良ヶ浜	栄町	新夜ノ森	不明	無回答
全体	(n=7634)	1.7	2.8	3.1	3.1	3.6	4.4	5.8	5.2	0.9	1.0	9.4	5.7	1.5	6.4	0.9	1.1	2.4	0.8	1.4	1.8	6.2	5.6	7.2	2.1	3.4	0.9	10.7	0.5	0.6

図表9 居住年数

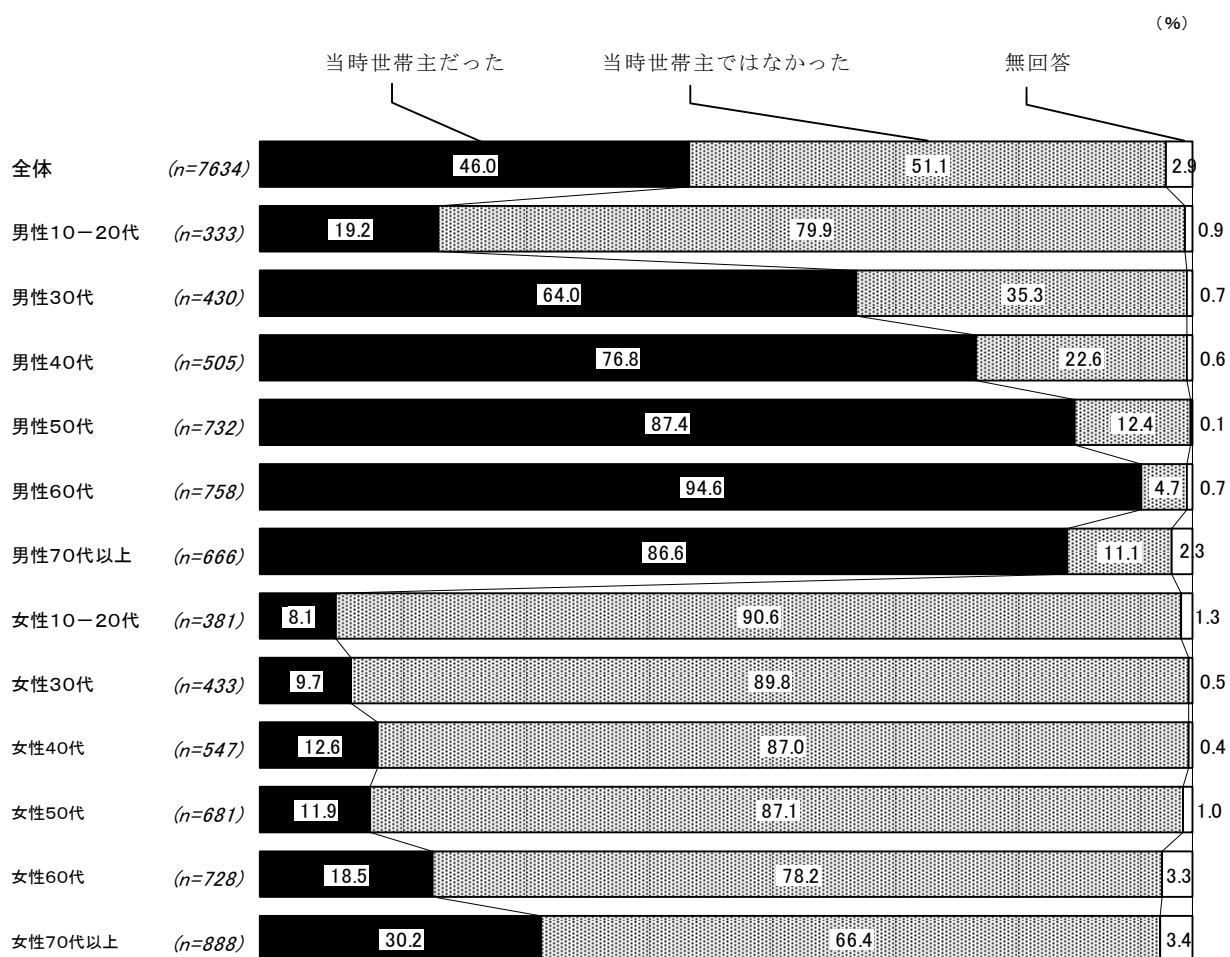


(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)

図表 10 世帯での立場(震災発生当時 男女別)

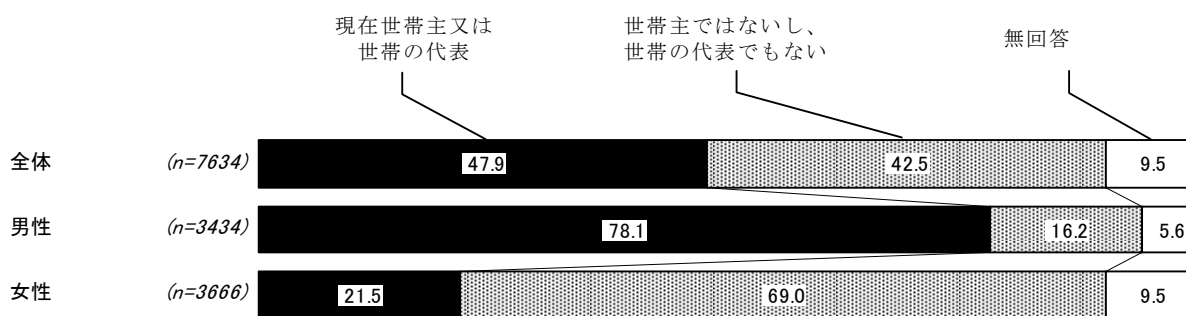


図表 11 世帯での立場(震災発生当時 性年代別)



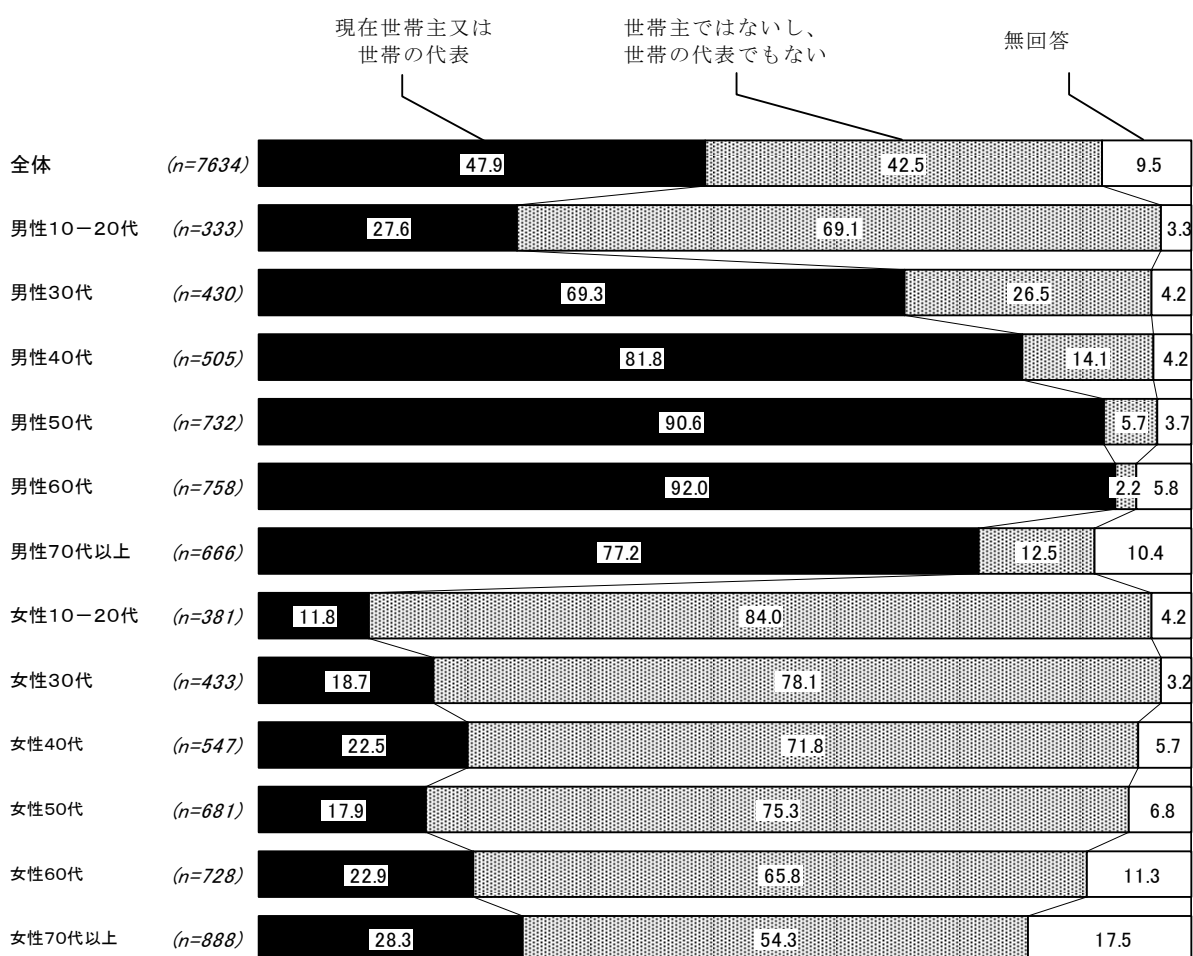
図表 12 世帯での立場(現在 男女別)

(%)

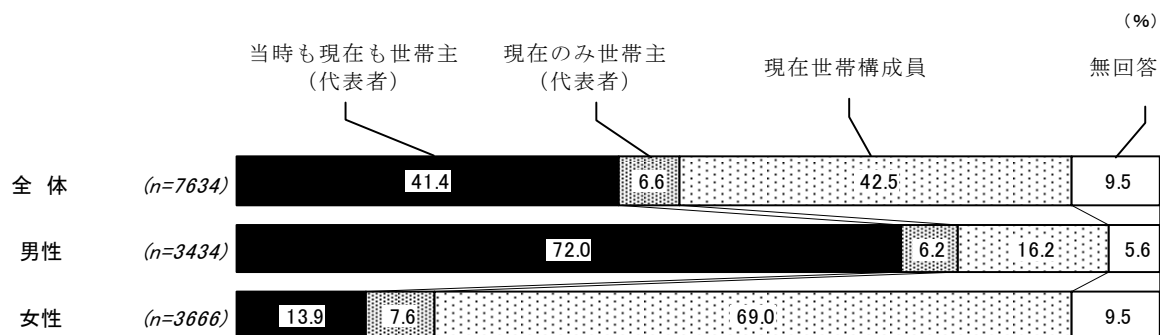


図表 13 世帯での立場(現在 性年代別)

(%)



図表 14 世帯での立場(男女別)



9. この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(7,634人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。



## II 調査結果





# 1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況

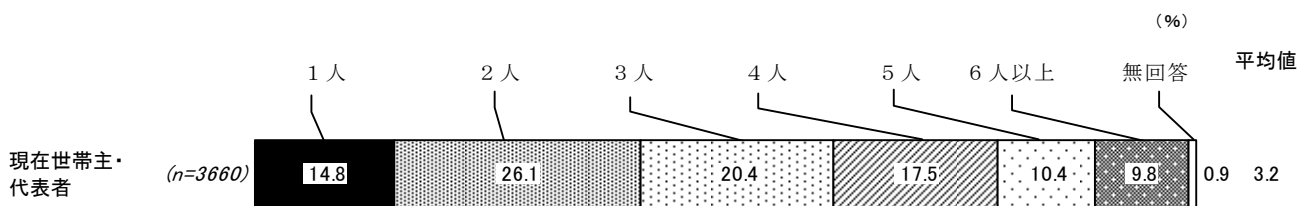
## (1) 震災発生当時の世帯構成

### 1) 震災発生当時の同居家族人数、学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】  
 問 43 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。  
 (1) 震災発生当時、富岡町にお住まいだったご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。  
 (2) 震災発生当時、富岡町と一緒ににお住まいであった方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。  
 震災発生当時の学齢・年齢でご回答ください。同居していなかったご家族は除いてご回答ください。(〇はいくつでも)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(3,660人)の震災発生当時の世帯人数は「2人」が26.1%と最も多く、次いで「3人」(20.4%)と「4人」(18.1%)が2割前後、「1人」が14.8%、「5人」(10.4%)と「6人以上」(9.8%)が約1割である。(図表 1-1-1)

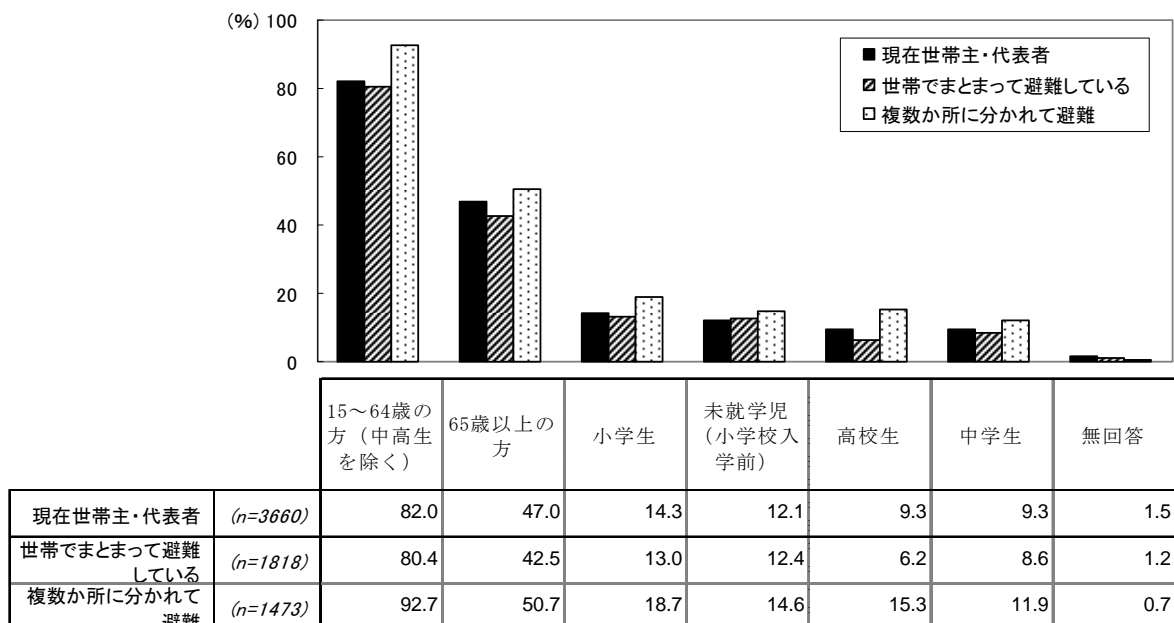
図表 1-1-1 震災発生当時の世帯構成



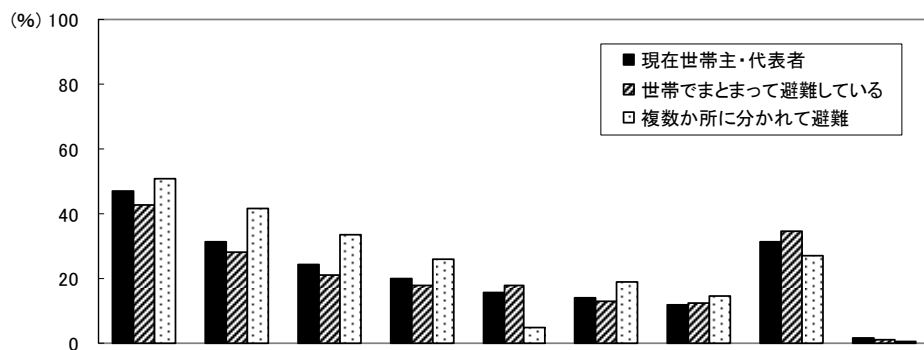
震災発生当時の回答者自身およびその同居者の学齢・年齢をみると、「65歳以上の方あり」は47.0%でほぼ半数弱を占めている。子どもとの同居については、「小学生」が14.3%、「未就学児(小学校入学前)」が12.1%、「中学生」、「高校生」がそれぞれ9.3%で、高校生以下の子どもがある世帯は31.1%となっている。

世帯の避難状況別に見ると、高校生以下の子どもいづれかがいる世帯は、世帯でまとまって避難している世帯(28.1%)に比べて、複数か所に分かれて避難している世帯のほうが多い(41.5%)。一方、「高齢者のみ世帯」が、世帯でまとまって避難している世帯(17.9%)では、複数か所に分かれて避難している分散世帯(5.0%)より多くなっている。(図表 1-1-2)(図表 1-1-3)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



図表 1-1-3 震災発生当時の世帯類型(世帯の避難状況別)



		65歳以上の方あり	高校生以下の子どもあり	小中高校生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高齢者のみ世帯	小学生の子どもあり	未就学児の子どもあり	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=3660)	47.0	31.1	24.4	19.9	15.5	14.3	12.1	31.6	1.5
世帯でまとまって避難している	(n=1818)	42.5	28.1	21.0	18.0	17.9	13.0	12.4	34.5	1.2
複数か所に分かれて避難	(n=1473)	50.7	41.5	33.5	26.1	5.0	18.7	14.6	26.9	0.7

世帯主または代表者の年代別に見ると、「高校生以下の子どもあり」は、40代で70.0%、30代で58.1%と多い。30代では「未就学児(小学校入学前)」が40.9%と他層に比べて多くなっている。(図表1-1-4)(図表1-1-5)

図表 1-1-4 震災発生当時の世帯構成(年代別)

		(%)						
		未就学児 (小学校入学前)	小学生	中学生	高校生	15～64歳 の方(中高生を除く)	65歳以上 の方	無回答
現在世帯主・ 代表者	(n=3660)	12.1	14.3	9.3	9.3	82.0	47.0	1.5
10-20代	(n=138)	20.3	2.9	2.9	7.2	96.4	14.5	3.6
30代	(n=394)	40.9	32.7	5.8	1.8	100.0	12.9	-
40代	(n=556)	20.5	37.1	28.8	24.1	100.0	28.1	-
50代	(n=821)	4.4	7.4	10.0	14.4	100.0	34.0	-
60代	(n=907)	6.9	7.3	3.0	2.1	84.8	42.6	5.0
70代以上	(n=818)	5.1	6.8	5.5	6.4	38.5	100.0	-

図表 1-1-5 震災発生当時の世帯類型(年代別)

		(%)								
		65歳以上 の方あり	高校生以下 の子どもあり	小中高校 生の子どもあり	小中学生 の子どもあり	高齢者の み世帯	小学生の 子どもあり	未就学児 の子どもあり	その他	無回答
現在世帯主・ 代表者	(n=3660)	47.0	31.1	24.4	19.9	15.5	14.3	12.1	31.6	1.5
10-20代	(n=138)	14.5	29.0	10.1	4.3	-	2.9	20.3	54.3	3.6
30代	(n=394)	12.9	58.1	35.0	34.8	-	32.7	40.9	33.8	-
40代	(n=556)	28.1	70.0	62.4	53.2	-	37.1	20.5	22.1	-
50代	(n=821)	34.0	27.2	23.9	15.1	-	7.4	4.4	49.5	-
60代	(n=907)	42.6	13.7	9.6	8.7	9.4	7.3	6.9	45.3	5.0
70代以上	(n=818)	100.0	16.3	13.3	10.4	58.2	6.8	5.1	-	-

2) 震災発生当時の住まいでのペット飼育(現在世帯主または世帯の代表)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 44 震災発生当時のお住まいでは、ペットを飼っていましたか。(〇はいくつでも)

現在世帯主(または代表者、3,660 人)に震災発生当時のペット飼育状況を聞いたところ、「犬を飼っていた」は 25.2%、「猫を飼っていた」は 14.0%で、いずれかのペットを飼っていたのは合計 38.9%である。

世帯主または代表者の年代別に見ると、40 代から 60 代の層でいずれかのペットを飼っていたのは 4 割を超えており、他の年代層に比べて高めである。(図表 1-1-6)

図表 1-1-6 震災発生当時ペットを飼っていたか(世帯主・代表者の年代別)

		(%)					ペットを飼っていた(計)
		ペットは飼って いなかった	犬を飼っていた	猫を飼っていた	その他のペット を飼っていた	無回答	
現在世帯主・ 代表者	(n=3660)	57.3	25.2	14.0	7.1	3.8	38.9
10-20代	(n=138)	63.0	23.2	11.6	6.5	3.6	33.3
30代	(n=394)	68.3	17.5	10.7	9.6	0.8	31.0
40代	(n=556)	56.1	25.0	13.3	12.8	2.7	41.2
50代	(n=821)	53.7	31.1	14.0	6.5	2.2	44.1
60代	(n=907)	52.4	28.6	18.4	5.6	3.3	44.3
70代以上	(n=818)	61.5	19.6	11.6	4.5	8.1	30.4

(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主または世帯の代表)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 45 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

(1)所有形態(○は1つ)

(2)住宅の建て方(○は1つ)

現在世帯主(または代表者、3,660 人)の震災発生当時の住宅の所有形態としては、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」が 78.8%で際立って多く、次いで「民間賃貸」が 12.8%である。(図表 1-2-1①)

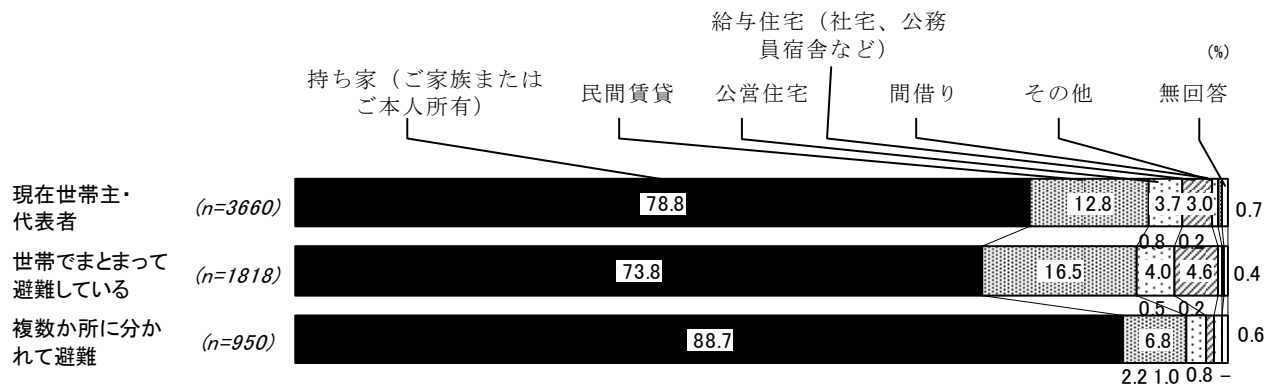
震災発生当時の住宅の建て方は、「一戸建て」が 85.3%と多数を占める。(図表 1-2-1②)

世帯の避難状況別に見ると、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」は、複数か所に分かれて避難では、世帯でまとまって避難しているに比べて多い(世帯でまとまって避難している 73.8%、複数か所に分かれて避難 88.7%)。また、世帯でまとまって避難しているは、複数か所に分かれて避難よりも「民間賃貸」への居住が多い(同 16.5%、6.8%)。(図表 1-2-1①)

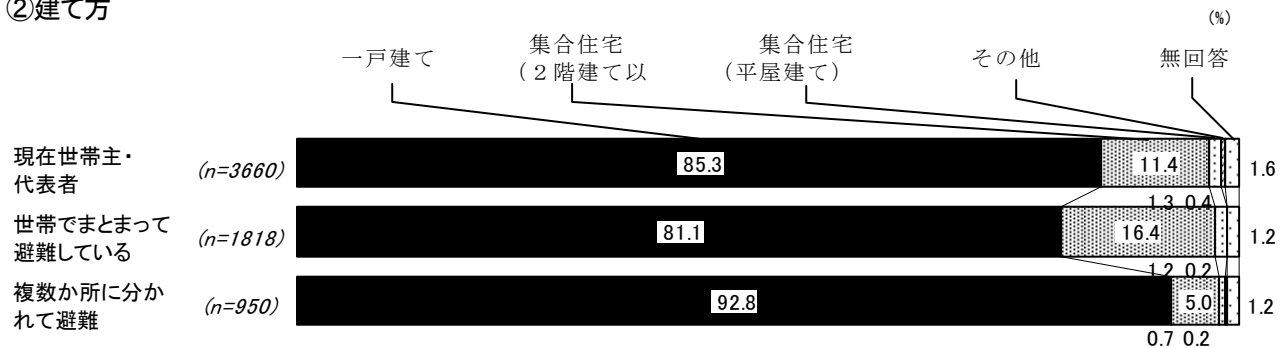
建て方を見ると、「一戸建て」は、世帯でまとまって避難しているでは、複数か所に分かれて避難に比べて多い(世帯でまとまって避難している 81.1%、複数か所に分かれて避難 92.8%)。

図表 1-2-1 震災発生当時の住宅(世帯の避難状況別)

①所有形態



②建て方

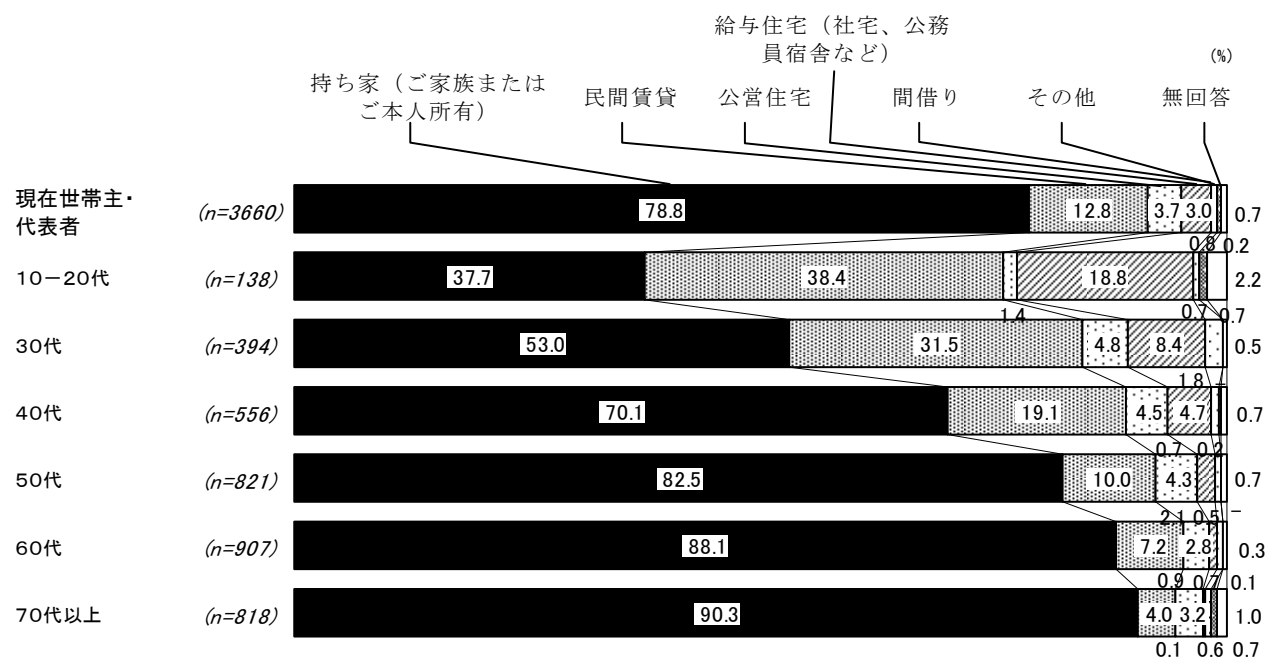


現在世帯主(または代表者、3,660 人)の年代別に見ると、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」は高齢層ほど多く、60代(88.1%)、70代以上(90.3%)の層ではいずれも約9割を占める。一方、「民間賃貸」は若年齢層ほど多く、30代以下の層では3割を超えている。10-20代の層の「民間賃貸」は38.4%であり、「持ち家」(37.7%)とほぼ同率となっている。なお、10-20代の層では「給与住宅(社宅、公務員宿舍など)」(18.8%)も2割ほど見られ、他の年代より多くなっている。(図表1-2-2①)

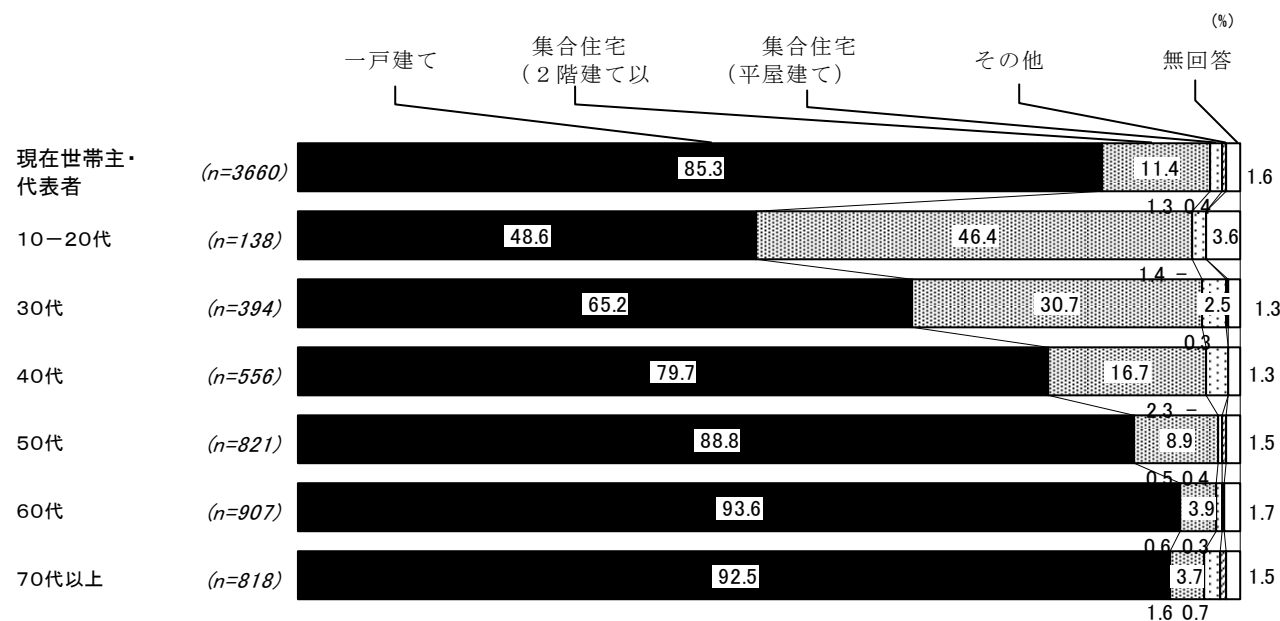
建て方は、「一戸建て」の割合は、50代以上の高齢層では約9割前後で、若年齢層に比べて多い。「集合住宅(2階建て以上)」は、10-20代では46.4%と半数近くを占め、30代では30.7%である。(図表1-2-2②)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅(世帯主・代表者の年代別)

①所有形態



②建て方



(3) 震災発生当時の職業

問3 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。  
 当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。(○は1つ)

震災発生当時の職業を聞いたところ、「無職(退職していた場合も含む)」が 29.9%で最も多く、次いで、「会社員(内勤)」(22.5%)、「自営業」(14.5%)、「パート・アルバイト」(11.7%)などの順となっている。(図表 1-3-1①)

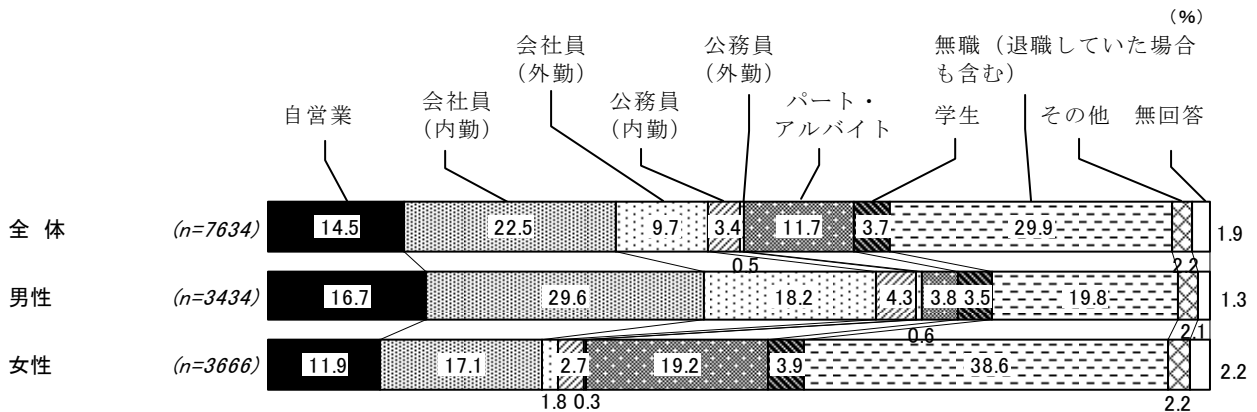
震災発生当時の有職者(4,921 人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(28.8%)が最も多く、次いで「建設業」(18.5%)、「製造業」(10.3%)、「電気・ガス」(9.7%)、「医療・福祉」(8.4%)、「農・林・漁・畜産業」(7.4%)の順となっている。(図表 1-3-1②)

男女別に見ると、男性では「会社員(内勤)」が 29.6%と最も多く、次いで「無職(退職していた場合も含む)」(19.8%)、「会社員(外勤)」(18.2%)、「自営業」(16.7%)の順である。一方、女性は「無職(退職していた場合も含む)」が 38.6%を占め、「パート・アルバイト」が 19.2%、「会社員(内勤)」が 17.1%、「自営業」が 11.9%などの順である。(図表 1-3-1①)

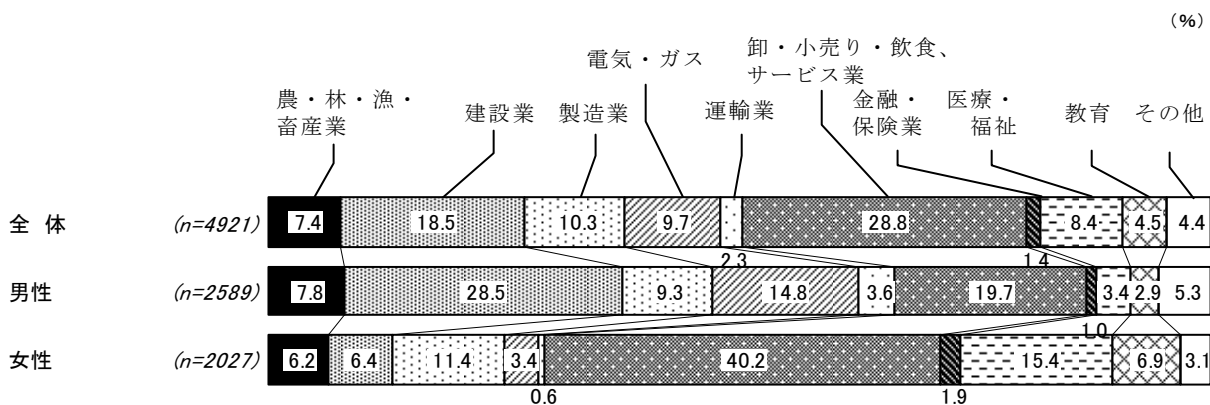
男女別に有職者の業種を見ると、男性では「建設業」に従事する人が 28.5%で最も多く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」(19.7%)、「電気・ガス」(14.8%)などの順となっている。女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」に従事する人が 40.2%で最も多く、次いで「医療・福祉」(15.4%)、「製造業」(11.4%)の順となっている。(図表 1-3-1②)

図表 1-3-1 震災発生当時の職業(男女別)

①職業



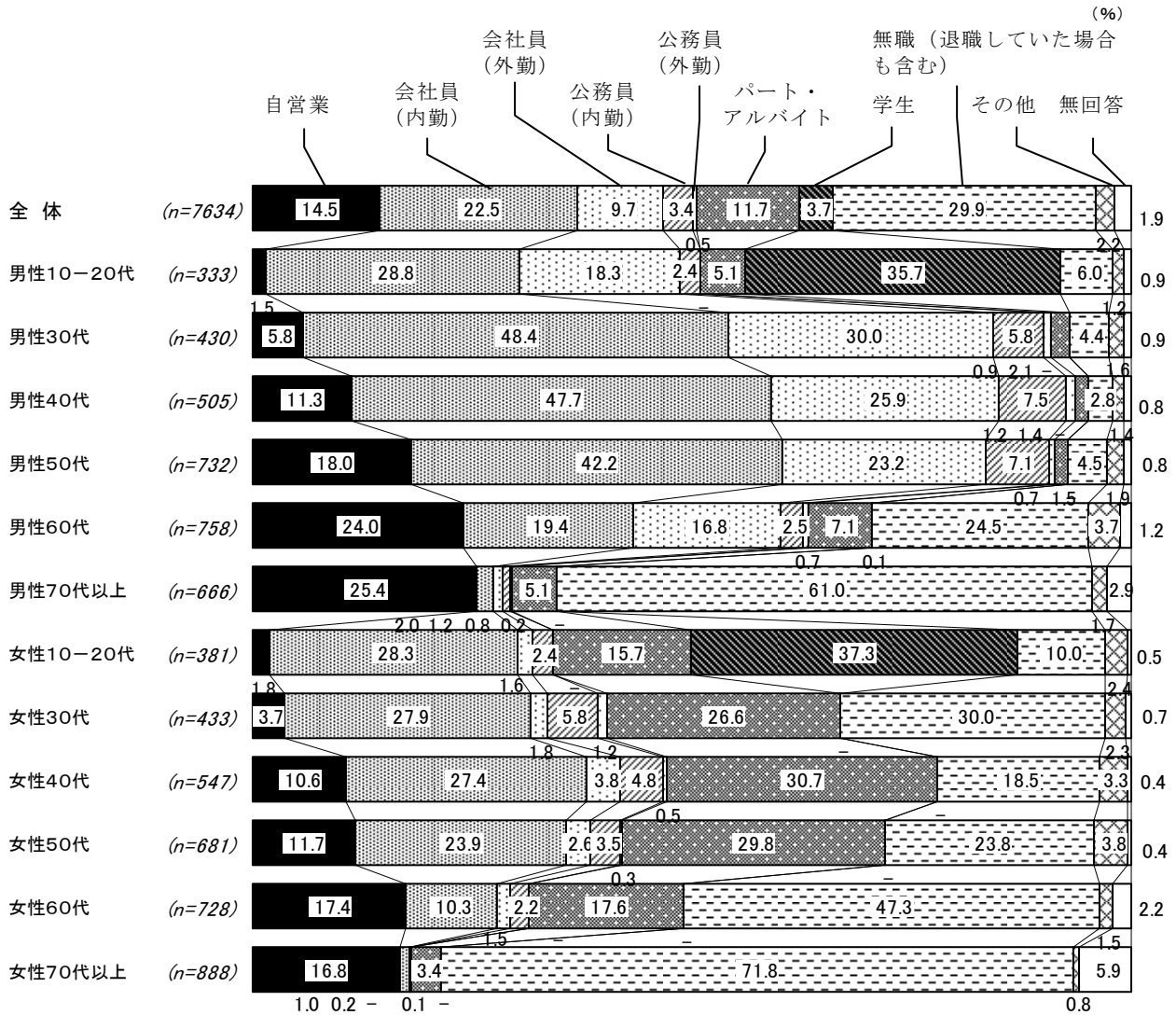
②業種



性・年代別に職業を見ると、男性の30-40代では「会社員(内勤)」が5割弱と、他の性・年代より多くなっている。一方、女性は、10-40代で「会社員(内勤)」が3割弱と、女性の他の年代より高いほか、30-50代は「パート・アルバイト」が3割前後と、他の性・年代より高くなっている。「自営業」従事者は、男女とも高齢層ほど多い傾向が見られ、特に男性60代以上では4人に1人が「自営業」である。「無職(退職していた場合も含む)」は、70代以上男性で61.0%、70代以上女性で71.8%である。(図表1-3-2①)

図表 1-3-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

①職業

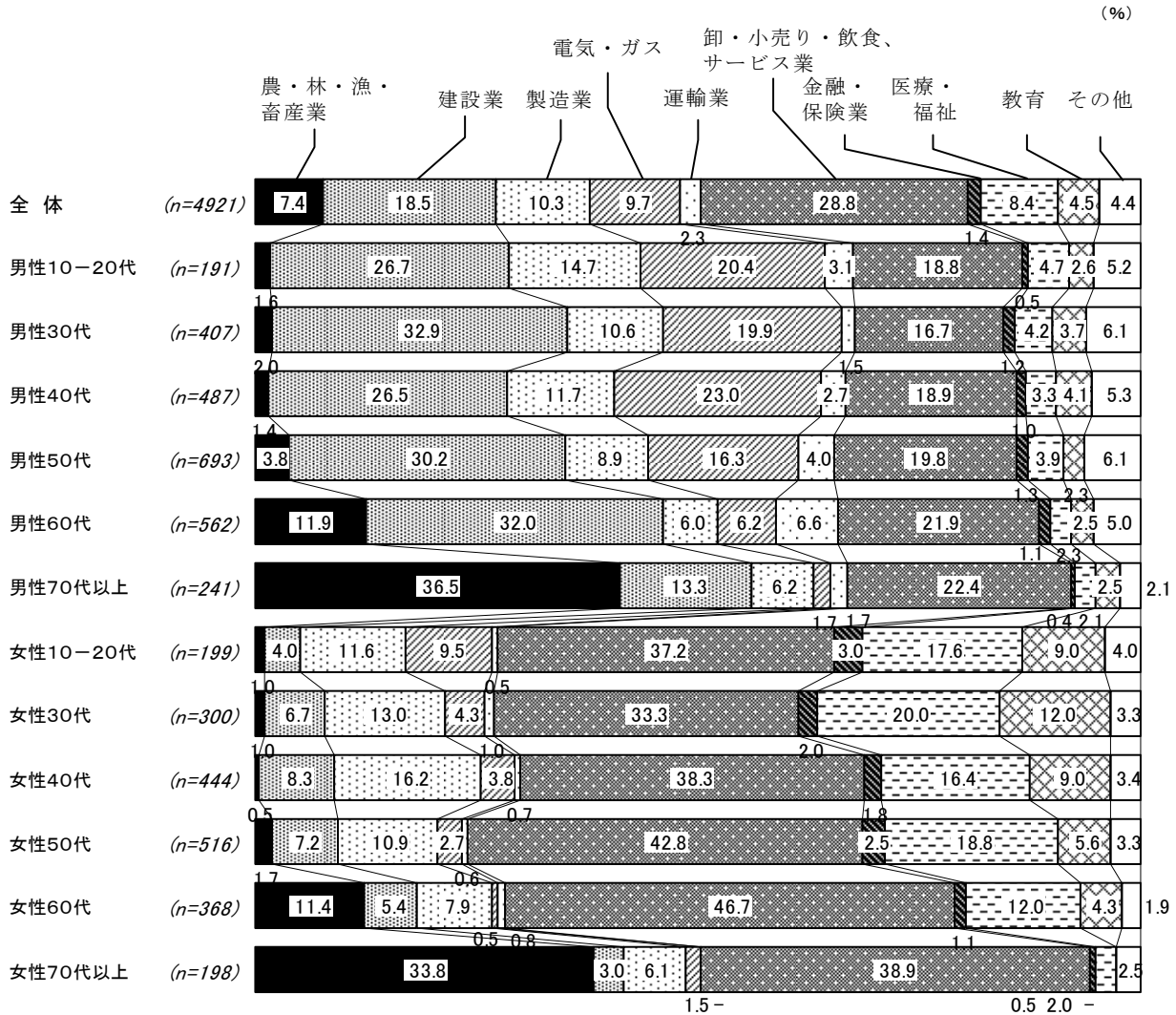




性・年代別に有職者の業種を見ると、「農・林・漁・畜産業」は男女とも高年齢層(特に 70 代以上)の従事者が多く、男性 70 代以上で 36.5%、女性 70 代以上で 33.8%である。「卸・小売り・飲食、サービス業」は、女性のいずれの層でも 3 割を超えているが、女性 50-60 代の層では 4 割を超えている。「電気・ガス」は男性 40 代以下で 2 割程度を占め、他の性・年代に比べ多くなっている。「医療・福祉」、「教育」は全般に男性より女性に多いが、特に女性 30 代では「医療・福祉」20.0%、「教育」12.0%を占めている。(図表 1-3-2②)

図表 1-3-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

②業種



(4) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域および移動手段

1) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域

問 4 あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

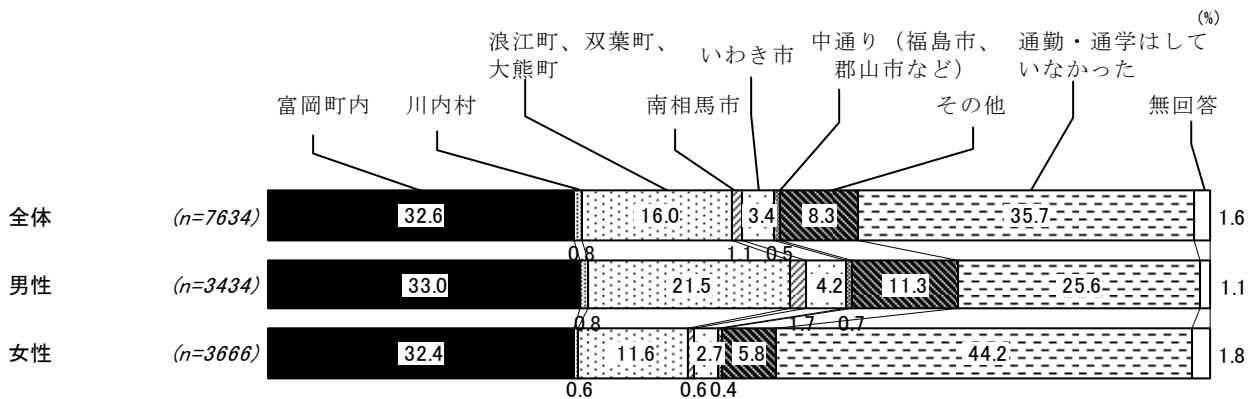
(1) 通勤・通学先(○は1つ)

(2) 通勤・通学していた方は、その移動手段(○はいくつでも)

震災発生当時まで通勤・通学していた地域を見ると、「富岡町内」が 32.6%で最も多く、次いで「浪江町、双葉町、大熊町」(16.0%)となっている。「通勤・通学はしていなかった」は、35.7%である。

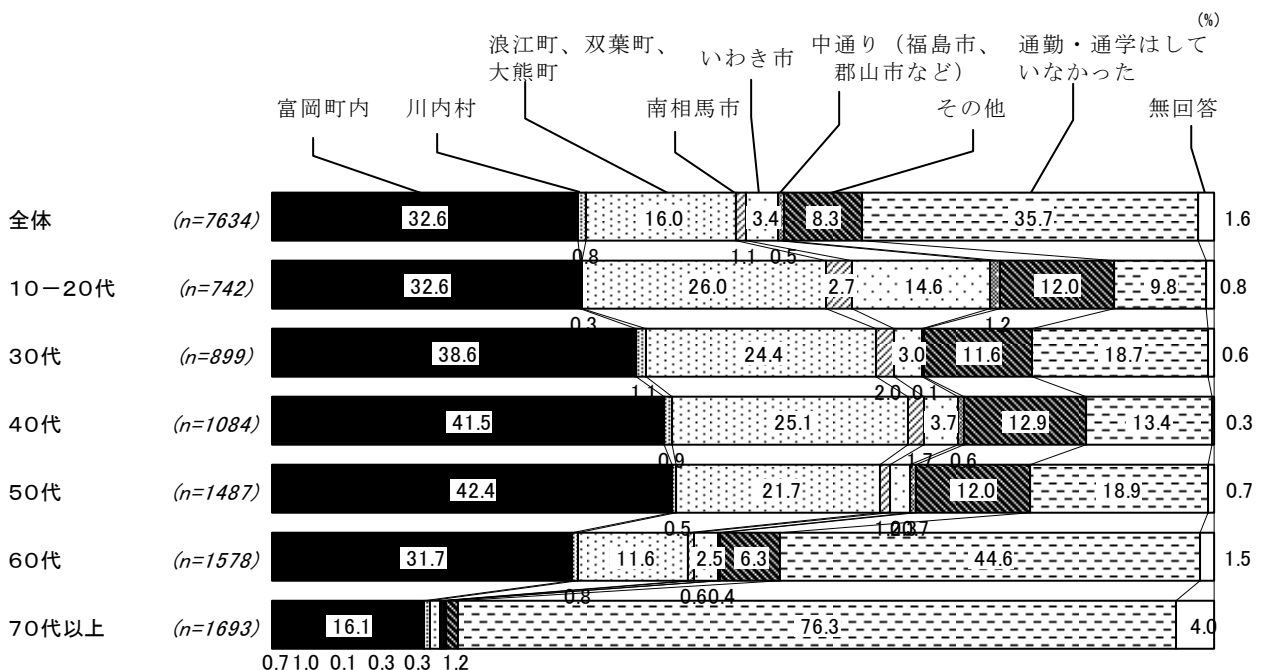
男女別に見ると、男性では女性に比べて、「浪江町、双葉町、大熊町」(男性 21.5%、女性 11.6%)に通勤・通学していた割合が高い。「通勤・通学はしていなかった」は、男性で 25.6%、女性で 44.2%である。(図表 1-4-1)

図表 1-4-1 震災発生当時まで通勤・通学していた地域(男女別)



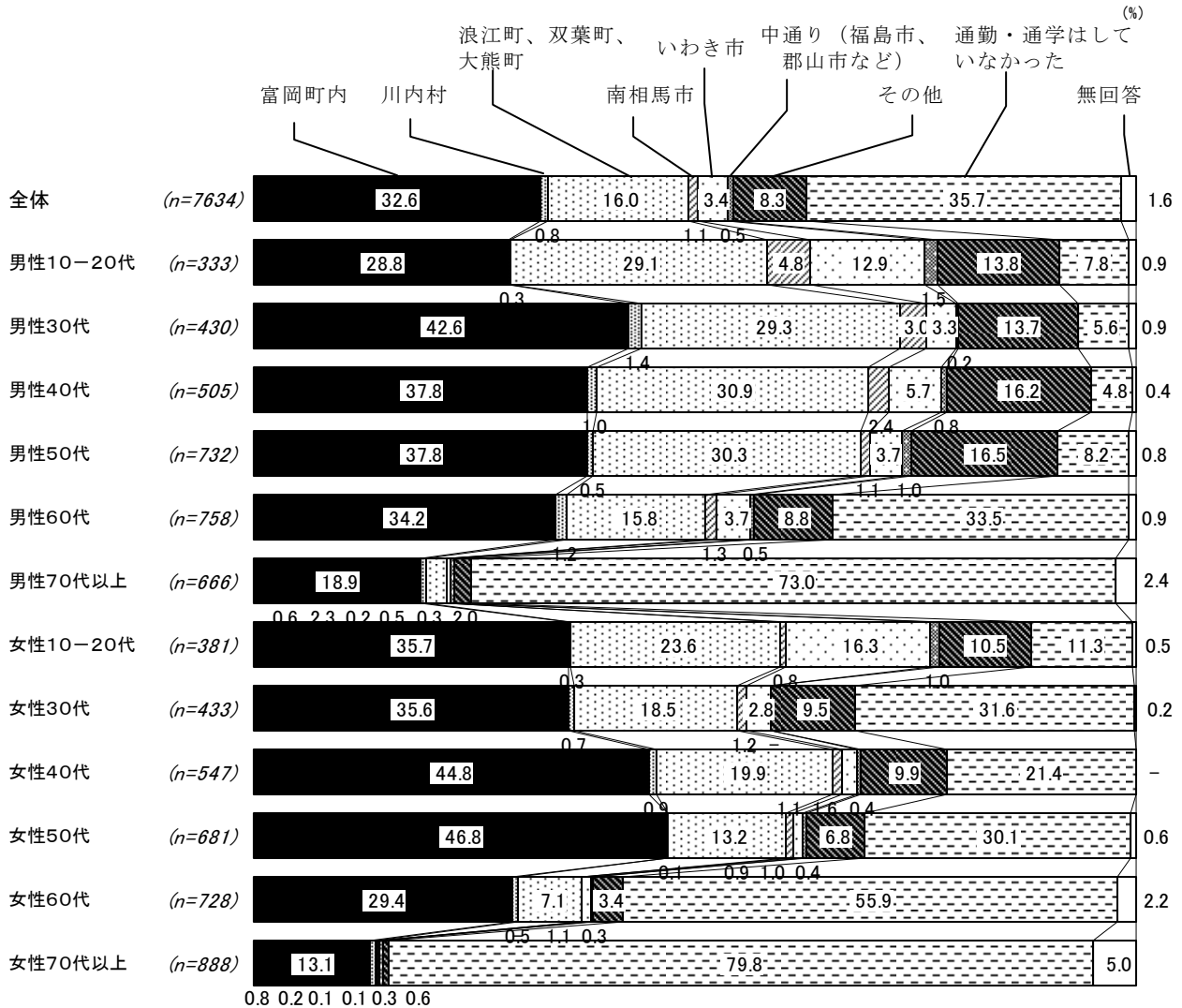
年代別に見ると、若年齢層では富岡町外への通勤・通学も多くみられる。特に 10-20 代では、「浪江町、双葉町、大熊町」(26.0%)、「いわき市」(14.6%)、など富岡町外の合計が 5 割を超え、「富岡町内」(32.6%)を大きく上回っている。「通勤・通学はしてなかった」は、70 代以上で 76.3%である。(図表 1-4-2)

図表 1-4-2 震災発生当時まで通勤・通学していた地域(年代別)



性・年代別に見ると、男性50代以下の層と女性10-20代では、「浪江町、双葉町、大熊町」など富岡町外への通勤・通学が半数を超え、多く見られる。特に10-20代では、男女ともに「浪江町、双葉町、大熊町」、「いわき市」など、町外への通勤・通学が、「富岡町内」を大きく上回っている。(図表 1-4-3)

図表 1-4-3 震災発生当時まで通勤・通学していた地域(性・年代別)

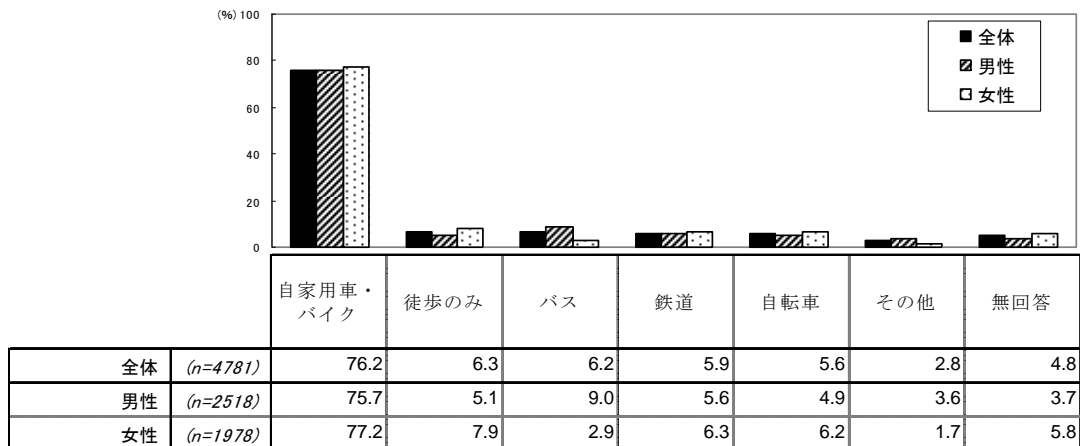


2) 震災発生当時までの通勤・通学手段

震災発生当時まで通勤・通学していた人(4,781人)に、通勤・通学の移動手段を聞いたところ、「自家用車・バイク」が76.2%と、他の手段に比べ圧倒的に多い。(図表 1-4-4)

男女別に見て、大きな差はみられない。(図表 1-4-4)

図表 1-4-4 震災発生当時、通勤・通学の移動手段(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも「自家用車・バイク」が最も多いが、男女とも10-20代では「鉄道」も比較的多く、3割前後となっている。また、女性10-20代と女性70代以上では「徒歩のみ」、男性の50代以下では「バス」が、他の性・年代層に比べやや多い。(図表 1-4-5)

図表 1-4-5 震災発生当時、通勤・通学の移動手段(性・年代別)

		自家用車・バイク	徒歩のみ	バス	鉄道	自転車	その他	無回答
全体	(n=4781)	76.2	6.3	6.2	5.9	5.6	2.8	4.8
男性10-20代	(n=304)	52.6	6.3	11.2	29.3	18.1	2.0	1.3
男性30代	(n=402)	83.8	3.5	8.5	1.5	4.7	3.5	0.2
男性40代	(n=479)	79.3	5.8	14.0	2.3	2.5	2.9	1.3
男性50代	(n=666)	78.5	4.8	10.2	2.6	2.7	4.4	3.2
男性60代	(n=497)	81.3	4.4	4.4	2.8	2.2	4.0	4.6
男性70代以上	(n=164)	59.8	8.5	1.2	1.8	4.9	3.7	23.2
女性10-20代	(n=336)	57.4	13.7	6.3	31.0	13.4	1.5	1.5
女性30代	(n=295)	90.8	4.1	2.4	2.0	2.0	1.0	1.0
女性40代	(n=430)	88.6	5.6	2.3	1.4	3.7	1.4	1.4
女性50代	(n=472)	87.5	6.1	1.9	0.6	5.5	1.3	2.5
女性60代	(n=305)	74.4	7.9	1.3	1.3	5.2	2.6	11.5
女性70代以上	(n=135)	30.4	15.6	5.2	0.7	10.4	3.7	39.3

通勤・通学者(4,781人)の通勤・通学先別に移動手段を見ると、いずれの通勤・通学先においても「自家用車・バイク」が6割を超えて最も多いが、「バス」の利用は、いわき市通勤・通学者では41.6%、南相馬市通勤・通学者では25.0%で、他の通勤・通学先に比べて多い。(図表 1-4-6)

図表 1-4-6 震災発生当時、通勤・通学の移動手段(通勤・通学先別)

		自家用車・バイク	徒歩のみ	バス	鉄道	自転車	その他	無回答
通勤・通学していた	(n=4781)	76.2	6.3	6.2	5.9	5.6	2.8	4.8
富岡町内	(n=2485)	74.9	4.1	0.6	7.2	10.8	2.5	6.8
川内村	(n=58)	84.5	-	-	3.4	-	1.7	12.1
浪江町、双葉町、大熊町	(n=1221)	81.2	10.6	7.0	4.0	1.0	3.2	0.4
南相馬市	(n=84)	77.4	-	25.0	6.0	1.2	-	-
いわき市	(n=257)	63.8	6.2	41.6	6.2	1.9	0.8	2.7
中通り(福島市、郡山市など)	(n=40)	67.5	5.0	12.5	2.5	7.5	2.5	15.0

(5) 震災発生当時まで買物をしてきた場所および移動手段

1) 震災発生当時まで買物をしてきた場所

問 5 あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしてきた場所(市町村)と、店舗までの移動手段を教えてください。

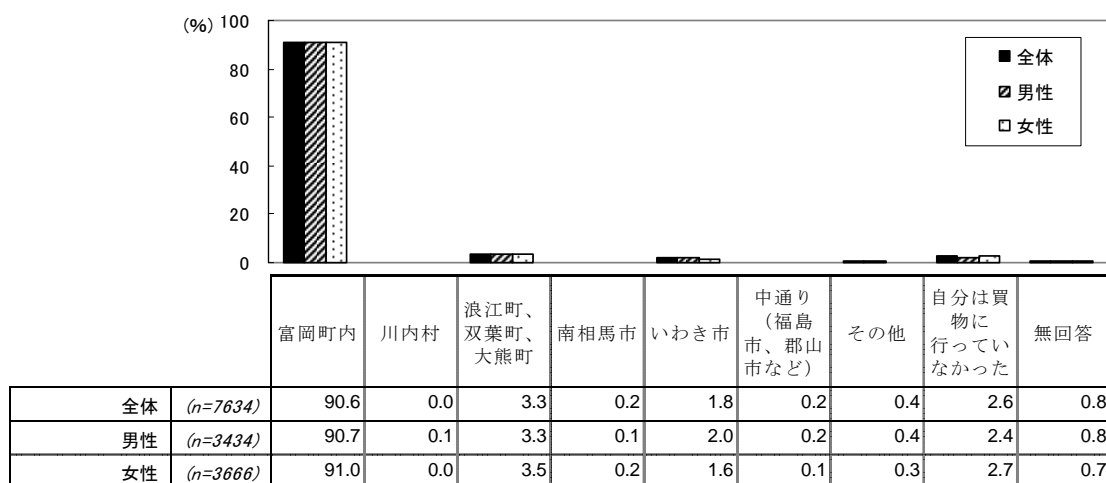
(1) もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ)

(2) もっともよく行っていた買物場所へ行く際に利用していた移動手段をすべて教えてください。(○はいくつでも)

震災発生当時まで日常の生鮮食料品や日用品の買物をしてきた場所(市町村)を聞いたところ、「富岡町内」が90.6%と多数を占め、富岡町外では「浪江町、双葉町、大熊町」が3.3%、「いわき市」が1.8%ほどみられるにすぎない。「自分は買物に行っていなかった」は2.6%である。(図表 1-5-1)

男女別、性・年代別に見ても、ほとんど違いはみられない。(図表 1-5-1) (図表 1-5-2)

図表 1-5-1 震災発生当時まで最もよく買物に行っていた市町村(男女別)



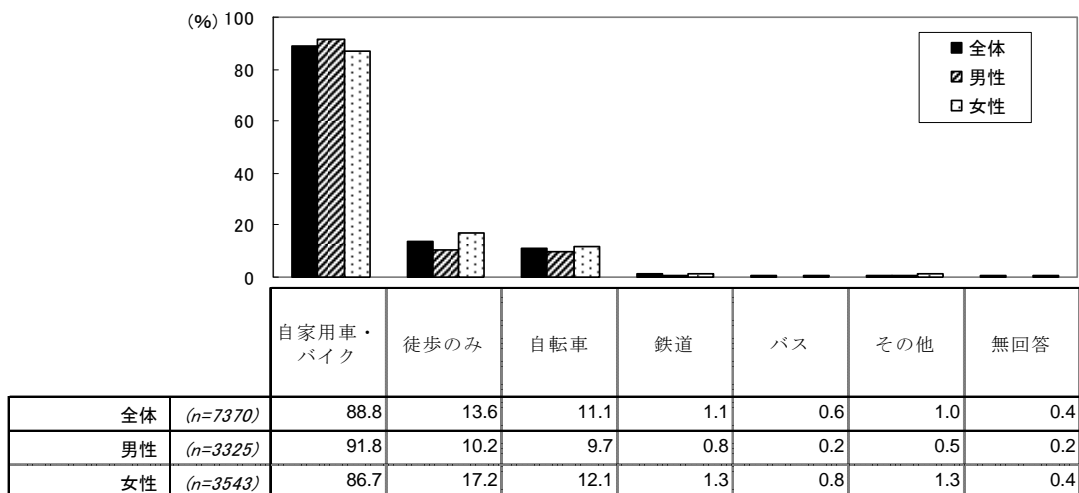
図表 1-5-2 震災発生当時まで最もよく買物に行っていた市町村(性・年代別)

		富岡町内	川内村	浪江町、 双葉町、 大熊町	南相馬市	いわき市	中通り (福島 市、郡山 市など)	その他	自分は買 物に 行ってい なかつた	無回答
全体	(n=7634)	90.6	0.0	3.3	0.2	1.8	0.2	0.4	2.6	0.8
男性10-20代	(n=333)	81.7	-	4.8	-	6.0	0.9	1.8	4.2	0.6
男性30代	(n=430)	87.4	-	5.6	0.2	3.7	0.2	0.2	1.9	0.7
男性40代	(n=505)	92.5	0.2	3.8	-	1.8	0.2	0.2	1.2	0.2
男性50代	(n=732)	92.8	-	3.3	-	1.4	-	0.4	1.6	0.5
男性60代	(n=758)	92.9	0.1	2.6	0.1	0.9	0.3	0.4	2.0	0.7
男性70代以上	(n=666)	91.0	-	1.8	0.3	0.8	0.2	0.2	4.2	1.7
女性10-20代	(n=381)	85.3	0.3	3.4	0.5	5.8	0.3	1.8	2.6	-
女性30代	(n=433)	89.8	-	7.2	0.5	1.2	-	0.2	1.2	-
女性40代	(n=547)	95.6	-	3.1	0.2	0.9	-	-	-	0.2
女性50代	(n=681)	94.1	-	4.4	0.1	1.2	-	-	0.1	-
女性60代	(n=728)	94.0	-	3.4	0.3	1.0	-	0.1	0.8	0.4
女性70代以上	(n=888)	86.3	-	1.1	-	1.1	0.3	0.2	8.6	2.4

## 2) 震災発生当時までの買物の交通手段

自分で買物に行っていた人(7,370人)に店舗までの移動手段を複数回答で聞いたところ、「自家用車・バイク」(88.8%)が9割弱を占め、「徒歩のみ」(13.6%)と「自転車」(11.1%)は各々約1割である。女性は、「徒歩のみ」(17.2%)、「自転車」(12.1%)など、「自家用車・バイク」以外の手段による移動が、男性に比べやや多い。(図表 1-5-3)

図表 1-5-3 震災発生当時、最もよく買物に行く先の移動手段(男女別)



性・年代別に見ると、「徒歩のみ」は女性70代以上(31.0%)と女性10-20代(21.0%)で比較的多く、「自転車」は男性10-20代(26.5%)と女性70代以上(21.1%)などで比較的多くなっている。(図表 1-5-4)

図表 1-5-4 震災発生当時、最もよく買物に行く先の移動手段(性・年代別)

		(%)						
		自家用車・バイク	徒歩のみ	自転車	鉄道	バス	その他	無回答
全体	(n=7370)	88.8	13.6	11.1	1.1	0.6	1.0	0.4
男性10-20代	(n=317)	75.1	13.9	26.5	4.7	0.6	-	-
男性30代	(n=419)	95.5	6.2	7.4	0.5	0.2	-	-
男性40代	(n=498)	95.8	9.2	6.8	0.2	-	-	-
男性50代	(n=716)	94.7	8.1	5.7	0.3	0.1	0.1	0.1
男性60代	(n=738)	95.5	9.6	6.8	0.3	-	0.7	0.1
男性70代以上	(n=627)	87.1	14.8	12.8	1.0	0.5	1.9	0.8
女性10-20代	(n=371)	82.5	21.0	16.7	4.0	0.3	-	0.5
女性30代	(n=428)	96.0	11.0	5.1	-	-	0.2	-
女性40代	(n=546)	95.2	9.3	7.0	0.4	0.2	-	0.2
女性50代	(n=680)	94.6	9.7	8.1	0.9	0.6	0.4	0.1
女性60代	(n=719)	91.4	16.4	11.7	1.1	0.7	0.7	0.3
女性70代以上	(n=791)	66.6	31.0	21.1	1.8	2.0	4.6	0.9

買物利用者(7,370人)の最多買い物先別の利用交通手段としては、いずれの買物先においても圧倒的に多いのは「自家用車・バイク」であるが、富岡市内の買物において、「鉄道」は11.5%「自転車」は14.1%でいずれも1割台の利用率となっている。いわき市への買物において、「バス」は19.9%の利用となっている。(図表 1-5-5)

図表 1-5-5 震災発生当時、最もよく買物に行く先の移動手段(買物先別)

		自家用車・バイク	徒歩のみ	バス	鉄道	自転車	その他	無回答
買物していた	(n=7370)	88.8	0.6	1.1	11.1	13.6	1.0	0.4
富岡町内	(n=6919)	88.9	0.5	0.6	11.5	14.1	1.0	0.4
川内村	(n=3)	100.0	-	-	-	-	-	-
浪江町、双葉町、大熊町	(n=255)	96.9	0.4	1.2	3.1	2.0	1.2	0.4
南相馬市	(n=14)	92.9	7.1	14.3	7.1	14.3	-	-
いわき市	(n=136)	82.4	5.9	19.9	8.1	5.1	-	0.7
中通り(福島市、郡山市など)	(n=14)	64.3	7.1	-	14.3	42.9	7.1	-

(%)



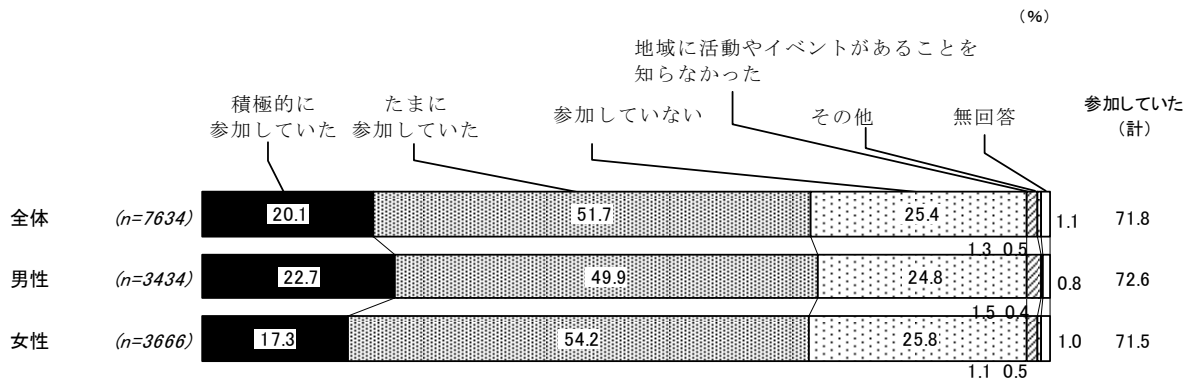
(6) 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況

問6 震災前の富岡町で、あなたは、地域の活動や町内イベントに参加していましたか。(〇は1つ)

震災発生前の富岡町でのコミュニティ活動や町内イベントの参加状況を尋ねたところ、「積極的に参加していた」という回答者は20.1%で、「たまに参加していた」(51.7%)を合わせると、7割以上が参加していた。(図表1-6-1)

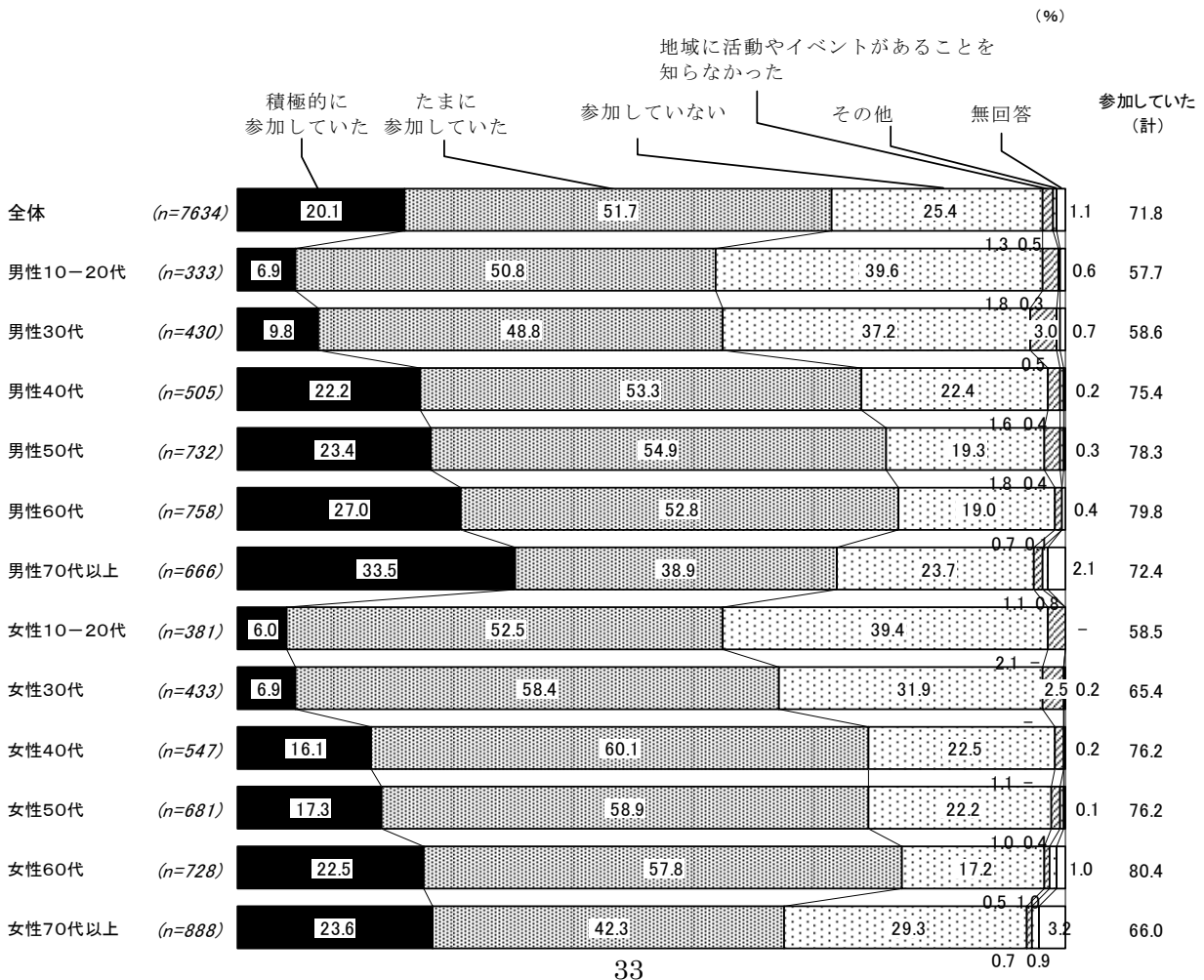
男女別に見ると、男女とも7割以上が『参加していた』と答えている。「積極的に参加していた」は女性(17.3%)より男性(22.7%)のほうがやや多い。(図表1-6-1)

図表 1-6-1 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(男女別)



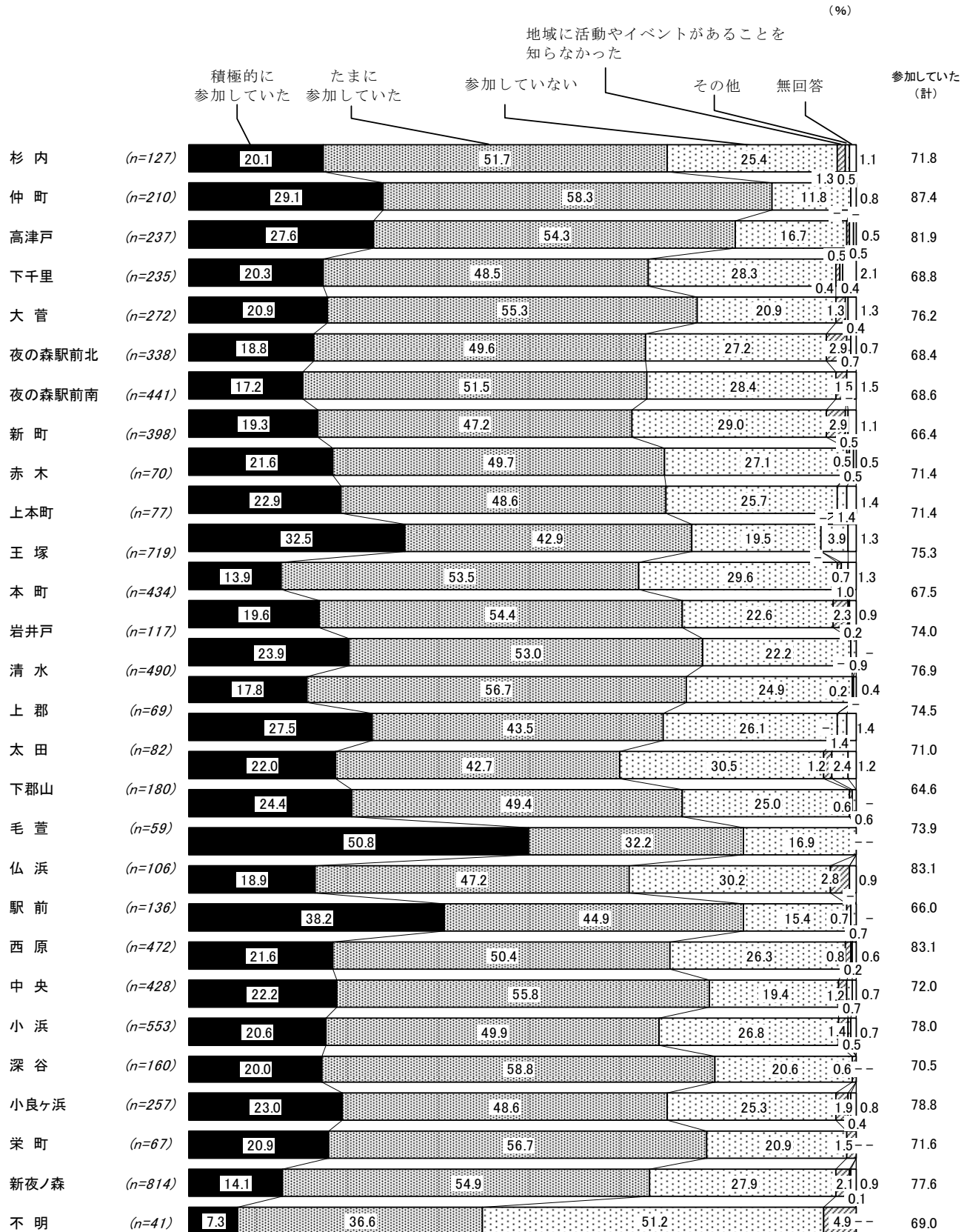
性・年代別に見ると、男女とも高齢層ほど「積極的に参加していた」という回答が多い(男性70代以上33.5%、女性70代以上23.6%)。一方、「参加していない」という回答は、男性30代以下と女性30代以下で3割以上みられ、他の性・年代より多くなっている。(図表1-6-2)

図表 1-6-2 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(性・年代別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、いずれの地区でも参加経験者が6割以上の多数を占めているが、「積極的に参加していた」という回答者は、毛萱(50.8%)、駅前(38.2%)、上本町(32.5%)、杉内(29.1%)の順に多い。(図表 1-6-3)

図表 1-6-3 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(震災発生当時の居住地区別)



(7) 震災発生当時の介護・福祉サービス利用

問7 震災発生時に、あなたは介護や福祉サービスを受けていましたか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも)

震災発生時に介護や福祉サービスを受けていたかどうかを聞いたところ、「サービスを受けていなかった」が90.7%で、いずれかのサービスを受けていたとの回答は3.5%である。介護福祉サービスの内容としては、「通所系サービスを受けていた(デイサービス等)」が1.9%、「訪問系サービスを受けていた(ホームヘルプサービス等)」が1.0%、「施設・居住系サービスを受けていた(介護施設への入所など)」が0.7%となっている。(図表1-7-1)

性・年代別に見ると、いずれかのサービスを受けていたとの回答は、女性70代以上で14.3%、男性70代以上で5.7%で、他の性年代層に比べて多い。男女70代の利用サービス内容として最も多いのは、「通所系サービスを受けていた(デイサービス等)」で、男性2.7%、女性7.2%である。(図表1-7-1)

図表 1-7-1 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた方の有無(性年代別)

		(%)						サービスを受けていた(計)
		通所系サービスを受けていた(デイサービス等)	訪問系サービスを受けていた(ホームヘルプサービス等)	施設・居住系サービスを受けていた(介護施設への入所など)	その他	サービスを受けていなかった	無回答	
全体	(n=7634)	1.9	1.0	0.7	0.4	90.7	5.8	3.5
男性10-20代	(n=333)	0.3	-	0.3	-	97.3	2.1	0.6
男性30代	(n=430)	0.7	-	0.2	-	96.5	2.6	0.9
男性40代	(n=505)	0.6	-	0.4	-	95.2	3.8	1.0
男性50代	(n=732)	-	0.4	0.1	0.3	95.8	3.4	0.8
男性60代	(n=758)	1.2	0.7	0.7	0.4	91.3	6.7	2.0
男性70代以上	(n=666)	2.7	1.5	1.1	0.9	85.6	8.7	5.7
女性10-20代	(n=381)	0.5	-	0.3	-	96.6	2.9	0.5
女性30代	(n=433)	1.4	0.5	0.2	-	97.0	1.4	1.6
女性40代	(n=547)	0.5	-	-	-	96.9	2.6	0.5
女性50代	(n=681)	0.3	0.4	-	0.6	93.0	5.9	1.2
女性60代	(n=728)	0.8	0.7	0.5	0.3	90.5	7.8	1.6
女性70代以上	(n=888)	7.2	4.8	3.0	1.5	77.1	8.6	14.3

## 2. 現在の避難状況

### (1) 世帯の避難状況(現在世帯主または世帯の代表)

#### 1) 分散状況

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 46 現在の世帯構成についてうかがいます。

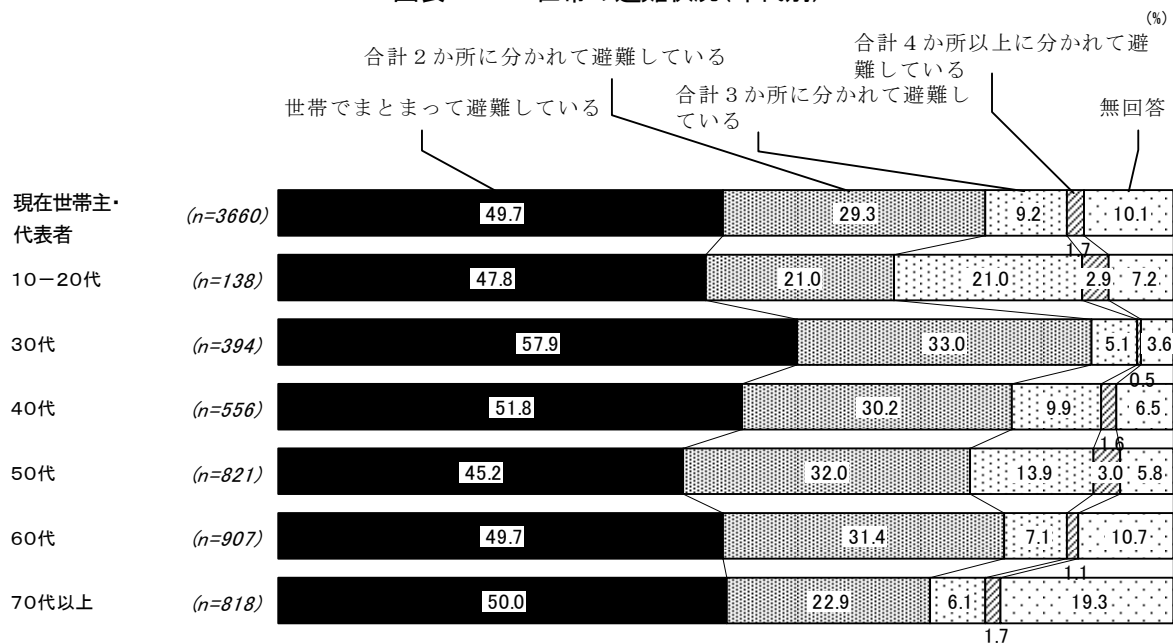
(4)現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時一緒にお住まいであった世帯のご家族でまとまって避難していますか。

(○は1つ)

現在世帯主(または代表者、3,660 人)に避難状況を聞いたところ、「世帯でまとまって避難している」のは 49.7%とほぼ半数を占める。複数か所に分かれて避難している分散世帯は、「合計 2 か所に分かれて避難している」(29.3%)、「合計 3 か所に分かれて避難している」(9.2%)、「合計 4 か所以上に分かれて避難している」(1.7%)で、合計 40.2%となっている。(図表 2-1-1)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、「世帯でまとまって避難している」という回答は、30 代(57.9%)で最も多く、40代(51.8%)がこれに次いでいる。50代(45.2%)が最も少ない。10-20代では、「合計 3 か所に分かれて避難している」が 21.0%、「合計 4 か所以上に分かれて避難している」が 2.9%であり、他の年齢層に比べて多くの箇所分散している傾向が見られる。(図表 2-1-1)

図表 2-1-1 世帯の避難状況(年代別)



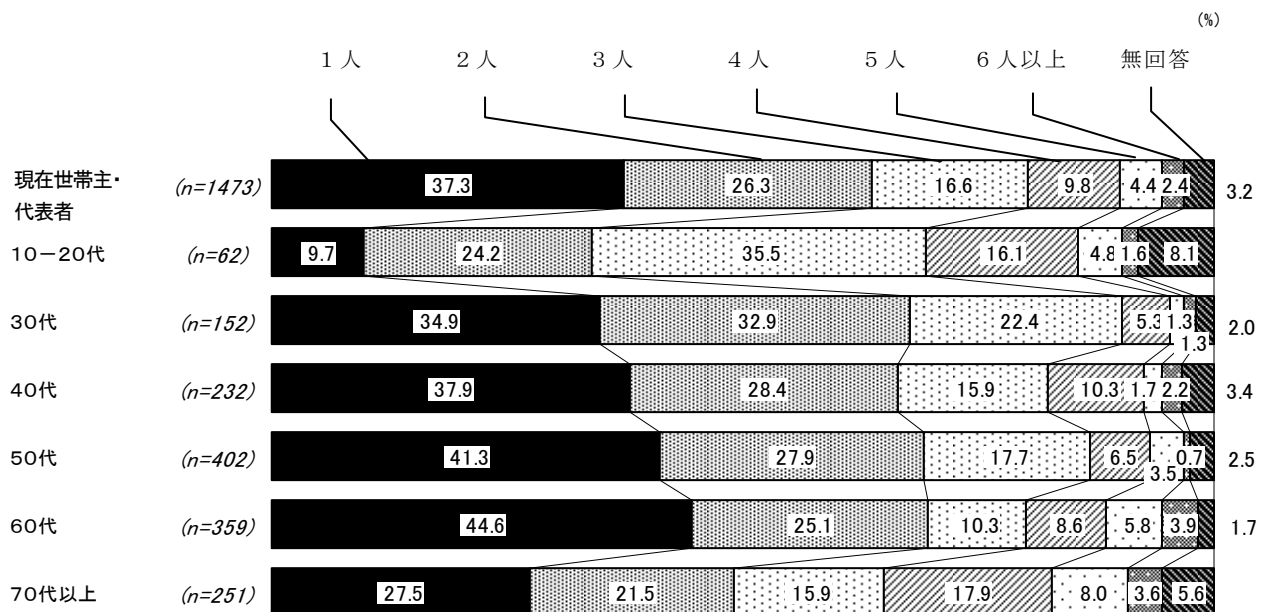
2) 別居家族人数(分散避難世帯)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にかかっています。】  
 【問 46(4)で「2」「3」「4」と回答した方(分散して避難している方)にかかっています。】  
 (5) 現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。(具体的に)

複数か所に分かれて避難している分散世帯の世帯主(または代表者、1,473 人)に別居家族人数を聞いたところ、「1 人」が 37.3%と最も多く、以下、「2 人」(26.3%)、「3 人」(16.6%)、「4 人」(9.8%)、「5 人」(4.4%)、「6 人以上」(2.4%)となっている。(図表 2-1-2)

年代別に見ると、60 代以下では若年齢層ほど別居人数が多く、10-20 代では「3 人」(35.5%)、「4 人」(16.1%)、「5 人」(4.8%)、「6 人以上」(1.6%)の合計で 58.1%と半数以上を占めるのに対し、60 代では「1 人」が 44.6%で半数近い。(図表 2-1-2)

図表 2-1-2 別居している方の人数(年代別)



(2) 現在の世帯構成

1) 現在の同居家族人数、学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

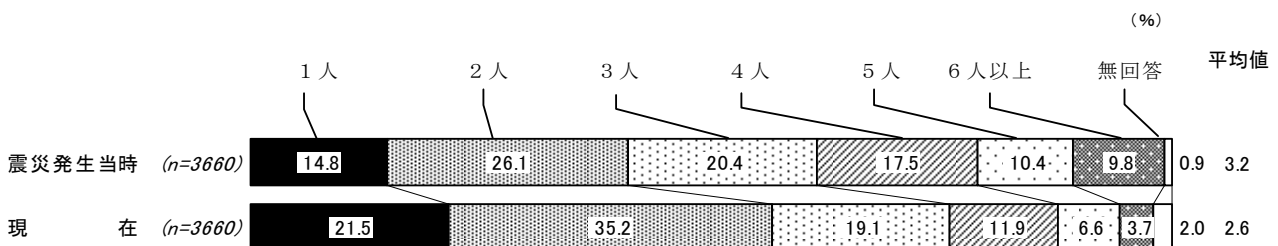
問 46 現在の世帯構成についてうかがいます。

(1)現在、あなたがお住まいの住宅のご同居家族数を、あなた自身を含めて教えてください。同居していないご家族は除いてご回答ください。(具体的に)

(2)現在、一緒にお住まいの方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。現在の学齢・年齢でご回答ください。同居していないご家族は除いてご回答ください。(〇はいくつでも)

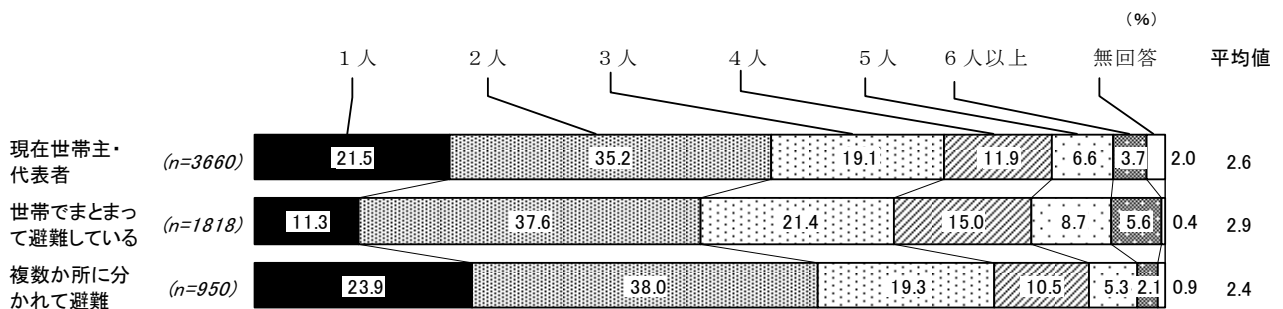
現在世帯主(または代表者、3,660 人)の現在の同居家族人数を見ると、「2 人」が 35.2%で最も多く、次いで「1 人」が 21.5%となっており、2 人以下で半数を超える(56.7%)。震災発生当時は、「2 人」が 26.1%、「1 人」が 14.8%であり、2 人以下の構成比率は震災後に 16 ポイント上昇している(2 人以下の世帯;震災発生当時 40.9%、現在 56.7%)。平均同居家族人数も、震災発生当時 3.2 人から、現在では 2.6 人になっている。(図表 2-2-1)

図表 2-2-1 世帯構成(現在世帯主・代表者)



世帯の避難状況別に見ると、世帯でまとまって避難している世帯の平均同居家族人数は 2.9 人で、複数か所に分かれて避難している世帯の平均同居家族人数は 2.4 人に比べて多い。特に 4 人以上の大人数のケースが多くなっている。「1 人」は、世帯でまとまって避難している(11.3%)よりも、複数か所に分かれて避難(23.9%)で多くなっている。(図表 2-2-2)

図表 2-2-2 現在の世帯構成(世帯の避難状況別)



現在世帯主(または代表者、3,660 人)の現在の家族の状況としては、現在 65 歳以上の高齢者がいる世帯は 45.7%、15~64 歳(中高生を除く)の同居者がいる世帯は 78.8%である。また、「未就学児(小学校入学前)」がいる世帯は 8.7%、小学生、中学生、高校生のいる世帯はそれぞれ 10.6%、7.4%、7.3%となっている。「高校生以下の子どもあり」は、震災発生当時 31.1%が現在は 24.2%で、7 ポイント低下し、「高齢者のみ世帯」は震災発生当時 15.5%が現在 20.4%で 5 ポイント上昇している。(図表 2-2-3)

図表 2-2-3 現在の世帯構成

		(%)						
		未就学児 (小学校 入学前)	小学生	中学生	高校生	15～64歳 の方(中 高生を除 く)	65歳以上 の方	無回答
震災発生当時	(n=3660)	12.1	14.3	9.3	9.3	82.0	47.0	1.5
現在	(n=3660)	8.7	10.6	7.4	7.3	78.8	45.7	0.2

		(%)								
		未就学児 の子ども あり	小学生の 子どもあ り	小中学生 の子ども あり	小中高校 生の子ども もあり	高校生以 下の子ども もあり	65歳以上 の方あり	高齢者の み世帯	その他	無回答
震災発生当時	(n=3660)	12.1	14.3	19.9	24.4	31.1	47.0	15.5	31.6	1.5
現在	(n=3660)	8.7	10.6	14.9	19.3	24.2	45.7	20.4	36.0	0.2

世帯の避難状況別に見ると、「高校生以下の子どもあり」は、世帯でまとまって避難している世帯(30.0%)のほうが、複数か所に分かれて避難している世帯(22.3%)よりもやや多い。「65歳以上の方あり」は、世帯でまとまって避難している世帯では48.7%とほぼ半数を占め、複数か所に分かれて避難している世帯(38.6%)よりも多くなっている。(図表 2-2-4)

図表 2-2-4 現在の世帯構成(世帯の避難状況別)

		(%)						
		未就学児 (小学校 入学前)	小学生	中学生	高校生	15～64歳 の方(中 高生を除 く)	65歳以上 の方	無回答
現在世帯主・ 代表者	(n=3660)	8.7	10.6	7.4	7.3	78.8	45.7	0.2
世帯でまとまって 避難している	(n=1818)	12.5	13.0	9.2	8.2	81.6	48.7	0.1
複数か所に分か れて避難	(n=1473)	6.0	10.0	6.7	7.9	83.0	38.6	0.2

		(%)								
		未就学児 の子ども あり	小学生の 子どもあ り	小中学生 の子ども あり	小中高校 生の子ども もあり	高校生以 下の子ども もあり	65歳以上 の方あり	高齢者の み世帯	その他	無回答
現在世帯主・ 代表者	(n=3660)	8.7	10.6	14.9	19.3	24.2	45.7	20.4	36.0	0.2
世帯でまとまって 避難している	(n=1818)	12.5	13.0	18.3	22.8	30.0	48.7	17.5	29.5	0.1
複数か所に分か れて避難	(n=1473)	6.0	10.0	14.0	19.3	22.3	38.6	16.3	43.4	0.2

2)現在の住まいでのペット飼育(現在世帯主または世帯の代表)

【問 42 で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】  
 問 46(3) 現在のお住まいでは、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在世帯主(または代表者、3,660人)に現在の住まいでのペット飼育状況を聞いたところ、「ペットは飼っていない」が75.4%で、震災発生当時より18.1ポイント減少している。ペットの種類としては、「犬を飼っている」が13.0%、「猫を飼っている」が5.8%、などとなっている。(図表 2-2-5)

震災発生当時はいずれかのペットを飼っていたのは38.9%であったのに対し、現在では19.8%で、19ポイント低下している。(図表 2-2-5)

図表 2-2-5 ペット飼育

		(%)					
		ペットは飼っていない	犬を飼っている	猫を飼っている	その他のペットを飼っている	無回答	ペットを飼っている(計)
震災発生当時	(n=3660)	57.3	25.2	14.0	7.1	3.8	38.9
現在	(n=3660)	75.4	13.0	5.8	3.0	4.8	19.8

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、40-60代の層では、いずれかのペットを飼っている人が2割を超えており、前後の層よりも多い。(図表 2-2-6)

図表 2-2-6 現在のペット飼育(年代別)

		(%)					
		ペットは飼っていない	犬を飼っている	猫を飼っている	その他のペットを飼っている	無回答	ペットを飼っている(計)
現在世帯主・代表者	(n=3660)	75.4	13.0	5.8	3.0	4.8	19.8
10-20代	(n=138)	81.2	10.1	3.6	4.3	1.4	17.4
30代	(n=394)	80.2	9.9	4.3	5.1	2.3	17.5
40代	(n=556)	72.3	13.3	7.7	5.6	4.3	23.4
50代	(n=821)	72.8	17.3	6.5	2.3	2.9	24.2
60代	(n=907)	74.5	13.7	7.1	2.1	4.3	21.2
70代以上	(n=818)	78.0	9.5	3.3	1.7	9.0	13.0



現在居住住居の所有形態別に見ると、家族どなたかの住まい・実家、持ち家(家族または本人所有)では、いずれかのペットを飼っている人が4割を超えて多いのに対して、民間賃貸(有償)では21.1%、応急仮設住宅(プレハブ型)では21.0%、応急仮設住宅(借り上げ型)では17.9%、給与住宅(社宅、公務員宿舎など)では12.3%、公営住宅(有償)では9.2%となっており、所有形態による違いが見られる。(図表2-2-7)

図表 2-2-7 現在のペット飼育(現在住居所有形態別)

		(%)					
		ペットは飼っていない	犬を飼っている	猫を飼っている	その他のペットを飼っている	無回答	ペットを飼っている(計)
現在世帯主・代表者	(n=3660)	75.4	13.0	5.8	3.0	4.8	19.8
応急仮設住宅(プレハブ型)	(n=624)	70.8	13.9	6.4	2.4	8.2	21.0
応急仮設住宅(借り上げ型)	(n=1726)	78.6	11.7	4.9	3.2	3.5	17.9
民間賃貸(有償)	(n=697)	75.0	12.5	6.9	3.2	3.9	21.1
公営住宅(有償)	(n=65)	84.6	6.2	3.1	1.5	6.2	9.2
給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	(n=146)	82.9	6.8	2.7	2.7	4.8	12.3
家族どなたかの住まい・実家	(n=69)	59.4	27.5	11.6	4.3	-	40.6
親戚・知人宅	(n=79)	69.6	16.5	5.1	5.1	6.3	24.1
持ち家(家族または本人所有)	(n=151)	55.6	31.8	12.6	3.3	4.0	40.4
応急仮設住宅(計)	(n=2350)	76.6	12.3	5.3	3.0	4.7	18.7
応急仮設住宅以外(計)	(n=1264)	73.3	14.4	6.8	3.1	4.6	22.2

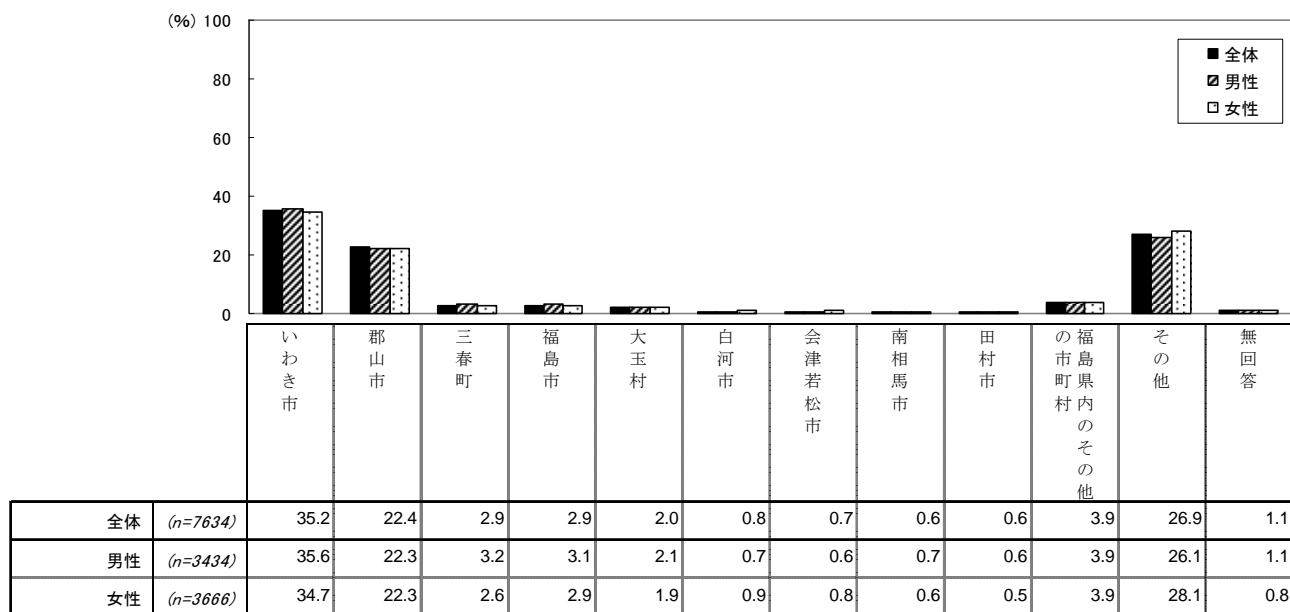
(3) 現在避難している先の自治体

問8 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

現在の避難先自治体としては、「いわき市」が35.2%で最も多く、2割台で「郡山市」(22.4%)がそれに続き、「三春町」、「福島市」(ともに2.9%)が以下の自治体を引き離して多い。福島県外に避難している割合は26.9%である。(図表2-3-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表2-3-1)

図表 2-3-1 現在避難している先の自治体(福島県内)(男女別)



性・年代にかかわらず、福島県内の避難先としては「いわき市」が最も多い。「郡山市」は、男女とも高年齢層で多く、男性60代(26.1%)、男性70代以上(27.9%)、女性60代(27.6%)、女性70代以上(26.0%)となっている。また、若年齢層では福島県外への避難も比較的多く、男女ともに、10-30代では、3割以上が県外に避難している。(図表2-3-2)

図表 2-3-2 現在避難している先の自治体(福島県内)(性・年代別)

		いわき市	郡山市	三春町	福島市	大玉村	白河市	会津若松市	南相馬市	田村市	福島県内の他の市町村	その他	無回答
全体	(n=7634)	35.2	22.4	2.9	2.9	2.0	0.8	0.7	0.6	0.6	3.9	26.9	1.1
男性10-20代	(n=333)	35.7	16.8	0.6	3.0	1.8	0.9	0.9	1.5	1.2	2.4	33.3	1.8
男性30代	(n=430)	36.0	15.3	2.6	4.9	0.7	0.5	1.2	0.5	0.9	3.5	32.8	1.2
男性40代	(n=505)	39.6	20.2	2.4	1.8	1.4	0.8	0.8	0.4	1.0	3.6	27.1	1.0
男性50代	(n=732)	40.2	21.2	3.1	3.4	2.3	1.0	0.3	1.0	0.5	4.0	22.4	0.7
男性60代	(n=758)	31.4	26.1	3.7	3.6	3.6	0.7	0.7	0.3	0.4	4.2	24.3	1.2
男性70代以上	(n=666)	32.6	27.9	5.0	2.0	2.0	0.5	0.2	0.8	0.3	4.5	23.3	1.2
女性10-20代	(n=381)	39.4	13.6	1.6	1.8	0.5	1.3	0.3	0.5	0.3	3.1	36.2	1.3
女性30代	(n=433)	29.3	17.8	2.5	3.5	0.7	0.7	1.4	0.7	1.4	3.9	37.4	0.7
女性40代	(n=547)	38.4	19.2	2.0	2.4	0.9	1.3	1.5	1.1	0.9	2.7	29.4	0.2
女性50代	(n=681)	38.3	21.7	2.2	3.1	2.5	1.2	0.7	0.9	0.1	5.1	23.6	0.4
女性60代	(n=728)	30.5	27.6	3.3	2.9	2.2	0.8	0.5	0.3	0.3	4.3	26.6	0.7
女性70代以上	(n=888)	33.8	26.0	3.4	3.3	2.9	0.3	0.7	0.3	0.2	3.6	24.0	1.5

震災発生当時の居住地区別に見ると、「いわき市」への避難は、太田(57.3%)、栄町(49.9%)、下郡山(47.8%)、毛萱(45.8%)、清水(43.9%)、西原(40.5%)、本町(40.3%)、赤木(40.0%)、深谷(40.0%)の各地区住民では4割を超えて多い。「郡山市」への避難は、杉内(44.9%)、赤木(34.3%)、岩井戸(32.5%)、上郡(30.4%)の各地区で3割以上となっており、比較的多くみられる。また、福島県外への避難は、「駅前」(38.2%)、「小浜」(31.8%)、「大菅」(31.3%)、「新町」(30.2%)などの各地区世帯では3割以上で、他の居住地区に比べて多くなっている。(図表2-3-3)

図表 2-3-3 現在避難している先の自治体(震災発生当時の居住地区別)

(%)

		いわき市	郡山市	三春町	福島市	大玉村	白河市	会津若松市	南相馬市	田村市	福島県内のその他の市町村	その他	無回答
全体	(n=7634)	35.2	22.4	2.9	2.9	2.0	0.8	0.7	0.6	0.6	3.9	26.9	1.1
杉内	(n=127)	28.3	44.9	3.1	-	3.1	1.6	0.8	-	-	6.3	11.8	-
仲町	(n=210)	37.1	22.4	1.4	6.2	1.4	-	0.5	-	-	2.9	28.1	-
高津戸	(n=237)	30.8	26.6	1.7	2.1	3.8	-	1.7	0.8	0.4	6.3	25.3	0.4
下千里	(n=235)	31.5	22.6	4.3	1.7	5.5	1.7	1.3	-	3.4	3.4	21.3	3.4
大菅	(n=272)	31.3	17.6	3.7	4.8	4.8	1.8	0.7	0.7	0.7	2.2	31.3	0.4
夜の森駅前北	(n=338)	33.1	22.8	1.8	2.7	0.3	0.3	0.9	2.7	0.3	3.8	29.0	2.4
夜の森駅前南	(n=441)	30.2	23.4	3.6	3.6	1.8	0.2	1.4	-	0.7	6.3	26.8	2.0
新町	(n=398)	33.7	23.6	2.8	2.3	1.3	-	0.5	0.3	0.3	4.8	30.2	0.5
赤木	(n=70)	40.0	34.3	1.4	2.9	-	-	-	1.4	-	7.1	11.4	1.4
上本町	(n=77)	28.6	27.3	10.4	-	1.3	2.6	-	-	-	5.2	24.7	-
王塚	(n=719)	32.7	27.1	1.9	1.9	1.4	0.8	0.1	0.8	0.6	3.9	28.0	0.7
本町	(n=434)	40.3	20.7	3.9	4.1	0.9	0.5	0.7	0.5	-	2.5	24.9	0.9
岩井戸	(n=117)	32.5	32.5	4.3	5.1	-	1.7	-	-	-	0.9	22.2	0.9
清水	(n=490)	43.9	18.8	1.6	0.8	2.2	-	0.8	0.6	-	3.7	27.1	0.4
上郡	(n=69)	34.8	30.4	2.9	1.4	7.2	-	4.3	-	1.4	-	15.9	1.4
太田	(n=82)	57.3	14.6	3.7	1.2	-	-	1.2	-	-	4.9	14.6	2.4
下郡山	(n=180)	47.8	21.7	1.1	2.8	-	-	0.6	-	1.1	3.3	21.1	0.6
毛萱	(n=59)	45.8	5.1	8.5	3.4	10.2	3.4	-	-	3.4	5.1	15.3	-
仏浜	(n=106)	36.8	23.6	1.9	2.8	4.7	0.9	-	-	-	3.8	25.5	-
駅前	(n=136)	30.9	11.0	2.9	8.1	3.7	-	-	-	-	2.9	38.2	2.2
西原	(n=472)	40.5	18.4	2.5	2.8	3.0	0.8	0.2	0.4	0.8	3.8	25.8	0.8
中央	(n=428)	33.6	22.4	2.8	4.0	1.6	0.7	0.5	-	-	4.9	28.5	0.9
小浜	(n=553)	34.2	15.2	4.9	4.7	1.3	1.4	0.7	0.9	0.9	3.1	31.8	0.9
深谷	(n=160)	40.0	24.4	5.6	-	0.6	-	-	0.6	1.3	6.9	19.4	1.3
小良ヶ浜	(n=257)	32.3	23.7	1.9	0.8	3.9	1.6	-	1.2	0.8	2.7	28.4	2.7
栄町	(n=67)	49.3	6.0	-	3.0	3.0	3.0	4.5	-	-	7.5	23.9	-
新夜ノ森	(n=814)	31.2	25.4	2.9	2.5	1.5	1.1	0.5	1.1	0.7	3.2	29.1	0.7
不明	(n=41)	36.6	14.6	2.4	2.4	-	2.4	2.4	-	-	-	36.6	2.4

(4) 現在の住居種別(現在世帯主または世帯の代表)

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。  
 (1) 所有形態(○は1つ)  
 【問9(1)所有形態で、「3」～「9」と回答した方にうかがいます。】  
 (2) 住宅の建て方(○は1つ)

現在の住居形態としては、「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」が47.2%と最も多く、次いで「民間賃貸(有償)」が19.0%、「応急仮設住宅(プレハブ型)」が17.0%の順である。「応急仮設住宅」は合わせて64.2%となっている。(図表2-4-1①)

応急仮設住宅以外に居住している世帯主(または代表者、1,264人)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、「集合住宅(2階建て以上)」が57.0%と最も多く、次いで「一戸建て」が34.6%である。(図表2-4-1②)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、いずれの年代においても「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」が最も多いが、50代以下の層では5割以上、60代で43.3%、70代以上の層で35.6%となっている。「応急仮設住宅(プレハブ型)」は、60代以上で2割以上、40-50代で1割台、30代以下の若年齢層では5%以下と、年代による差が見られる。(図表2-4-1①)

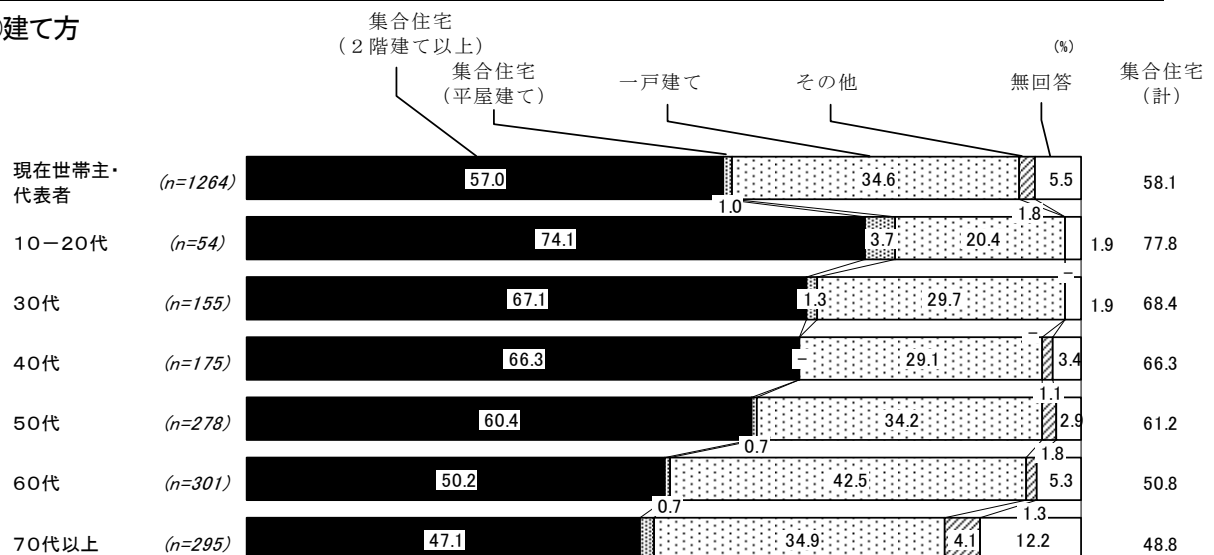
応急仮設住宅以外における現在居住の住宅の建て方としては、50代以上の高年齢層では「一戸建て」が3割を超えており、他の層よりも多い傾向が見られる。(図表2-4-1②)

図表2-4-1 現在の住宅(年代別)

①所有形態

		(%)									
		応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))	民間賃貸(有償)	応急仮設住宅(プレハブ型)	持ち家(ご家族またはご本人所有)	給与住宅(社宅、公務員宿舍など)	親戚・知人宅	家族どなたかのお住まい・実家	公営住宅(有償)	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=3660)	47.2	19.0	17.0	4.1	4.0	2.2	1.9	1.8	1.6	1.3
10-20代	(n=138)	56.5	18.1	2.2	2.2	10.1	2.2	4.3	1.4	0.7	2.2
30代	(n=394)	55.1	22.3	4.8	2.8	7.1	2.0	2.5	2.0	0.5	0.8
40代	(n=556)	57.4	17.3	10.4	4.0	6.1	1.4	1.4	0.9	0.4	0.7
50代	(n=821)	50.5	20.0	14.3	4.0	5.5	1.0	1.5	1.2	0.7	1.3
60代	(n=907)	43.3	19.8	22.4	4.4	1.9	2.1	1.4	2.4	1.1	1.1
70代以上	(n=818)	35.6	17.1	26.5	4.9	1.0	4.0	2.4	2.2	4.4	1.8

②建て方



現在の避難先別に所有形態を見ると、「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」は、いわき市避難世帯(53.1%)、郡山市避難世帯(50.5%)、福島市避難世帯(50.5%)では 5 割を超えて多い。「応急仮設住宅(プレハブ型)」は、大玉村避難世帯では 90.5%で大半を占めているほか、三春町避難世帯でも 75.0%となっている。(図表 2-4-2 ①)

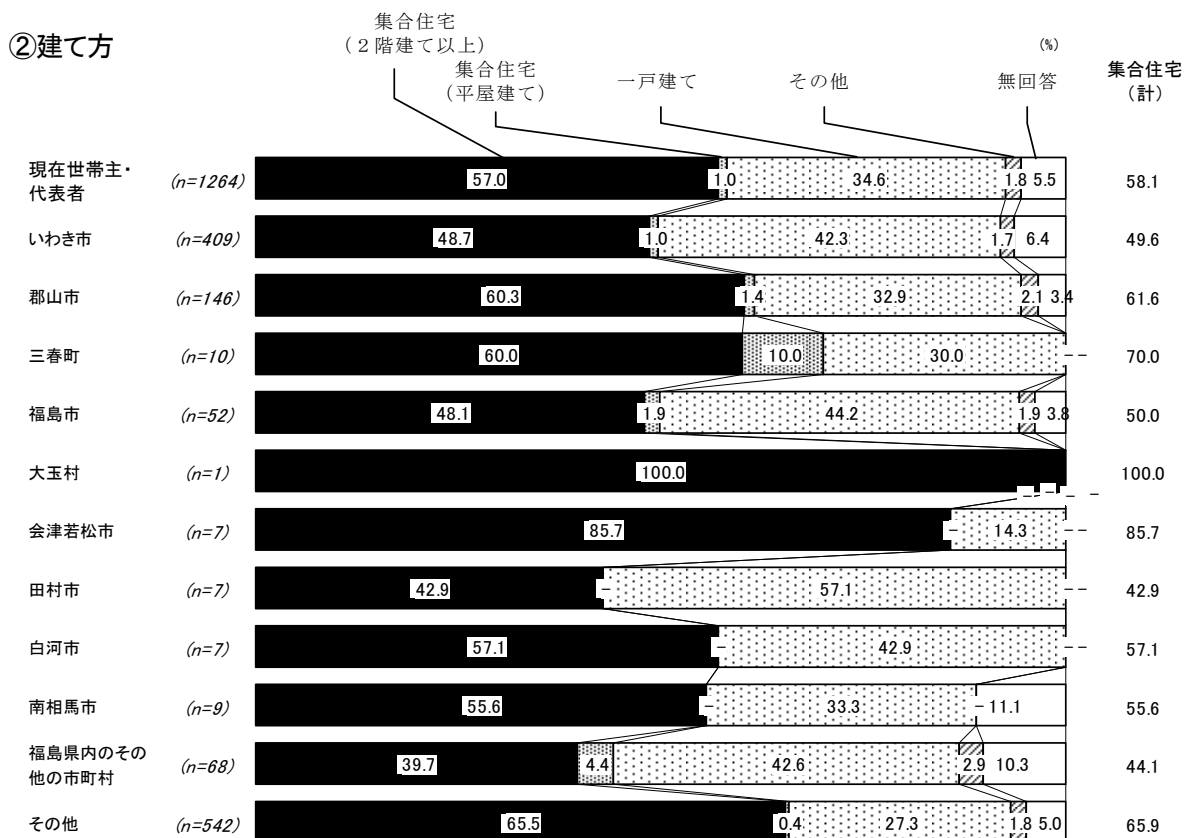
建て方を見ると、福島県内において郡山市避難世帯では「集合住宅(2階建て以上)」が 60.3%で、他の市町村に避難している世帯よりも多い。(図表 2-4-2②)

図表 2-4-2 現在の住宅(現在の避難先別)

①所有形態

		応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))	民間賃貸(有償)	応急仮設住宅(プレハブ型)	持ち家(ご家族またはご本人所有)	給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	親戚・知人宅	家族どなたかのお住まい・実家	公営住宅(有償)	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=3660)	47.2	19.0	17.0	4.1	4.0	2.2	1.9	1.8	1.6	1.3
いわき市	(n=1250)	53.1	21.3	13.2	5.3	2.2	1.7	1.0	0.3	0.9	1.0
郡山市	(n=824)	50.5	14.2	31.3	1.7	0.1	0.4	0.2	0.1	1.0	0.5
三春町	(n=124)	16.9	4.8	75.0	-	-	-	-	-	3.2	-
福島市	(n=109)	50.5	16.5	1.8	10.1	10.1	4.6	3.7	0.9	1.8	-
大玉村	(n=84)	8.3	1.2	90.5	-	-	-	-	-	-	-
会津若松市	(n=23)	69.6	21.7	-	-	-	4.3	4.3	-	-	-
田村市	(n=23)	47.8	17.4	17.4	13.0	-	-	-	-	-	4.3
白河市	(n=25)	64.0	20.0	8.0	4.0	-	-	4.0	-	-	-
南相馬市	(n=23)	56.5	17.4	4.3	13.0	-	-	4.3	4.3	-	-
福島県内のその他の市町村	(n=159)	44.7	18.9	10.7	4.4	3.8	4.4	5.0	2.5	3.8	1.9
その他	(n=983)	43.4	24.2	0.3	4.5	10.2	4.2	4.0	5.5	2.6	1.1

②建て方



(5) 現在の職業

問10 現在のあなたの職業を教えてください。

現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

【問10(1)職業で「1」～「6」または「9」と回答した方(仕事に就いている方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

現在の職業を聞いたところ、「無職(退職していた場合も含む)」が55.5%で最も多く、「学生」(2.5%)を合わせると6割弱の58.0%が職に就いていない。有職者は、「会社員(内勤)」(15.4%)、「会社員(外勤)」(6.7%)、「パート・アルバイト」(5.7%)、「自営業」(4.1%)などの順となっている。(図表2-5-1①)

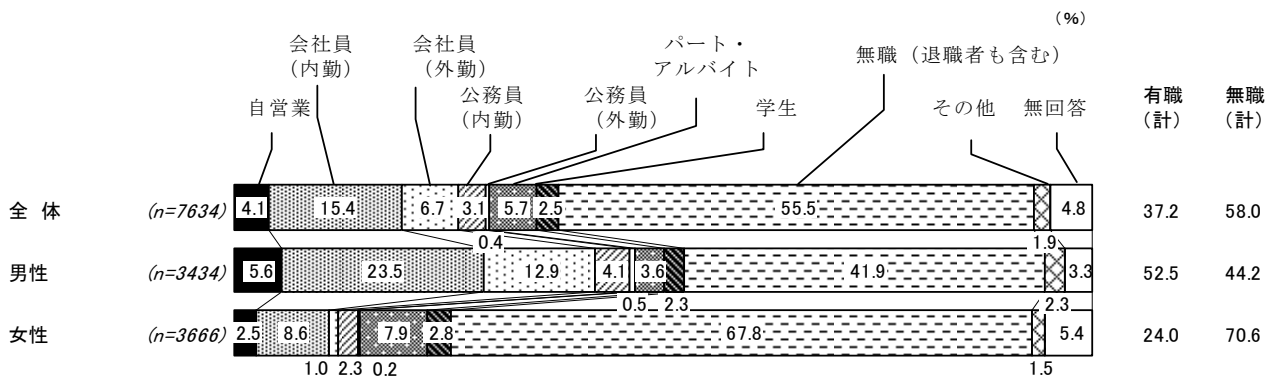
有職者(2,841人)の業種としては、「建設業」(23.6%)が最も多く、続いて「卸・小売り・飲食、サービス業」(20.2%)、「電気・ガス・水道業」(12.8%)、「製造業」(9.4%)などの順となっている。(図表2-5-1②)

男女別に見ると、「無職(退職していた場合も含む)」は男性で41.9%、女性で67.8%である。男性有職者は、「会社員(内勤)」(23.5%)、「会社員(外勤)」(12.9%)の順であるのに対し、女性有職者では「会社員(内勤)」(8.6%)と「パート・アルバイト」(7.9%)がいずれも1割弱となっている。(図表2-5-1①)

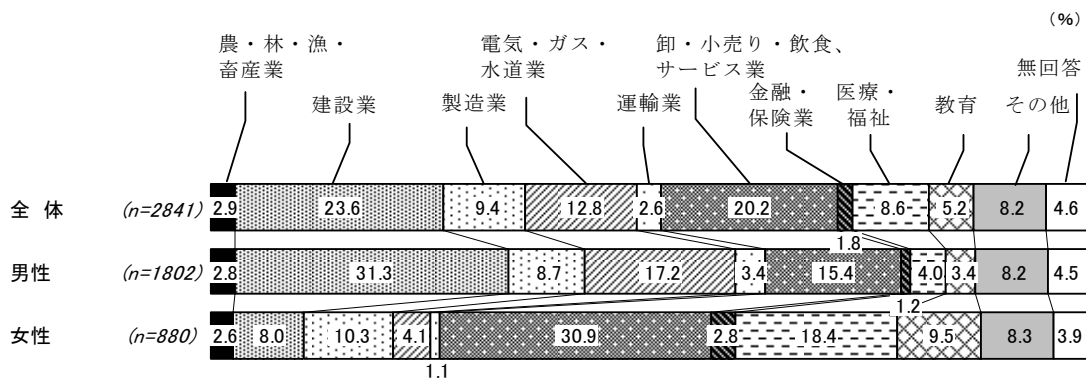
男女別有職者の業種を見ると、「建設業」従事者(男性31.3%、女性8.0%)は女性より男性に多く、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同15.4%、30.9%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。(図表2-5-1②)

図表2-5-1 現在の職業(男女別)

①職業



②業種

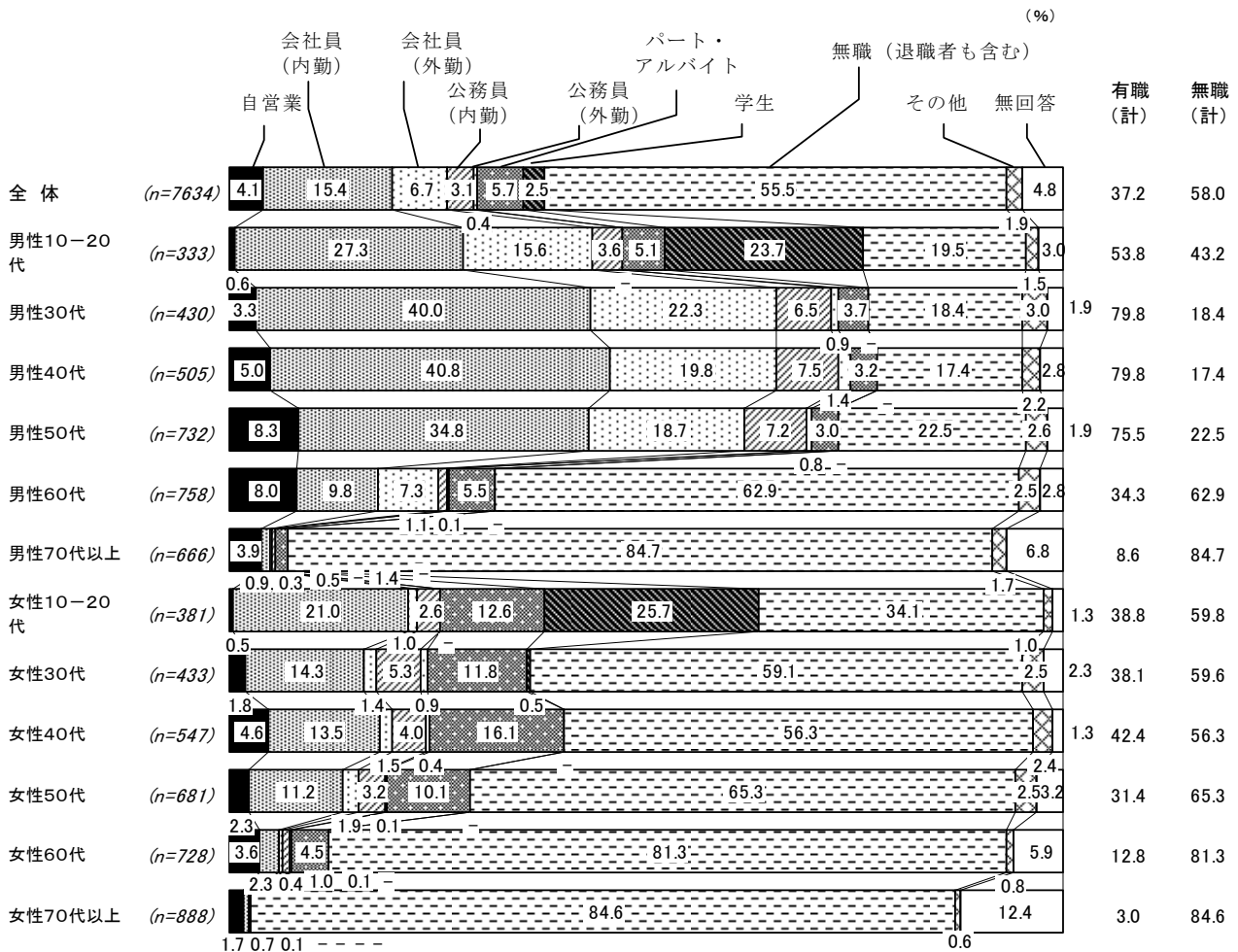


性・年代別に職業を見ると、男性の30-50代では「会社員(内勤)」が3~4割、「会社員(外勤)」が2割前後である。一方、女性の10-40代は3~4割が有職で、女性30-50代の層では、「会社員(内勤)」、「パート・アルバイト」がいずれも1割台となっている。「無職(退職していた場合も含む)」は、男性70代以上、女性60代以上で8割を超える。(図表2-5-2①)

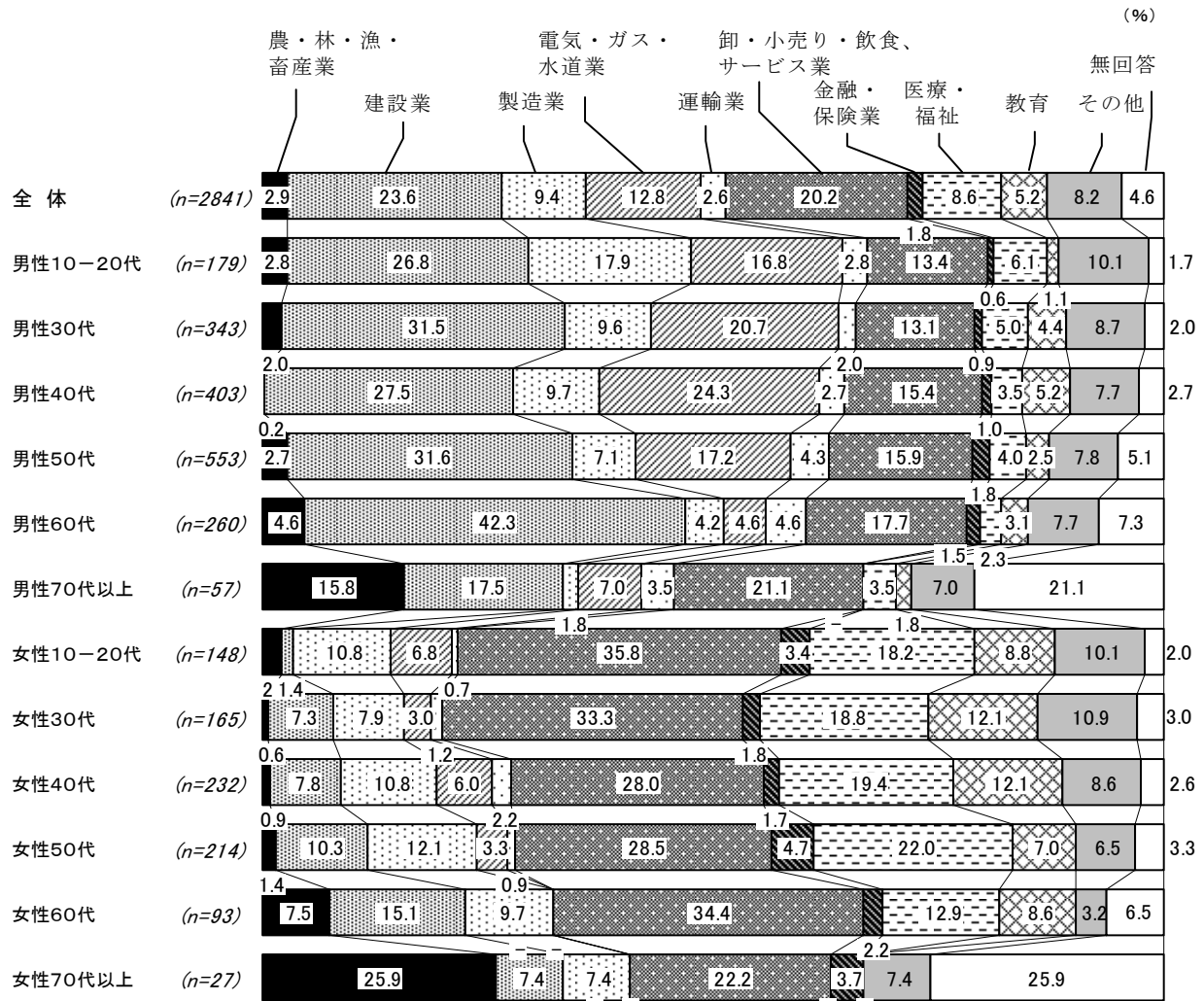
性・年代別に有職者の業種を見ると、男性30-50代の3割前後、男性60代の4割が「建設業」に従事している。男性30-40代では、「電気・ガス・水道業」が2割強を占める。女性は、60代以下の各年代で「卸・小売り・飲食、サービス業」が3割前後と、最も多くなっている。(図表2-5-2②)

図表 2-5-2 現在の職業(性・年代別)

①職業



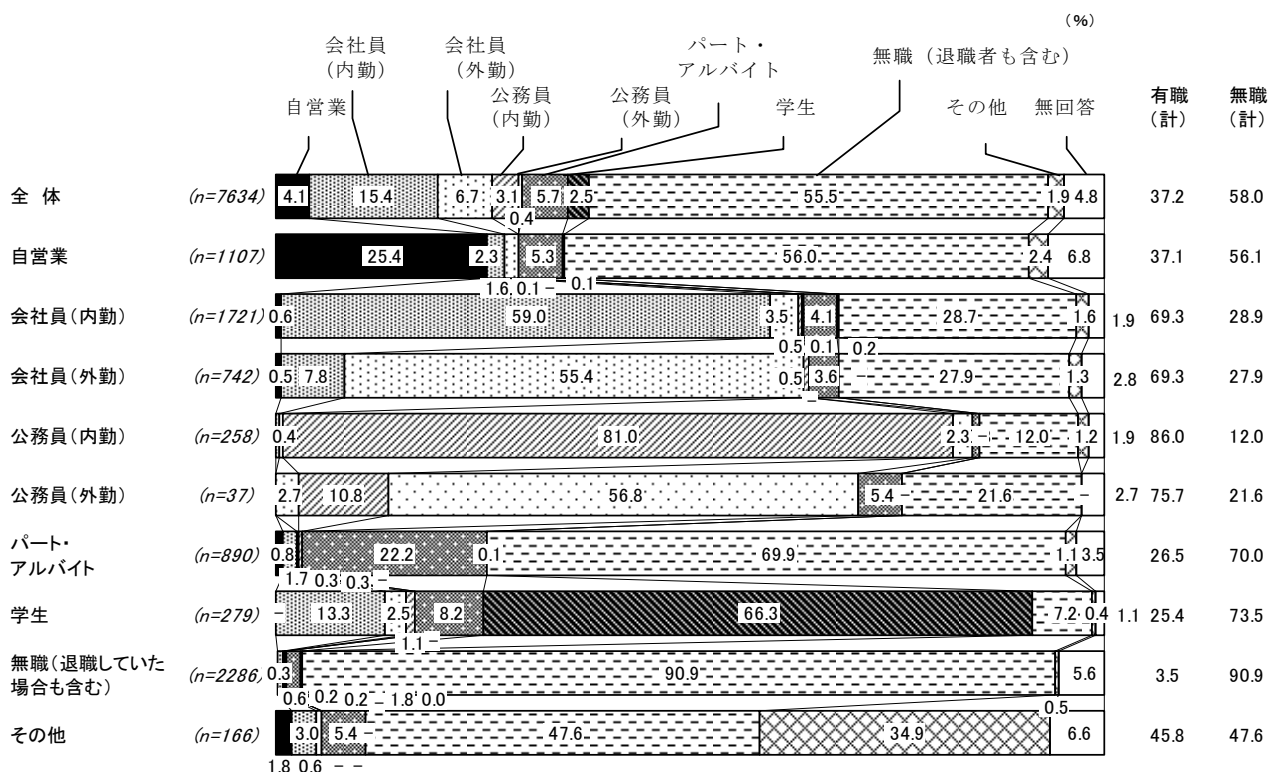
②業種





震災発生当時の職業別に現在職業を見ると、当時自営業者で現在「自営業」は 25.4%で、56.0%が現在は「無職(退職者も含む)」となっている。当時会社員では、震災前後で同じ職業に就いているのは、当時会社員(内勤)では 59.0%、当時会社員(外勤)では 55.4%であり、現在「無職(退職していた場合も含む)」となっているのはともに3割弱(当時会社員(内勤)28.7%、当時会社員(外勤)27.9%)である。当時公務員(内勤)で震災前後において同じ職業に就いているのは 81.0%と多く、現在「無職」となっているのは 12.0%にとどまる。当時パート・アルバイト従事者では、69.9%が現在「無職(退職していた場合も含む)」となっている。(図表 2-5-3)

図表 2-5-3 現在の職業(震災発生当時の職業別)



(6) 震災発生前後での就労変化

1) 現在勤務先の会社・組織・団体の変化

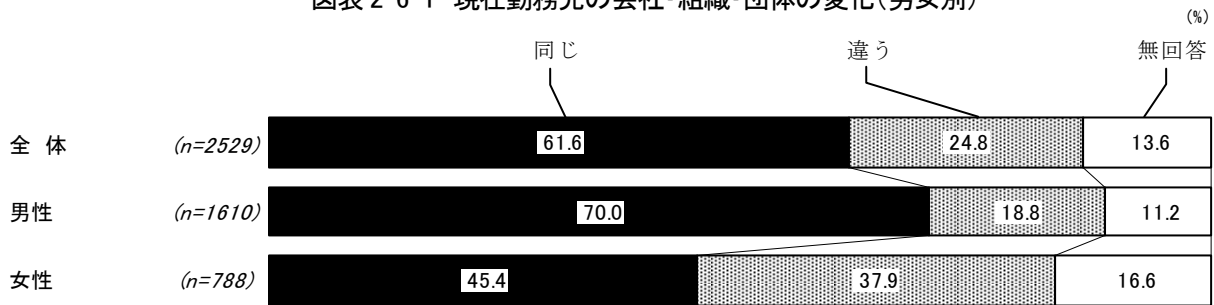
【問 10(1)職業で「2」～「6」または「9」と回答した方(自営業以外で仕事に就いている方)にうかがいます。自営業の方は、問 13 へお進みください。】

問 11 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

自営業以外の現在有職者(2,529 人)に、現在の勤務先会社・組織・団体が震災発生当時の会社・組織・団体と同じかどうかを聞いたところ、震災発生当時と「同じ」という回答者が 61.6%である。(図表 2-6-1)

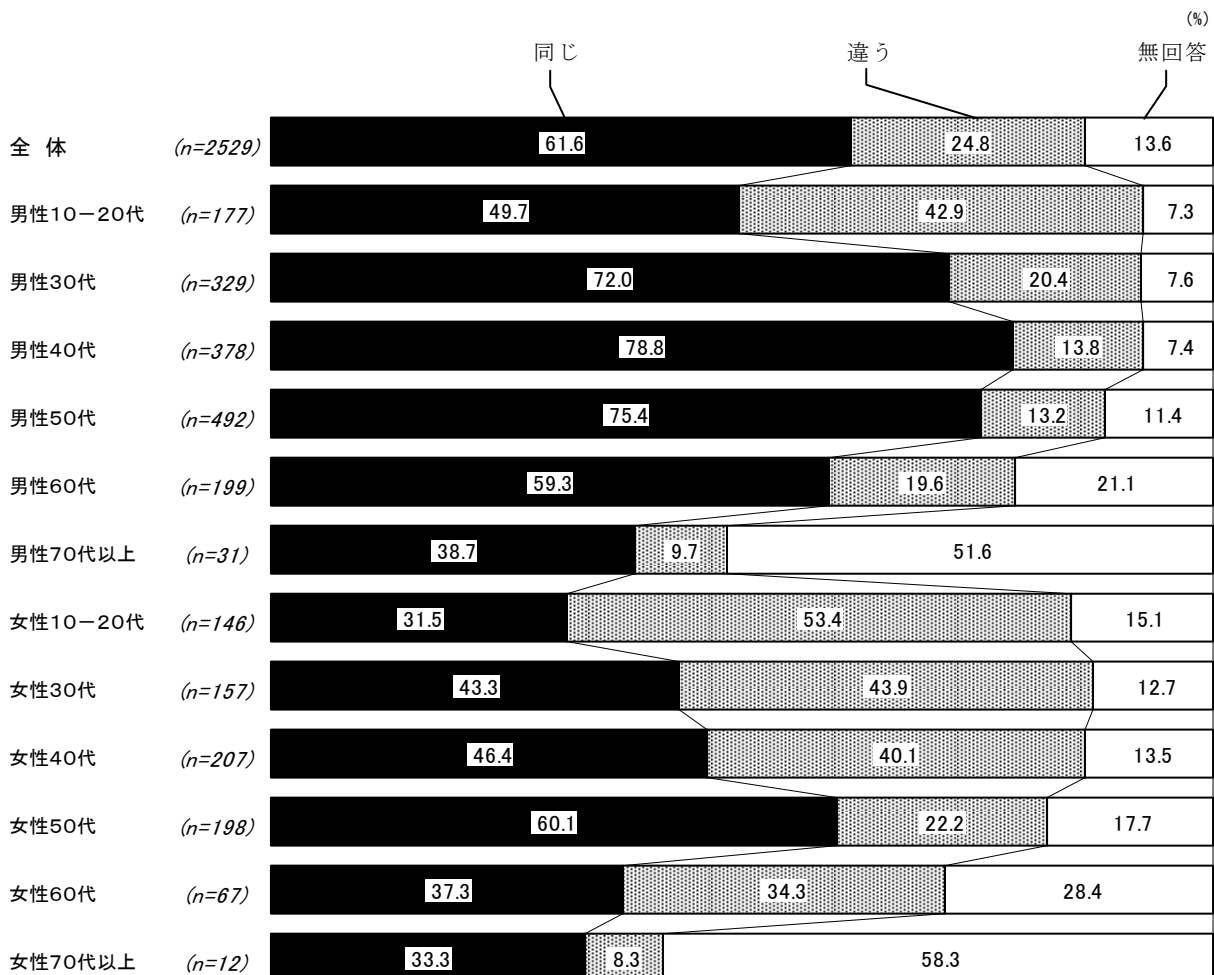
男女別に見ると、男性では「同じ」が 70.0%を占めるのに対し、女性では 45.4%にとどまっている。(図表 2-6-1)

図表 2-6-1 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(男女別)



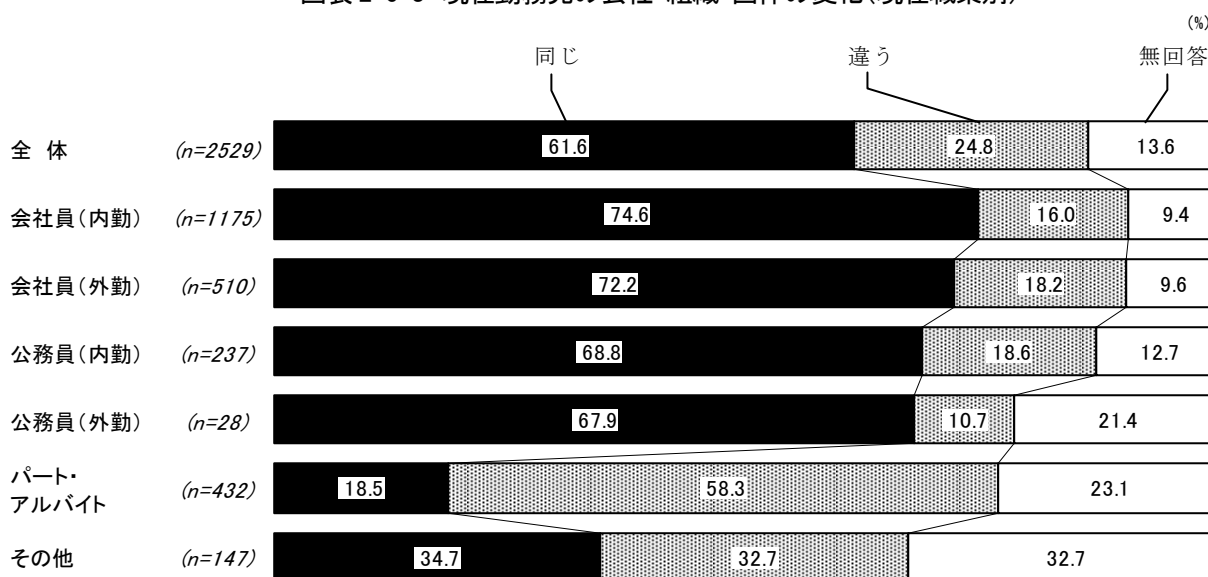
性・年代別に見ると、男性では 30-50 代で震災発生当時と「同じ」会社・組織・団体での就業が特に多く、7 割を超えている。また、女性でも 50 代は、「同じ」が 60.1%と比較的多い。一方、男女とも 10-20 代は、「違う」が男性で 42.9%、女性で 53.4%と多く、特に女性 10-20 代では、「違う」が、「同じ」(31.5%)を上回っている。(図表 2-6-2)

図表 2-6-2 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(性・年代別)



現在職業別に見ると、現在会社員では内勤・外勤ともに、7割以上が「同じ」となっている。公務員(内勤)でも、68.8%が「同じ」である。現在パート・アルバイト従事者では、58.3%が震災発生当時と「違う」会社・組織・団体に勤務している。(図表 2-6-3)

図表 2-6-3 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(現在職業別)



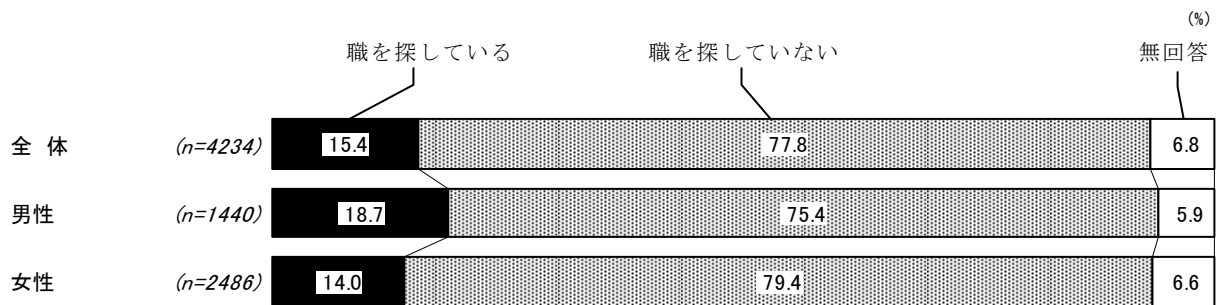
2) 求職状況

【問 10(1) 職業で、「8 無職(退職者も含む)」と回答した方にかかっています。】  
 問 12-1 あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ)

現在無職の回答者(4,234 人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は 15.4%ことどまり、多数は「職を探していない」(77.8%)と回答している。(図表 2-6-4)

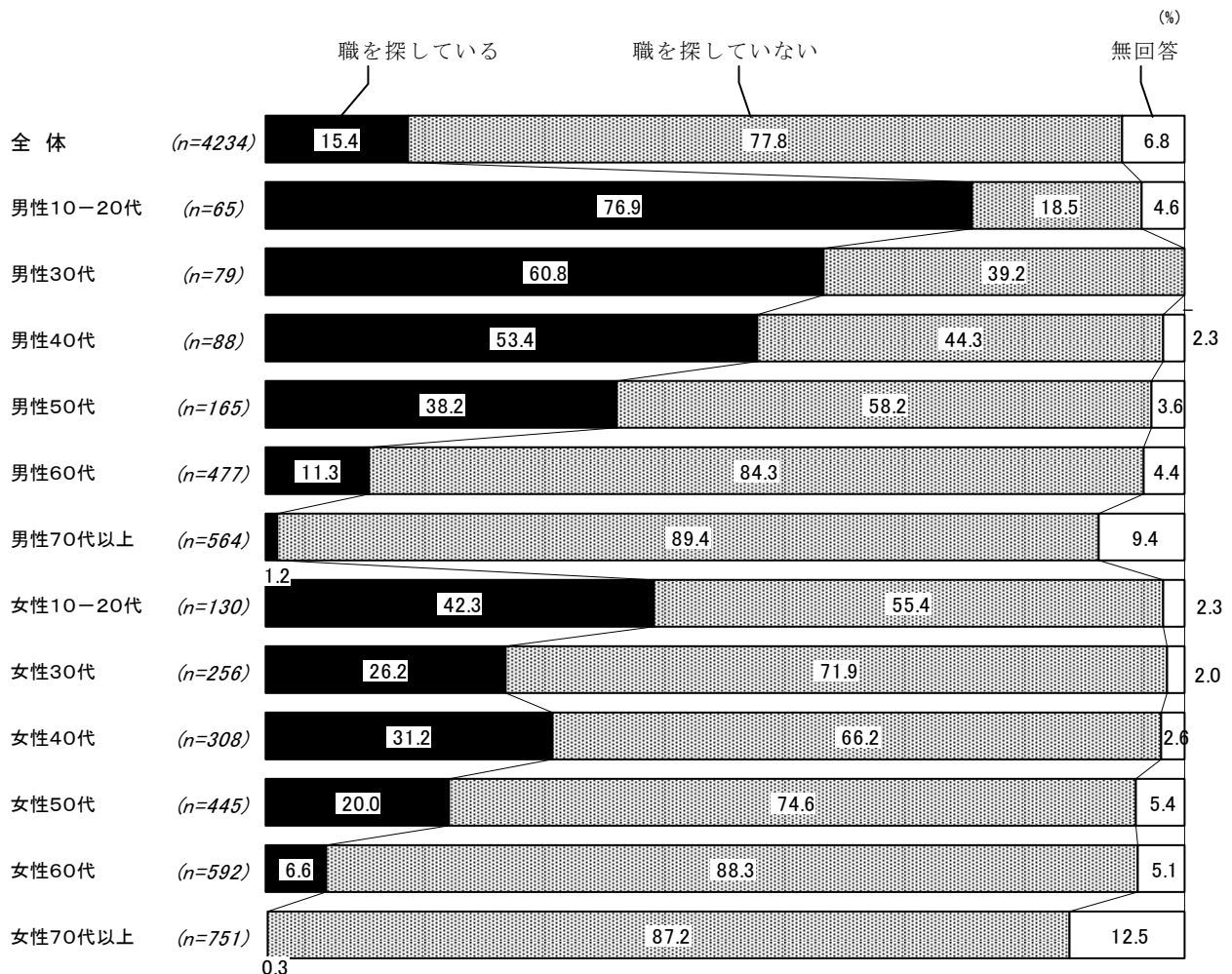
男女別に見ると、男性では「職を探している」が 18.7%で、女性(14.0%)をやや上回っている。(図表 2-6-4)

図表 2-6-4 求職状況(男女別)



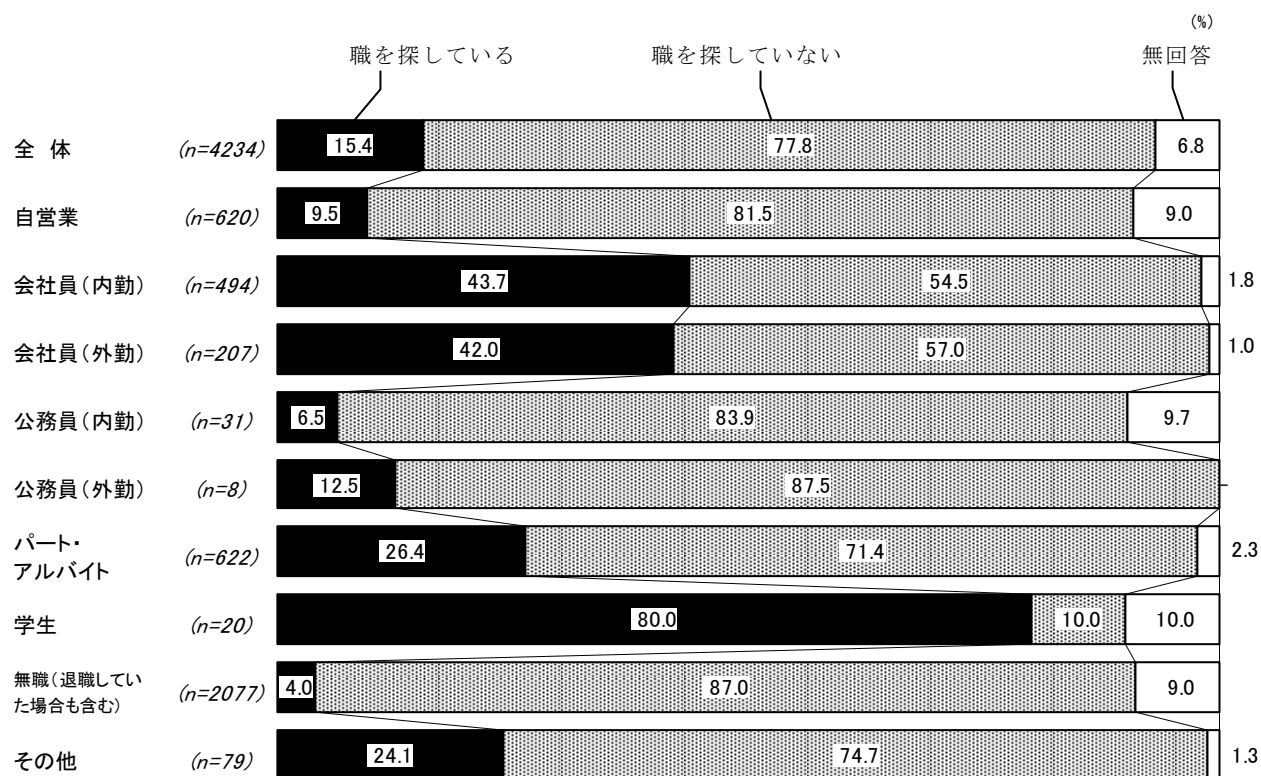
性・年代別に見ると、男性では若年齢層ほど、「職を探している」という回答が多く、男性 10-20 代(76.9%)、30 代(60.8%)、40 代(53.4%)となっており、「職を探していない」という回答を上回っている。女性では 10-20 代で「職を探している」が 42.3%、40 代で 31.2%であるが、それ以外の年代では 3 割未満となっている。(図表 2-6-5)

図表 2-6-5 求職状況(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時自営業者の 81.5%は「職を探していない」という回答で、「職を探している」(9.5%)を大幅に上回っている。当時会社員では、内勤・外勤ともに、「職を探している」人は 4 割台、「職を探していない」は5割台となっており、ほぼ二分している。当時パート・アルバイトでは、71.4%は「職を探していない」という回答で、「職を探している」(26.4%)よりも多い。(図表 2-6-6)

図表 2-6-6 求職状況(震災発生当時の職業別)

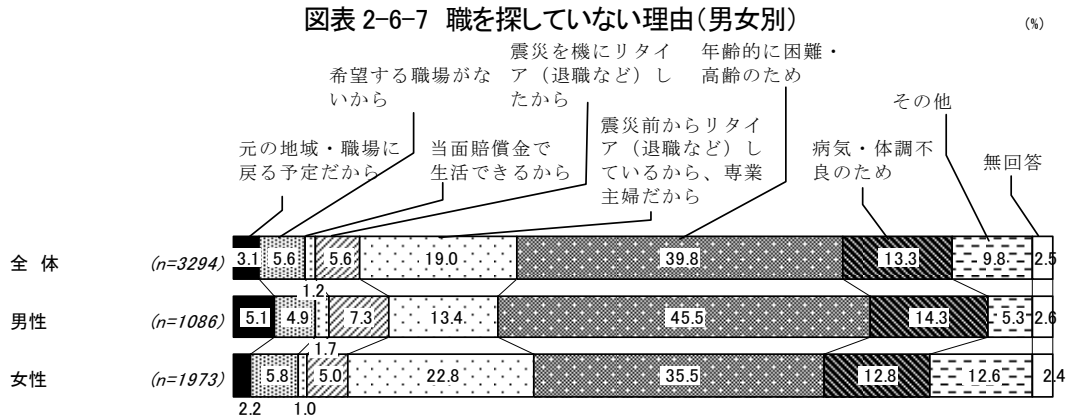


3) 職を探していない理由

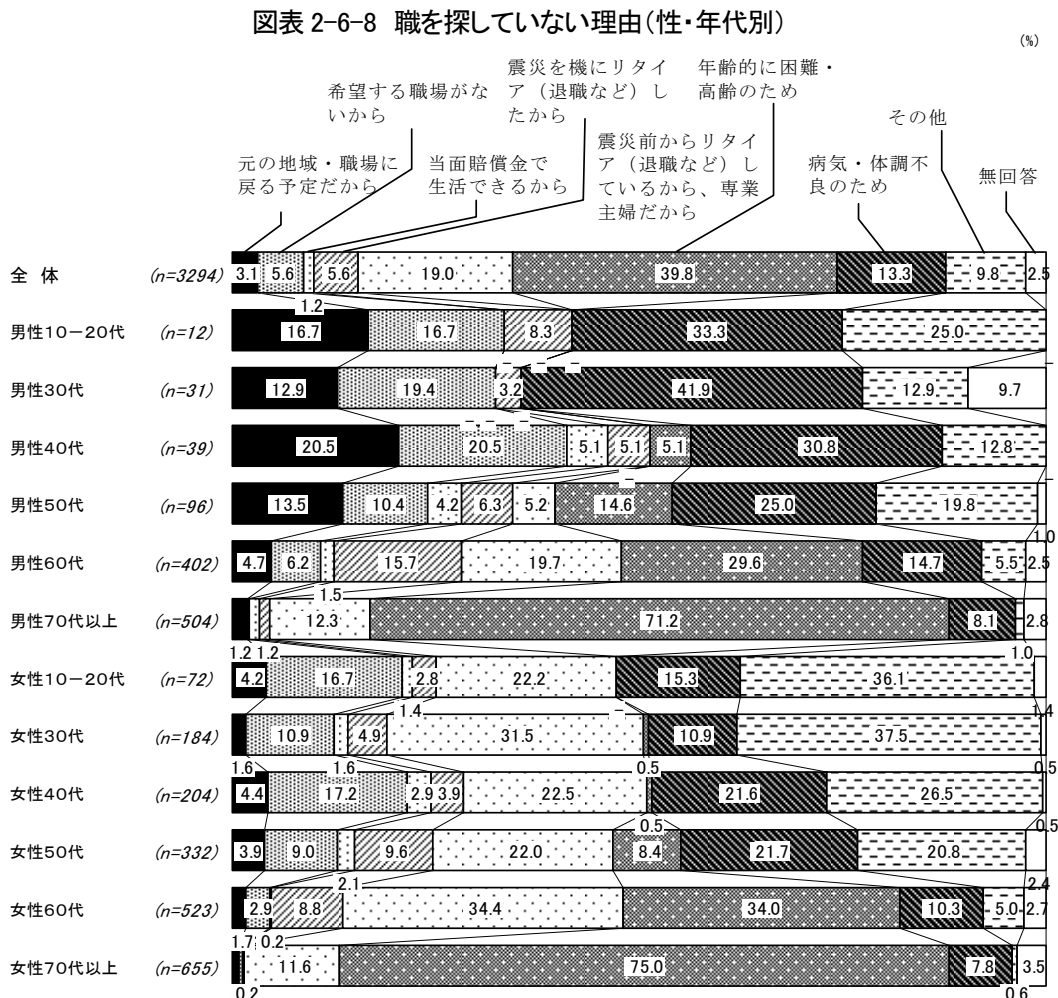
【問 12-1 で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】  
 問 12-2 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(〇は1つ)

現在無職でかつ職を探していない回答者(3,294人)の職を探していない最も大きな理由としては、「年齢的に困難・高齢のため」が 39.8%を占め、以下「震災前からリタイア(退職など)しているから、専業主婦だから」(19.0%)、「病気・体調不良のため」(13.3%)、「希望する職場がないから」(5.6%)、「震災を機にリタイア(退職など)したから」(5.6%)、「元の地域・職場に戻る予定だから」(3.1%)、「当面賠償金で生活できるから」(1.2%)の順となっている。(図表 2-6-7)

男女別に見ると、「年齢的に困難・高齢のため」は女性より男性のほうが多く、「震災前からリタイア(退職など)しているから、専業主婦だから」は男性より女性の方が多い。(図表 2-6-7)

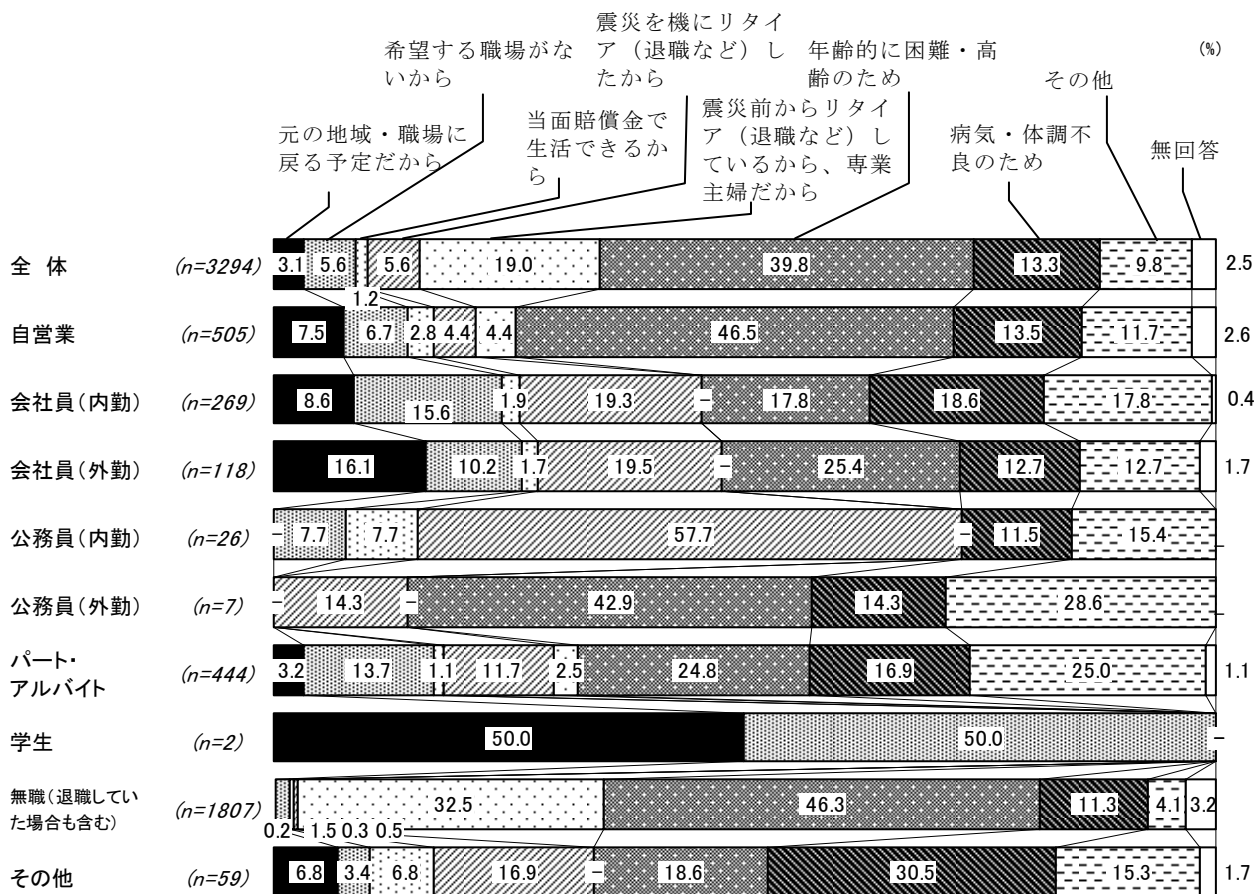


性・年代別に見ると、「年齢的に困難・高齢のため」は、男女ともに 60代で3割前後、70代以上では7割を超える。(図表 2-6-8)



震災発生当時の職業別に見ると、当時自営業者では、「年齢的に困難・高齢のため」が46.5%とほぼ半数近く、「病気・体調不良のため」が13.5%でそれに続く。「元の地域・職場に戻る予定だから」は7.5%である。当時会社員(内勤)では、「震災を機にリタイア(退職など)したから」、「病気・体調不良のため」、「年齢的に困難・高齢のため」、「希望する職場がないから」がいずれも1割台で並んでいる。当時会社員(外勤)では、「年齢的に困難・高齢のため」と、「震災を機にリタイア(退職など)したから」が2割前後で上位の理由となっているほか、「元の地域・職場に戻る予定だから」は16.1%を占めている。当時パート・アルバイトは、「年齢的に困難・高齢のため」、「病気・体調不良のため」が2割を前後して上位を占めている。(図表2-6-9)

図表 2-6-9 職を探していない理由(震災発生当時の職業別)



### 3. 現在の避難生活における困りごと

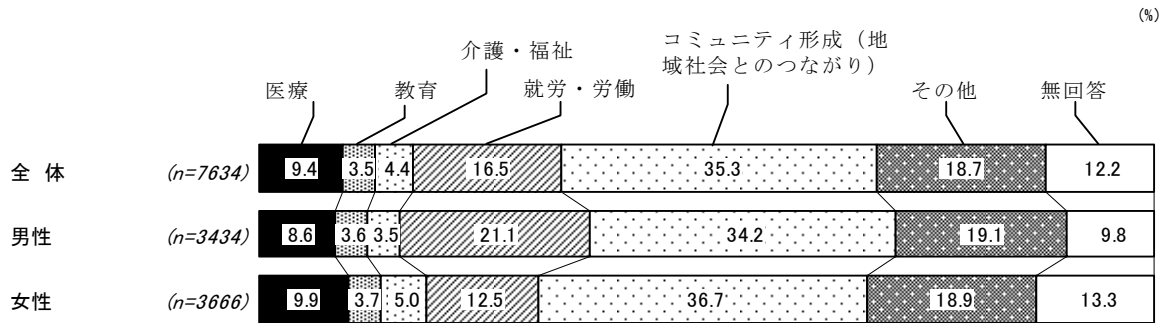
#### (1) 避難生活の中で困っていること

問13 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。(〇は1つ)

現在の避難生活で最も困っていること、改善を求めていることとしては、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」という回答が35.3%で最も多く、次いで「就労・労働」(16.5%)、「医療」(9.4%)、「介護・福祉」(4.4%)、「教育」(3.5%)の順となっている。(図表3-1-1)

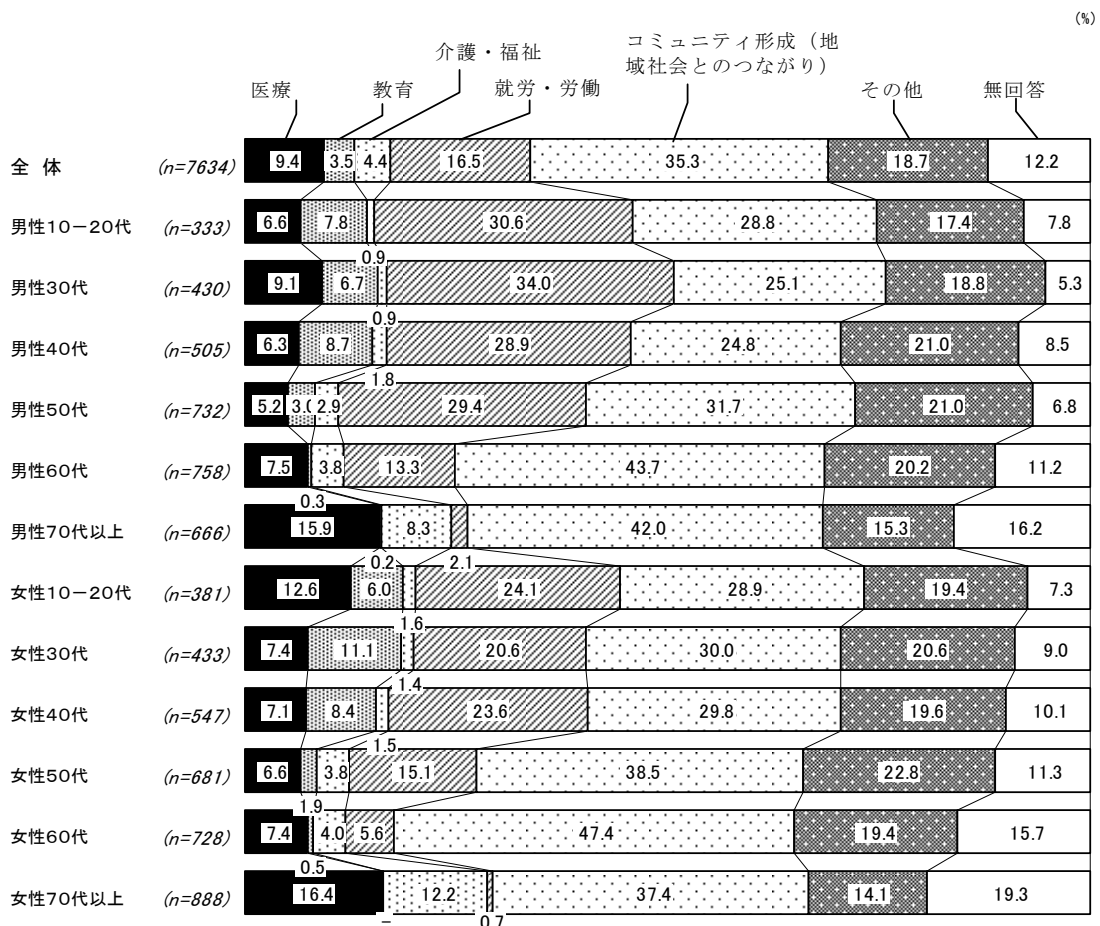
男女別に見ると、「就労・労働」(男性21.1%、女性12.5%)は女性より男性に多くなっている。(図表3-1-1)

図表3-1-1 避難生活の中で最も困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」は男女とも高齢層により多く、男性60代(43.7%)、同70代以上(42.0%)、女性60代(47.4%)で4割を超えている。また、男性10-50代では「就労・労働」が3割前後と、他の性・年代に比べて多い。さらに、男女とも70代以上になると「医療」(男性15.9%、女性16.4%)や「介護・福祉」(同8.3%、12.2%)の要望が、他の性・年代に比べて強くなっている。(図表3-1-2)

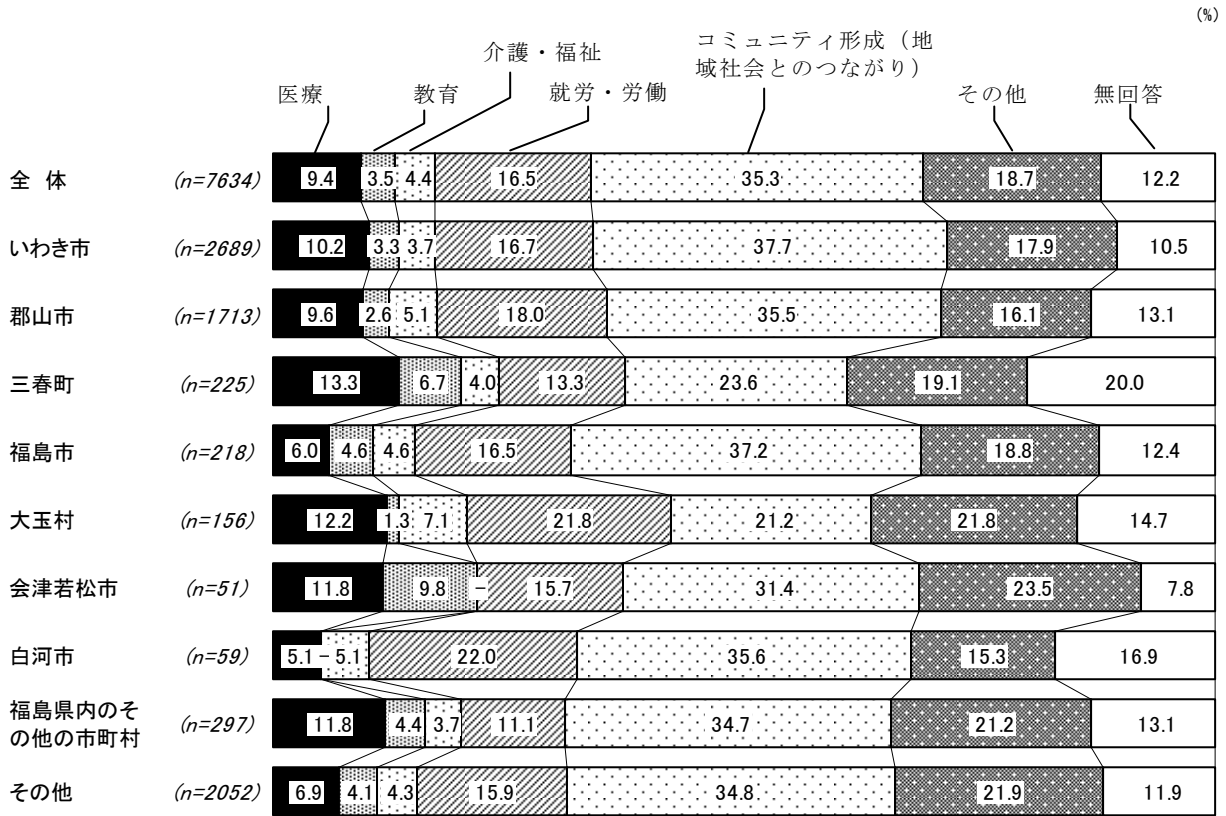
図表3-1-2 避難生活の中で最も困っていること(性・年代別)





現在の避難先別に見ると、大玉村、白河市への避難者では、「就労・労働」に関する要望がやや多く、ともに2割を超えている。会津若松市避難者では、「教育」の要望が9.8%で、他の自治体避難者よりもやや多くなっている。「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」に関する要望は、三春町避難者(23.6%)、大玉村避難者(21.2%)では、他の自治体避難者に比べると少なくなっている。(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 避難生活の中で最も困っていること(現在の避難先別)



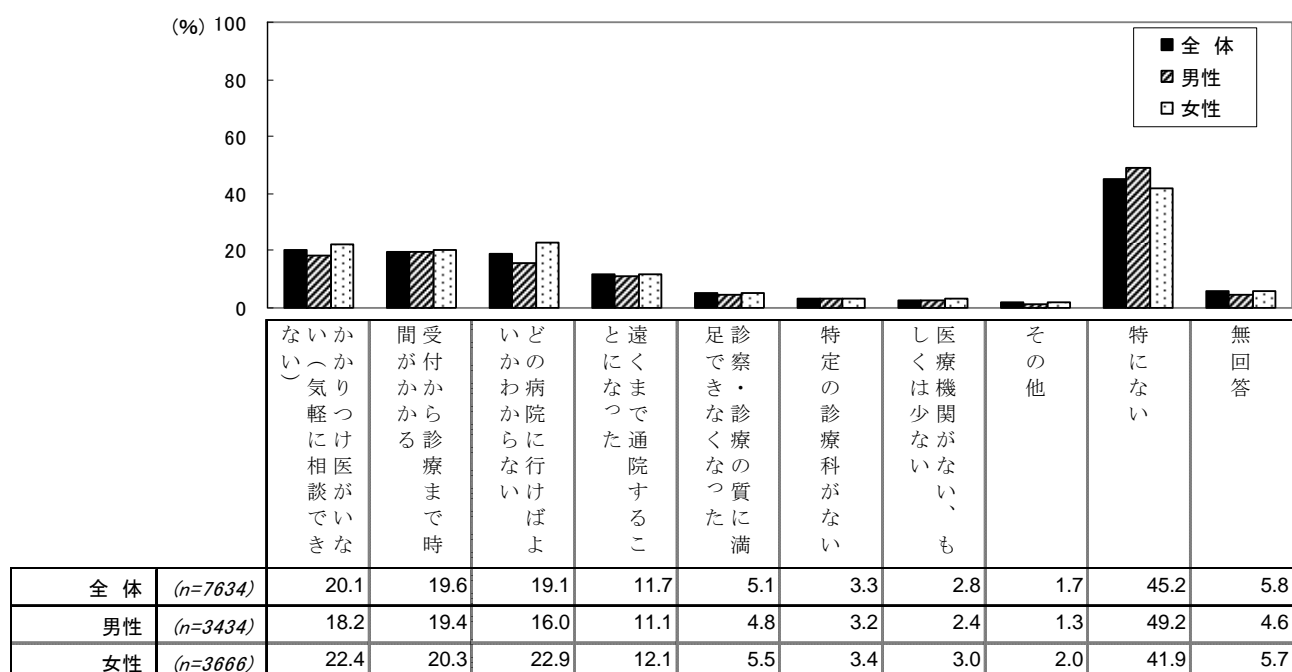
(2) 医療サービスについて困っていること

問 14 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

医療サービスについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」が 20.1%で最も多くあげられ、以下「受付から診療まで時間がかかる」(19.6%)、「どの病院に行けばよいかわからない」(19.1%)、「遠くまで通院することになった」(11.7%)などの順にあげられている。「特にない」という回答者も、45.2%を占める。(図表 3-2-1)

男女別に見ると、女性では「どの病院に行けばよいかわからない」は 22.9%で、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」(22.4%)とほぼ並んで多くあげられている。(図表 3-2-1)

図表 3-2-1 医療サービスについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、女性 10-40 代では、「どの病院に行けばよいかわからない」が 3 割を超え、他の性・年代より多くあげられている。男女ともに 70 代以上の層では「遠くまで通院することになった」が 2 割弱で、他の年齢層に比べてやや多い。(図表 3-2-2)

図表 3-2-2 医療サービスについて困っていること(性・年代別)

(%)

		かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	受付から診療まで時間がかかる	どの病院に行けばよいかわからない	遠くまで通院することになった	診察・診療の質に満足できなかった	特定の診療科がない	医療機関がない、もしくは少ない	その他	特にない	無回答
全体	(n=7634)	20.1	19.6	19.1	11.7	5.1	3.3	2.8	1.7	45.2	5.8
男性10-20代	(n=333)	21.6	16.8	25.2	5.1	3.3	3.6	1.5	0.6	50.8	2.1
男性30代	(n=430)	22.3	21.6	25.8	8.6	4.9	4.7	4.9	1.2	45.3	2.3
男性40代	(n=505)	23.4	21.6	22.0	7.7	5.3	3.2	2.6	0.8	49.7	3.0
男性50代	(n=732)	17.9	18.6	15.3	9.0	3.8	2.9	1.4	1.6	51.1	3.1
男性60代	(n=758)	16.0	17.7	10.0	12.8	4.5	2.8	1.8	1.1	51.7	5.5
男性70代以上	(n=666)	12.3	20.7	7.5	18.5	6.5	2.9	2.7	2.0	46.1	8.9
女性10-20代	(n=381)	28.9	23.9	37.5	6.8	4.5	3.9	2.4	1.8	38.1	2.1
女性30代	(n=433)	26.6	21.2	32.8	8.1	3.7	3.9	3.5	2.5	42.5	1.2
女性40代	(n=547)	27.2	23.9	35.6	8.2	6.2	3.5	2.0	2.0	35.5	2.7
女性50代	(n=681)	23.8	18.5	24.1	10.1	5.0	3.2	2.5	1.5	43.8	4.3
女性60代	(n=728)	17.4	16.9	13.5	12.9	5.2	1.9	2.5	1.6	49.7	7.8
女性70代以上	(n=888)	17.7	20.2	10.5	19.4	7.1	4.2	4.6	2.5	39.5	10.7

現在の避難先別に見ると、「遠くまで通院することになった」が三春町および大玉村への避難者では2割を超えており、他の自治体よりも多い。いわき市への避難者では、「かかりつけ医がない」が25.4%と、他の自治体よりやや多い。三春町避難者では、「医療機関がない、もしくは少ない」が8.0%で、他の自治体に比べてやや多い。(図表 3-2-3)

図表 3-2-3 避難生活の中で最も困っていること(現在の避難先別)

(%)

		かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	受付から診療まで時間がかかる	どの病院に行けばよいかわからない	遠くまで通院することになった	診察・診療の質に満足できなかった	特定の診療科がない	医療機関がない、もしくは少ない	その他	特にない	無回答
全体	(n=7634)	20.1	19.6	19.1	11.7	5.1	3.3	2.8	1.7	45.2	5.8
いわき市	(n=2689)	25.4	25.4	23.2	11.0	6.2	3.4	2.8	1.5	39.2	4.8
郡山市	(n=1713)	15.2	21.0	15.0	12.3	4.6	1.9	0.8	1.5	47.1	7.0
三春町	(n=225)	17.8	23.6	13.8	25.3	6.2	5.3	8.0	0.4	40.4	4.4
福島市	(n=218)	15.6	12.8	17.9	10.1	3.2	2.3	-	0.9	56.4	5.5
大玉村	(n=156)	6.4	10.3	9.0	24.4	5.8	4.5	5.8	1.3	46.2	10.3
会津若松市	(n=51)	11.8	15.7	19.6	7.8	2.0	-	-	5.9	58.8	3.9
白河市	(n=59)	15.3	20.3	11.9	10.2	3.4	3.4	1.7	3.4	50.8	11.9
福島県内の他の市町村	(n=297)	15.8	18.2	13.8	14.5	6.7	6.4	9.8	2.7	42.4	7.1
その他	(n=2052)	19.6	12.5	19.6	9.0	4.1	3.2	2.4	2.2	52.0	5.0

(3) 介護・福祉サービスについて困っていること

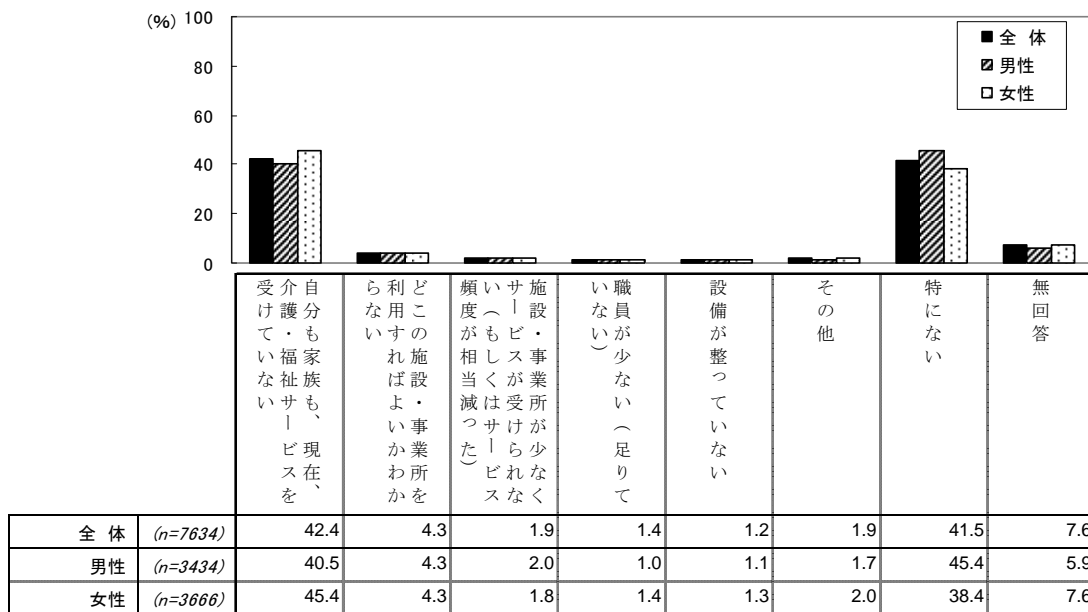
問 15 ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

自分または家族が介護・福祉サービスで困っていることを複数回答で聞いたところ、「どこの施設・事業所を利用すればよいかわからない」が 4.3%、「施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 1.9%、「職員が少ない(足りていない)」が 1.4%、「設備が整っていない」が 1.2%の順にあげられている。なお、「特にない」は 41.5%、「自分も家族も、現在、介護・福祉サービスを受けていない」は 42.4%を占める。(図表 3-3-1)

男女別に見ても、困っていることの内容に大きな差はみられない。(図表 3-3-1)

性・年代別、現在の避難先別に見て、大きな差はみられない。(図表 3-3-2) (図表 3-3-3)

図表 3-3-1 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



図表 3-3-2 介護・福祉サービスについて困っていること(性・年代別)

	自分も家族も、現在、介護・福祉サービスを受けていない	どこの施設・事業所を利用すればよいかわからない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)	職員が少ない(足りていない)	設備が整っていない	その他	特にない	無回答
全体 (n=7634)	42.4	4.3	1.9	1.4	1.2	1.9	41.5	7.6
男性10-20代 (n=333)	35.7	2.7	2.1	0.6	1.5	0.3	58.0	1.5
男性30代 (n=430)	35.6	3.0	1.2	0.7	1.2	0.9	56.3	2.6
男性40代 (n=505)	42.0	3.4	3.0	0.8	0.8	1.2	47.5	3.6
男性50代 (n=732)	37.0	5.7	2.0	1.2	0.7	2.2	47.0	5.1
男性60代 (n=758)	43.1	2.9	2.0	0.9	1.5	1.7	41.3	8.3
男性70代以上 (n=666)	46.2	6.3	1.8	1.4	1.2	2.6	33.3	10.1
女性10-20代 (n=381)	39.4	2.6	0.3	1.0	1.3	0.8	52.2	3.1
女性30代 (n=433)	46.7	1.8	1.8	1.4	1.6	0.9	45.3	2.5
女性40代 (n=547)	48.8	3.7	1.5	0.7	0.9	1.5	40.8	4.6
女性50代 (n=681)	46.4	4.3	1.8	0.9	1.0	2.9	37.4	6.5
女性60代 (n=728)	47.7	3.6	1.6	1.1	1.1	1.6	35.4	9.9
女性70代以上 (n=888)	42.8	7.1	2.6	2.7	1.9	2.8	31.0	13.0

図表 3-3-3 介護・福祉サービスについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		自分も家族も、現在、介護・福祉サービスを受けていない	どこの施設・事業所を利用すればよいかわからない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)	職員が少ない(足りていない)	設備が整っていない	その他	特にない	無回答
全 体	(n=7634)	42.4	4.3	1.9	1.4	1.2	1.9	41.5	7.6
いわき市	(n=2689)	45.4	4.3	2.1	1.6	1.7	1.9	38.6	7.0
郡山市	(n=1713)	43.1	5.5	1.9	1.8	1.1	1.7	38.7	8.6
三春町	(n=225)	37.8	6.2	4.0	3.6	2.2	0.9	40.0	11.1
福島市	(n=218)	34.9	4.6	2.8	0.5	0.5	1.4	51.4	6.0
大玉村	(n=156)	37.2	1.9	1.9	0.6	3.2	1.3	44.9	10.9
会津若松市	(n=51)	33.3	2.0	-	-	-	-	60.8	3.9
白河市	(n=59)	20.3	5.1	-	-	-	5.1	55.9	13.6
福島県内のその他の市町村	(n=297)	40.4	2.7	1.0	0.7	1.0	1.3	42.8	10.4
その他	(n=2052)	41.3	3.4	1.1	0.7	0.5	2.3	45.9	6.0

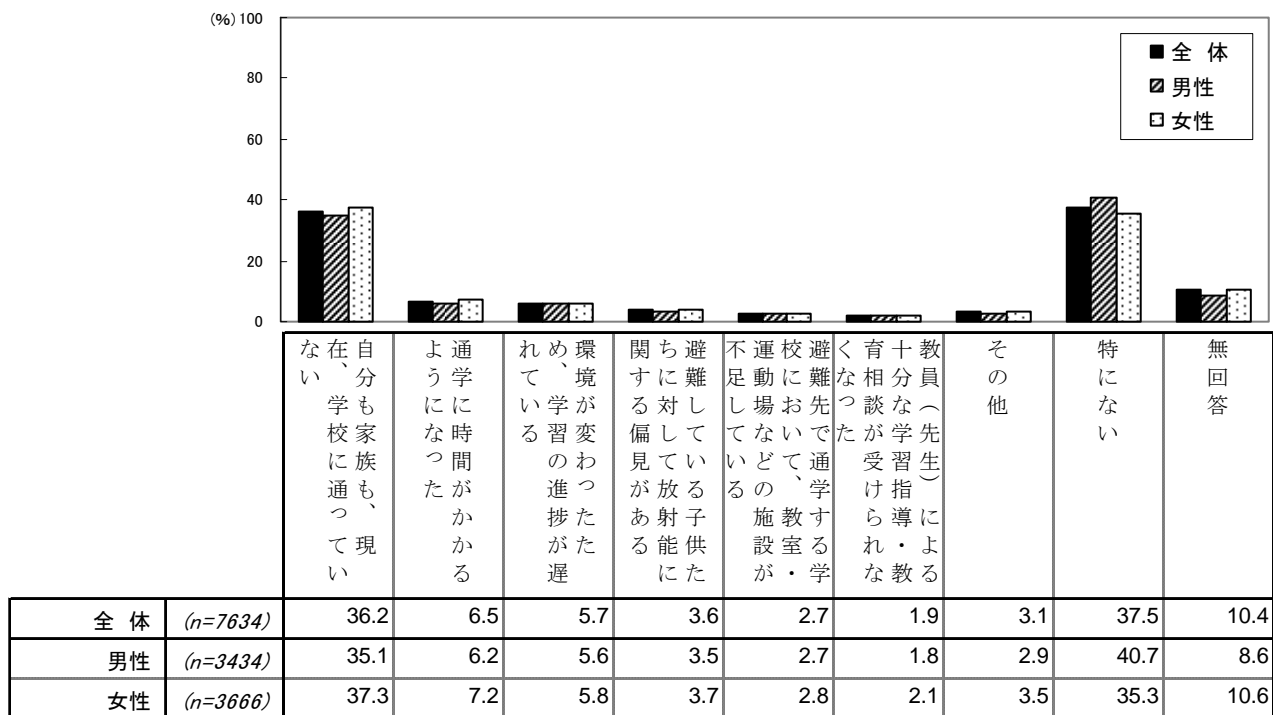
(4) 教育(学校)について困っていること

問 16 ご自身またはご家族が受けている教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

自分または家族が教育(学校)について困っていることを複数回答で聞いたところ、「通学に時間がかかるようになった」が 6.5%、「環境が変わったため、学習の進捗が遅れている」5.7%、「避難している子どもたちに対して放射能に関する偏見がある」3.6%などの順にあげられている。なお、教育(学校)について困っていることが「特にない」という回答者は、37.5%、「自分も家族も、現在、学校に通っていない」は 36.2%である。(図表 3-4-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-4-1)

図表 3-4-1 教育(学校)について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男女とも 40 代では家族が学校に通っている回答者が多く、「通学に時間がかかるようになった」(男性 16.4%、女性 17.4%)、「環境が変わったため、学習の進捗が遅れている」(同 14.1%、12.4%)などが、他の年代より多くあげられている。(図表 3-4-2)

図表 3-4-2 教育(学校)について困っていること(性・年代別)

		自分も家族も、現在、学校に通っていない	通学に時間がかかるようになった	環境が変わったため、学習の進捗が遅れている	避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある	避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	その他	特になし	無回答
全体	(n=7634)	36.2	6.5	5.7	3.6	2.7	1.9	3.1	37.5	10.4
男性10-20代	(n=333)	31.2	11.1	5.1	2.7	2.7	3.0	1.8	48.0	2.4
男性30代	(n=430)	29.1	7.9	5.8	4.9	4.4	3.0	4.2	49.1	2.3
男性40代	(n=505)	19.2	16.4	14.1	5.5	5.3	4.4	7.7	40.6	3.8
男性50代	(n=732)	36.6	4.2	5.2	2.2	2.3	1.4	3.1	44.0	6.3
男性60代	(n=758)	45.4	2.0	3.3	3.4	1.5	0.5	0.9	35.6	11.1
男性70代以上	(n=666)	40.4	2.0	2.7	2.9	1.4	0.6	1.1	33.6	18.5
女性10-20代	(n=381)	30.2	11.8	5.5	3.7	2.6	2.1	2.4	44.9	3.7
女性30代	(n=433)	26.1	14.1	10.9	4.8	5.3	4.6	8.1	41.3	1.8
女性40代	(n=547)	20.3	17.4	12.4	5.9	6.2	5.1	10.2	36.9	3.7
女性50代	(n=681)	49.0	4.1	4.1	2.3	2.3	1.3	1.8	32.7	8.2
女性60代	(n=728)	46.2	2.3	3.3	3.4	1.0	0.8	1.2	33.1	13.6
女性70代以上	(n=888)	40.3	1.9	2.5	3.3	1.1	0.6	0.9	31.1	21.5

現在の避難先別に見ると、会津若松市への避難者では、「環境が変わったため、学習の進捗が遅れている」(11.8%)、「避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある」(9.8%)、「教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった」(7.8%)の回答が他の自治体よりやや多く、教育(学校)に関する困りごとが全般的にやや多めになっている。(図表 3-4-3)

図表 3-4-3 教育(学校)について困っていること(現在の避難先別)

(%)

		自分も家族も、現在、学校に通っていない	通学に時間がかかるようになった	環境が変わったため、学習の進捗が遅れている	避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある	避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	その他	特になし	無回答
全体	(n=7634)	36.2	6.5	5.7	3.6	2.7	1.9	3.1	37.5	10.4
いわき市	(n=2689)	35.8	6.8	5.7	4.2	3.1	2.0	2.9	37.6	9.5
郡山市	(n=1713)	40.5	7.8	6.2	3.4	3.4	1.7	1.7	32.1	12.5
三春町	(n=225)	33.3	9.3	5.3	3.1	6.2	2.2	5.3	31.1	16.0
福島市	(n=218)	33.9	4.1	3.7	2.3	4.6	1.4	4.1	42.2	9.2
大玉村	(n=156)	42.9	8.3	2.6	2.6	3.2	0.6	2.6	32.7	13.5
会津若松市	(n=51)	23.5	2.0	11.8	9.8	2.0	7.8	2.0	47.1	5.9
白河市	(n=59)	13.6	-	1.7	6.8	1.7	-	5.1	61.0	11.9
福島県内のその他の市町村	(n=297)	39.4	5.4	4.7	1.7	2.0	1.7	2.4	35.7	12.1
その他	(n=2052)	34.0	5.4	5.9	3.5	1.0	1.9	4.1	42.6	8.3



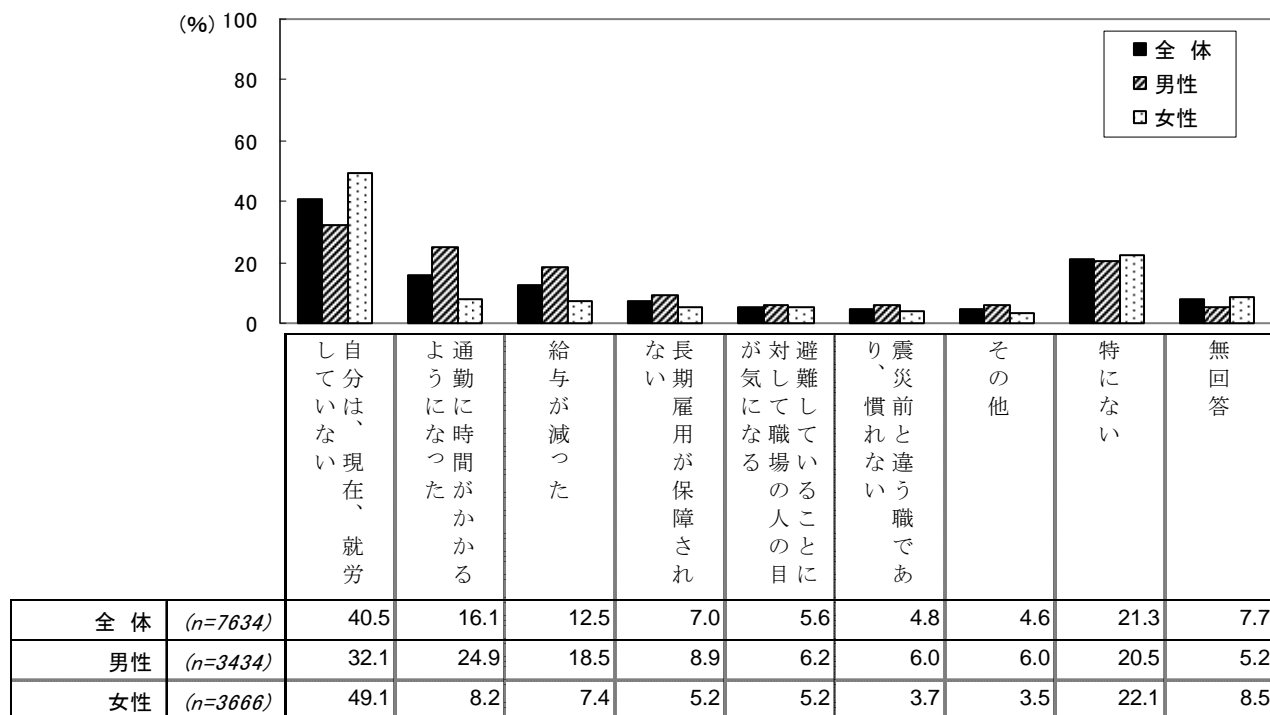
(5) 就労について困っていること

問 17 ご自身の就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。  
(〇はいくつでも)

就労について困っていることを複数回答で聞いたところ、「通勤に時間がかかるようになった」が 16.1%で最も多くあげられ、以下「給与が減った」(12.5%)、「長期雇用が保障されない」(7.0%)、「避難していることに対して職場の人の目が気になる」(5.6%)などの順となっている。就労に関して困っていることが「特にない」という回答者は 21.3%、「自分は、現在、就労していない」者は 40.5%である。(図表 3-5-1)

男女別に見ると、女性では、「自分は、現在就労していない」(49.1%)が約半数を占め、男女で大きな差が見られるが、上位項目の順位は男性と変わらない。(図表 3-5-1)

図表 3-5-1 就労について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男性の 30-50 代では「通勤に時間がかかるようになった」が 4 割前後、「給与が減った」が 3 割前後あげられている。「長期雇用が保障されない」との回答は、男性 30-50 代および女性 40 代の層で 1 割を超え、他の層よりも多い。「震災前と違う職であり、慣れない」については、男性 30 代の層では 12.6%で、他層に比べてやや多い。また、「避難していることに対して職場の人の目が気になる」は男性 30 代以下および女性 40 代の層で 1 割を超えており、他層に比べてやや多い。(図表 3-5-2)

現在の避難先別に見ると、白河市への避難者で、「避難していることに対して職場の人の目が気になる」(11.9%)の回答が他の自治体避難者に比べてやや多めになっている。そのほかに大きな差異は見られない。(図表 3-5-3)

図表 3-5-2 就労について困っていること(性・年代別)

(%)

		自分は、 現在、就 労してい ない	通勤に時 間がかか るようにな った	給与が 減った	長期雇用 が保障さ れない	避難して いること に対して 職場の人 の目が気 になる	震災前と 違う職で あり、慣 れない	その他	特にな い	無回答
全 体	(n=7634)	40.5	16.1	12.5	7.0	5.6	4.8	4.6	21.3	7.7
男性10-20代	(n=333)	31.2	23.4	15.0	9.9	11.7	8.7	4.2	25.2	1.5
男性30代	(n=430)	13.7	42.3	30.5	15.1	12.8	12.6	8.4	16.5	1.6
男性40代	(n=505)	14.5	42.0	34.5	13.9	9.5	8.7	9.7	15.0	0.8
男性50代	(n=732)	19.3	38.8	27.7	12.0	7.5	7.8	7.8	18.0	2.0
男性60代	(n=758)	48.3	11.9	8.2	5.5	1.8	2.1	4.9	22.0	6.1
男性70代以上	(n=666)	53.9	1.2	1.8	0.8	0.5	0.5	1.5	26.0	14.6
女性10-20代	(n=381)	41.5	10.5	12.3	8.1	9.7	5.2	2.6	26.8	2.9
女性30代	(n=433)	47.1	16.2	12.7	9.9	9.2	6.0	5.8	17.6	1.4
女性40代	(n=547)	42.8	17.2	16.5	11.3	11.2	8.0	7.1	13.0	2.4
女性50代	(n=681)	51.2	11.2	8.5	5.4	5.4	4.6	4.3	17.9	4.6
女性60代	(n=728)	59.2	2.3	2.5	1.9	1.4	1.4	2.1	22.5	10.2
女性70代以上	(n=888)	47.3	0.2	0.5	0.2	0.3	0.1	1.0	31.0	19.9

図表 3-5-3 就労について困っていること(現在の避難先別)

(%)

		自分は、 現在、就 労してい ない	通勤に時 間がかか るようにな った	給与が 減った	長期雇用 が保障さ れない	避難して いること に対して 職場の人 の目が気 になる	震災前と 違う職で あり、慣 れない	その他	特にな い	無回答
全 体	(n=7634)	40.5	16.1	12.5	7.0	5.6	4.8	4.6	21.3	7.7
いわき市	(n=2689)	36.8	23.6	16.6	7.4	6.4	4.3	3.8	19.7	7.1
郡山市	(n=1713)	46.9	13.8	8.2	6.9	3.1	4.0	3.9	18.6	9.0
三春町	(n=225)	36.9	19.6	8.0	4.4	5.8	0.4	4.4	21.3	12.0
福島市	(n=218)	34.9	12.4	6.9	2.8	6.4	3.7	5.0	33.0	5.0
大玉村	(n=156)	50.0	7.7	12.8	9.6	1.3	7.1	0.6	18.6	8.3
会津若松市	(n=51)	31.4	9.8	9.8	5.9	9.8	3.9	11.8	27.5	9.8
田村市	(n=44)	40.9	20.5	2.3	4.5	6.8	4.5	6.8	18.2	9.1
白河市	(n=59)	30.5	8.5	11.9	6.8	11.9	8.5	6.8	28.8	13.6
南相馬市	(n=46)	32.6	13.0	19.6	8.7	6.5	8.7	2.2	19.6	8.7
福島県内のその 他の市町村	(n=297)	37.4	10.8	13.5	5.7	4.7	3.7	6.4	24.6	11.4
その他	(n=2052)	42.0	10.2	11.8	7.1	6.3	6.3	6.0	24.0	5.8

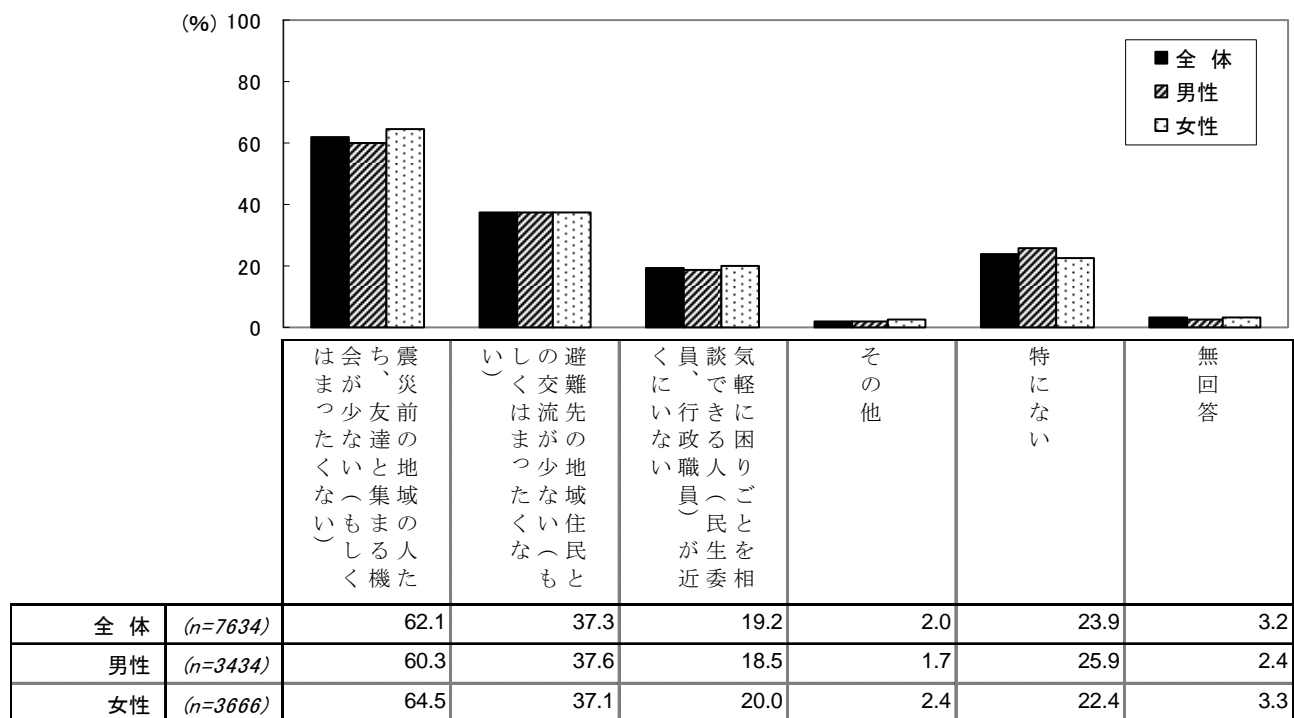
(6) 地域のコミュニティについて困っていること

問 18 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

地域のコミュニティについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 62.1%、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 37.3%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」が 19.2%の順にあげられている。「特にない」という回答者は 23.9%である。(図表 3-6-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-6-1)

図表 3-6-1 地域のコミュニティについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が最も多いが、男性 50 代以上と女性 50 代では、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 4 割を超え、比較的多くあげられている。(図表 3-6-2)

現在の避難先別に見ると、福島市および大玉村への避難者は、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」ともに、他の自治体への避難者に比べて回答が少ないほか、大玉村では、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」についても 1 割を下回っており、地域コミュニティに関する困りごとが比較的少ない自治体となっている。(図表 3-6-3)

図表 3-6-2 地域のコミュニティについて困っていること(性・年代別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と 集まる機会が 少ない(もしくは まったくない)	避難先の地域 住民との交流 が少ない(もしくは まったくない)	気軽に困りごと を相談できる人 (民生委員、行政 職員)が近くに いない	その他	特にな	無回答
全体	(n=7634)	62.1	37.3	19.2	2.0	23.9	3.2
男性10-20代	(n=333)	61.9	27.6	13.2	1.2	31.8	0.9
男性30代	(n=430)	53.0	32.6	20.0	1.6	33.0	0.9
男性40代	(n=505)	59.4	34.7	16.4	1.8	30.5	1.8
男性50代	(n=732)	61.9	40.0	18.9	1.6	27.0	1.1
男性60代	(n=758)	61.1	41.2	18.6	2.1	21.0	2.9
男性70代以上	(n=666)	62.3	41.1	21.0	1.2	19.2	5.0
女性10-20代	(n=381)	58.0	24.4	16.8	1.8	31.5	2.6
女性30代	(n=433)	63.3	30.5	20.3	1.8	27.7	0.5
女性40代	(n=547)	64.7	38.8	23.0	4.2	22.5	1.3
女性50代	(n=681)	67.0	42.1	19.5	2.3	20.6	2.1
女性60代	(n=728)	64.3	38.5	18.3	2.2	20.6	4.7
女性70代以上	(n=888)	66.0	39.8	21.2	1.9	18.9	6.1

図表 3-6-3 地域のコミュニティについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と 集まる機会が 少ない(もしくは まったくない)	避難先の地域 住民との交流 が少ない(もしくは まったくない)	気軽に困りごと を相談できる人 (民生委員、行政 職員)が近くに いない	その他	特にな	無回答
全体	(n=7634)	62.1	37.3	19.2	2.0	23.9	3.2
いわき市	(n=2689)	62.8	41.2	21.8	2.1	23.2	2.8
郡山市	(n=1713)	63.9	37.8	20.7	1.7	21.1	3.9
三春町	(n=225)	62.7	21.8	12.9	2.7	25.3	4.9
福島市	(n=218)	51.8	30.7	17.0	1.8	35.3	2.3
大玉村	(n=156)	55.1	16.0	9.6	-	34.0	4.5
会津若松市	(n=51)	64.7	39.2	17.6	-	21.6	3.9
白河市	(n=59)	59.3	40.7	8.5	3.4	25.4	3.4
福島県内のその 他の市町村	(n=297)	59.9	40.4	17.2	1.3	23.9	4.0
その他	(n=2052)	61.3	34.6	17.1	2.2	26.0	2.5

#### 4. 今後の避難生活に関する意見

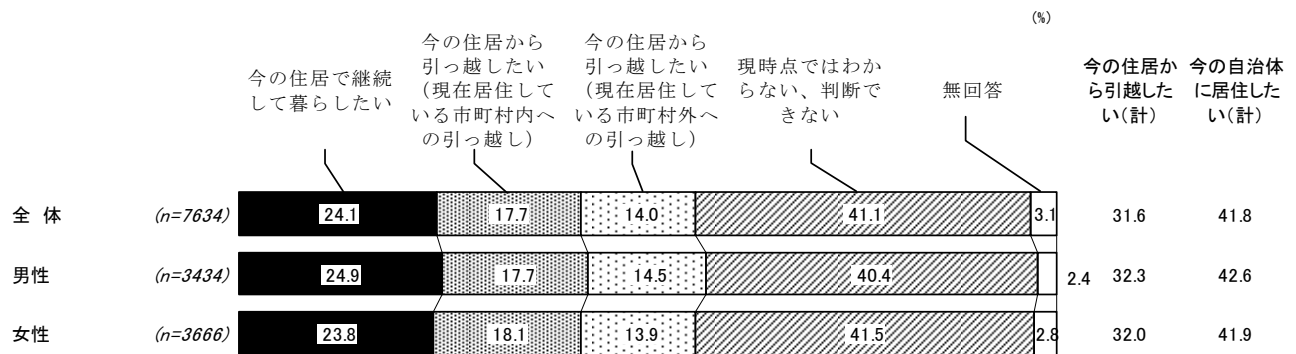
##### (1) 避難期間中過ごしたい場所

問 19 震災発生当時にお住まいだった地区からの避難が続く場合、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。(〇は1つ)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所を聞いたところ、「現時点ではわからない、判断できない」という回答者が41.1%と最も多く、「今の住居で継続して暮らしたい」という回答者は24.1%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」が17.7%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」が14.0%であり、『今の住居から引っ越したい(計)』は合わせて31.6%である。現在居住自治体に継続居住したい人は、41.8%である。(図表4-1-1)

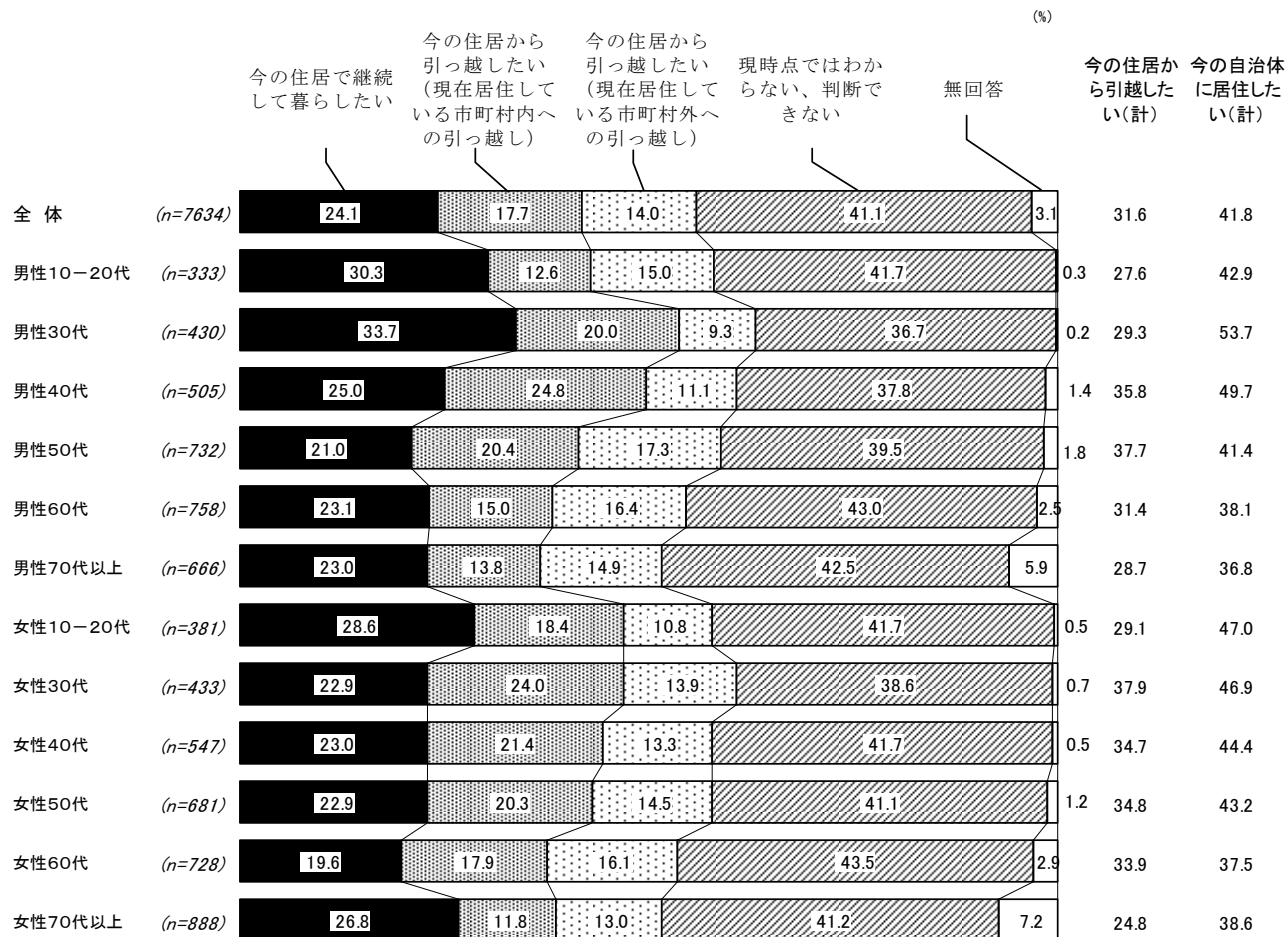
男女別に見て、大きな差はみられない。(図表4-1-1)

図表4-1-1 希望する避難居住地(男女別)



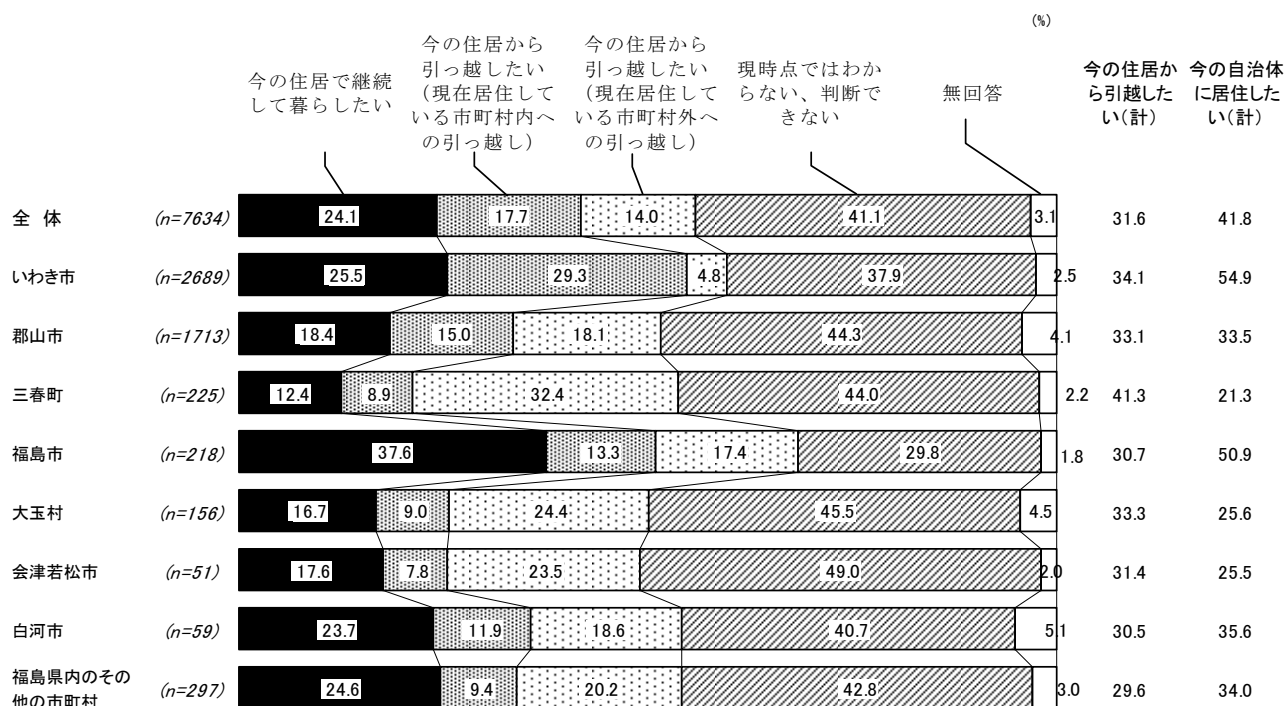
性・年代別に見ると、いずれの層でも「現時点ではわからない、判断できない」という回答が最も多いが、男性の10-20代で30.3%、男性30代で33.7%が「今の住居で継続して暮らしたい」と回答しており、他の層よりも多い。男女とも50代以下の層では、いずれも4割を超える人が現在居住自治体に継続居住を希望しており、60代以上の年齢層と傾向が異なっている。(図表 4-1-2)

図表 4-1-2 希望する避難居住地(性・年代別)



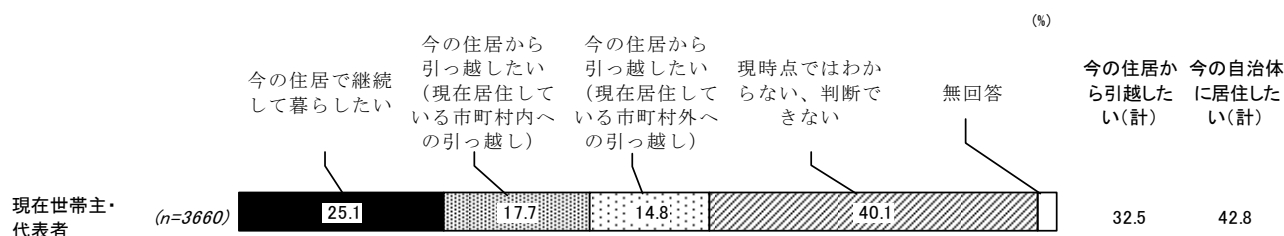
現在の避難先別に見ると、いわき市、および福島市への避難者は、5割を超える人が現在居住自治体に継続居住を希望している。その内訳としては、いわき市避難者では、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」(29.3%)が「今の住居で継続して暮らしたい」(25.5%)を上回っている。福島市避難者では、「今の住居で継続して暮らしたい」(37.6%)が「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」(13.3%)を大きく上回っている。「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」との回答者が比較的多いのは、三春町(32.4%)、大玉村(24.4%)、会津若松市(23.5%)への各避難者などである。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 希望する避難居住地(現在の避難先別)



現在世帯主(または代表者、3,660人)で見ると、「現時点ではわからない、判断できない」という回答者が40.1%と最も多く、「今の住居で継続して暮らしたい」という回答者は25.1%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」が17.7%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」が14.8%であり、『今の住居から引っ越したい(計)』は合わせて32.5%、現在居住自治体に継続居住したい人は42.8%である。(図表 4-1-4)

図表 4-1-4 希望する避難居住地(現在世帯主・代表者)



(2)避難期間中の転居予定先

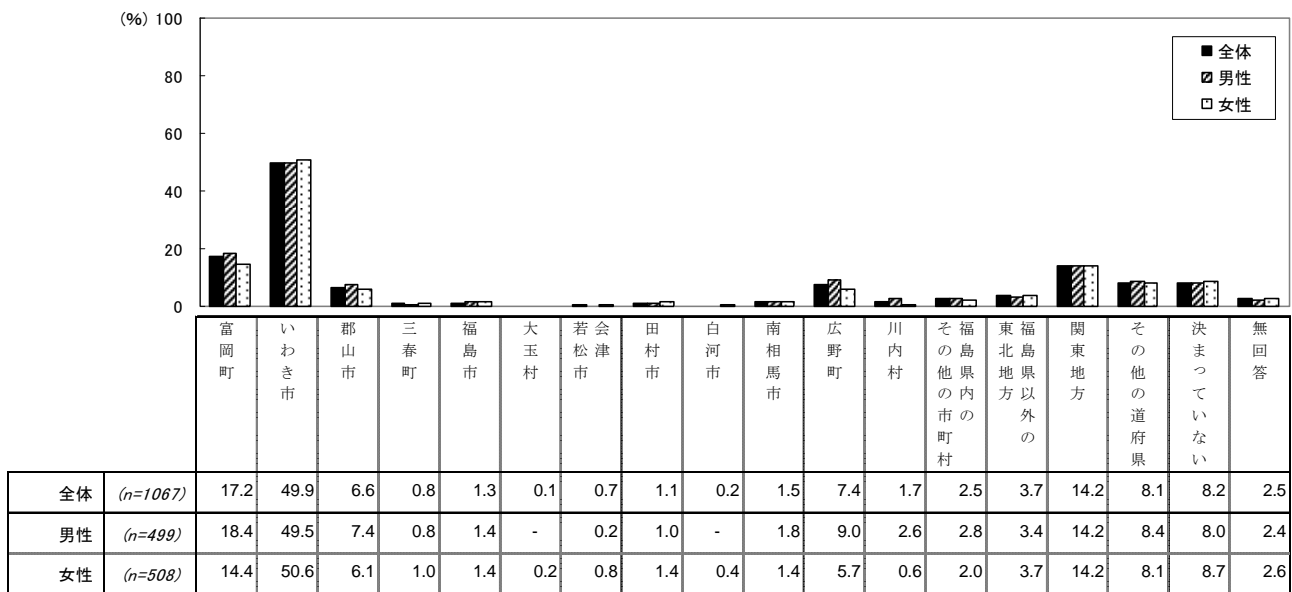
【問 19 で「3 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にかがいます。それ以外の方は問 22 へお進みください。】

問 21 どちらに移動することを望みますか。(○はいくつでも)

これから避難解除までの間、今の住居から市町村外に引っ越したい回答者(1,067 人)に、移動希望自治体を複数回答で聞いたところ、「いわき市」(49.9%)が約半数を占め、次いで「富岡町」(17.2%)、「広野町」(7.4%)、「郡山市」(6.6%)の順となっている。福島県外では、「関東地方」(14.2%)、「その他の道府県」(8.1%)、「福島県以外の東北地方」(3.7%)で、「決まっていない」は8.2%である。(図表 4-2-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 4-2-1)

図表 4-2-1 避難期間中の転居予定先(男女別)



年代別に見ると、30代以上の層では4割を超えている「いわき市」が10-20代は30.9%であり、「関東地方」(33.0%)や、「その他の道府県」(21.3%)への転居希望が、他の年代より多い。また、70代以上では「富岡町」が35.5%と、他の年代より20ポイント以上高くなっている。(図表 4-2-2)

図表 4-2-2 避難期間中の転居予定先(年代別)

	富岡町	いわき市	郡山市	三春町	福島市	大玉村	会津若松市	田村市	白河市	南相馬市	広野町	川内村	福島県内の市町村	福島県以外の東北地方	関東地方	その他の道府県	決まっていない	無回答
全体 (n=1067)	17.2	49.9	6.6	0.8	1.3	0.1	0.7	1.1	0.2	1.5	7.4	1.7	2.5	3.7	14.2	8.1	8.2	2.5
10-20代 (n=94)	9.6	30.9	6.4	-	-	-	1.1	-	-	5.3	4.3	1.1	-	3.2	33.0	21.3	10.6	4.3
30代 (n=105)	10.5	54.3	11.4	2.9	1.0	1.0	-	1.0	-	3.8	4.8	-	2.9	4.8	16.2	9.5	7.6	-
40代 (n=131)	13.0	43.5	8.4	1.5	3.1	-	0.8	1.5	-	3.1	3.1	0.8	3.8	5.3	19.1	8.4	12.2	0.8
50代 (n=233)	12.9	46.8	8.6	0.9	0.4	-	0.9	2.1	-	0.9	7.7	2.1	4.3	3.9	15.9	9.9	10.7	0.9
60代 (n=251)	11.2	57.0	8.0	0.8	2.0	-	-	0.4	0.4	0.4	7.6	2.0	1.6	3.6	12.4	6.4	8.0	2.8
70代以上 (n=234)	35.5	55.6	1.3	-	1.3	-	0.9	1.3	0.4	-	11.5	2.1	1.3	2.6	4.3	2.1	3.4	5.6



世帯主(または代表者)で、これから避難解除までの間、今の住居から市町村外に引っ越したい回答者(541人)で今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所を見ると、「いわき市」(52.1%)が過半数を超え、次いで「富岡町」(19.2%)、「広野町」(8.3%)、「郡山市」(6.8%)の順となっている。福島県外では、「関東地方」(13.9%)、「その他の道府県」(7.8%)、「福島県以外の東北地方」(3.9%)で、「決まっていない」は8.3%である。(図表 4-2-3)

図表 4-2-3 避難期間中の転居予定先(現在世帯主・代表者)

		富岡町	いわき市	郡山市	三春町	福島市	大玉村	会津若松市	田村市	白河市	南相馬市	広野町	川内村	福島県内の その他の市 町村	福島県以外 の東北地方	関東地方	その他の道 府県	決まってい ない	無回答
全体	(n=1067)	17.2	49.9	6.6	0.8	1.3	0.1	0.7	1.1	0.2	1.5	7.4	1.7	2.5	3.7	14.2	8.1	8.2	2.5
現在世帯主・代表者	(n=541)	19.2	52.1	6.8	0.9	1.1	-	0.4	0.9	0.2	1.1	8.3	2.4	2.8	3.9	13.9	7.8	8.3	1.8

(3)避難期間中に希望する住居形態

【問19で「2」「3」「4」と回答した方にかかっています。】  
 問20 避難期間中の住居には、どのような所有形態、住宅の建て方を望みますか。  
 (1) 所有形態(○は1つ)  
 (2) 住宅の建て方(○は1つ)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所として「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」、または「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」、または「現時点ではわからない、判断できない」と回答した人(5,555人)に、避難期間中の生活において居住を希望する住居の所有形態を聞いたところ、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」を希望する回答者が49.1%で最も多く、次いで、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(25.5%)、「民間賃貸」(17.9%)の順となっている。「給与住宅(社宅、公務員宿舎など)」は1.2%にとどまる。(図表4-3-1①)

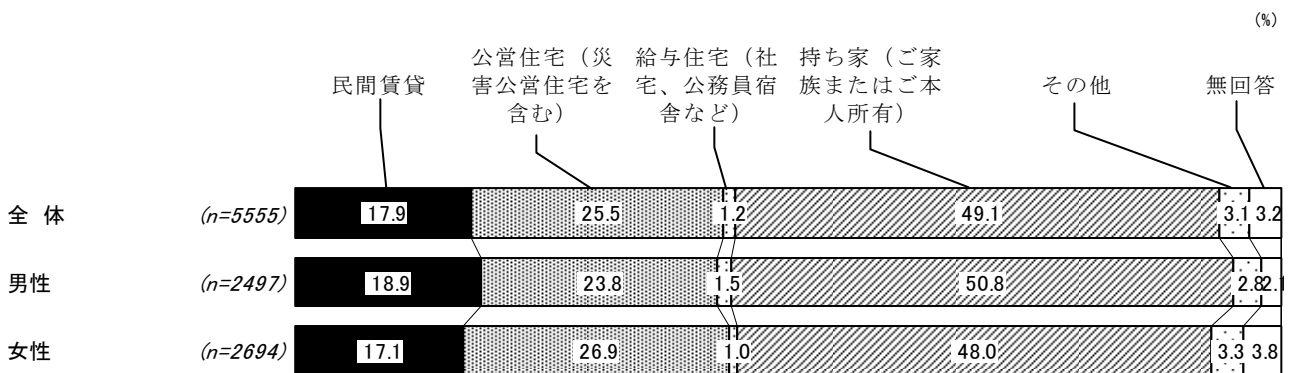
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表4-3-1①)

建て方の希望としては、「一戸建て」が72.7%で大多数を占め、「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」(13.7%)と「集合住宅(一般的な中高層のもの)」(7.5%)を合わせた『集合住宅(計)』は21.3%にとどまる。(図表4-3-1②)

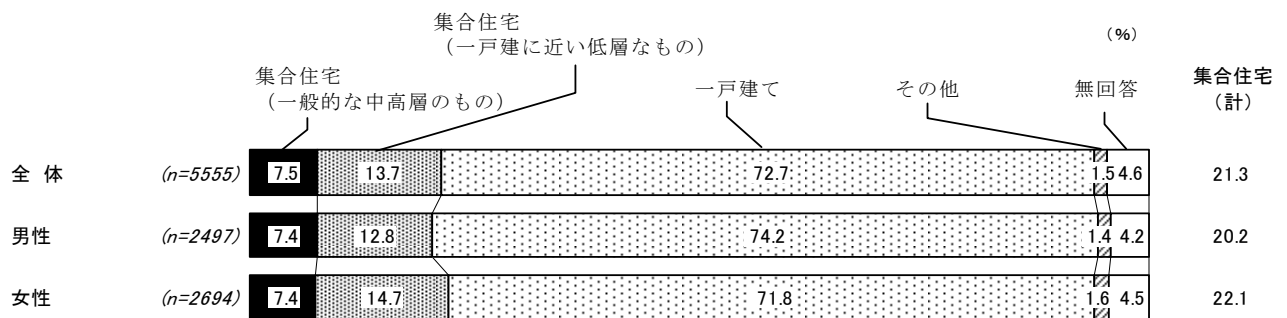
男女別に見ても、男女ともに「一戸建て」(男性74.2%、女性71.8%)を希望する者が多数を占めており、大きな差はみられない。(図表4-3-1②)

図表4-3-1 希望する避難期間中の住居(男女別)

①所有形態



②建て方

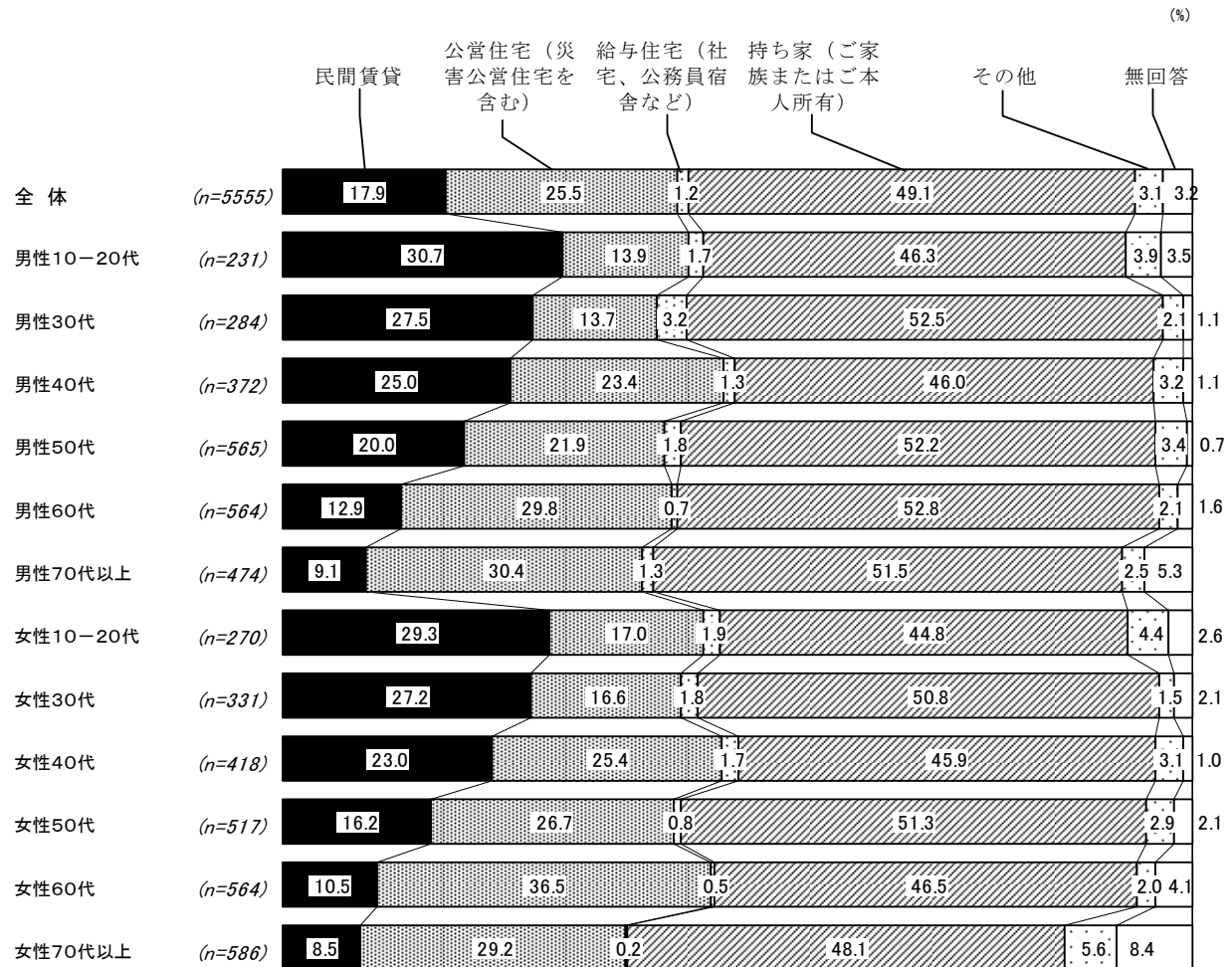


希望所有形態を性・年代別に見ると、いずれの層でも「持ち家(ご家族またはご本人所有)」の希望が最も強いものの、男女とも若年齢層ほど「民間賃貸」への入居希望も強く、男性40代以下ならびに女性30代以下の層では25%を超えている。「公営住宅(災害公営住宅を含む)」への入居希望は、男女とも高年齢層で強く、男性60代以上ならびに女性40代以上の層では25%を超えている。(図表4-3-2①)

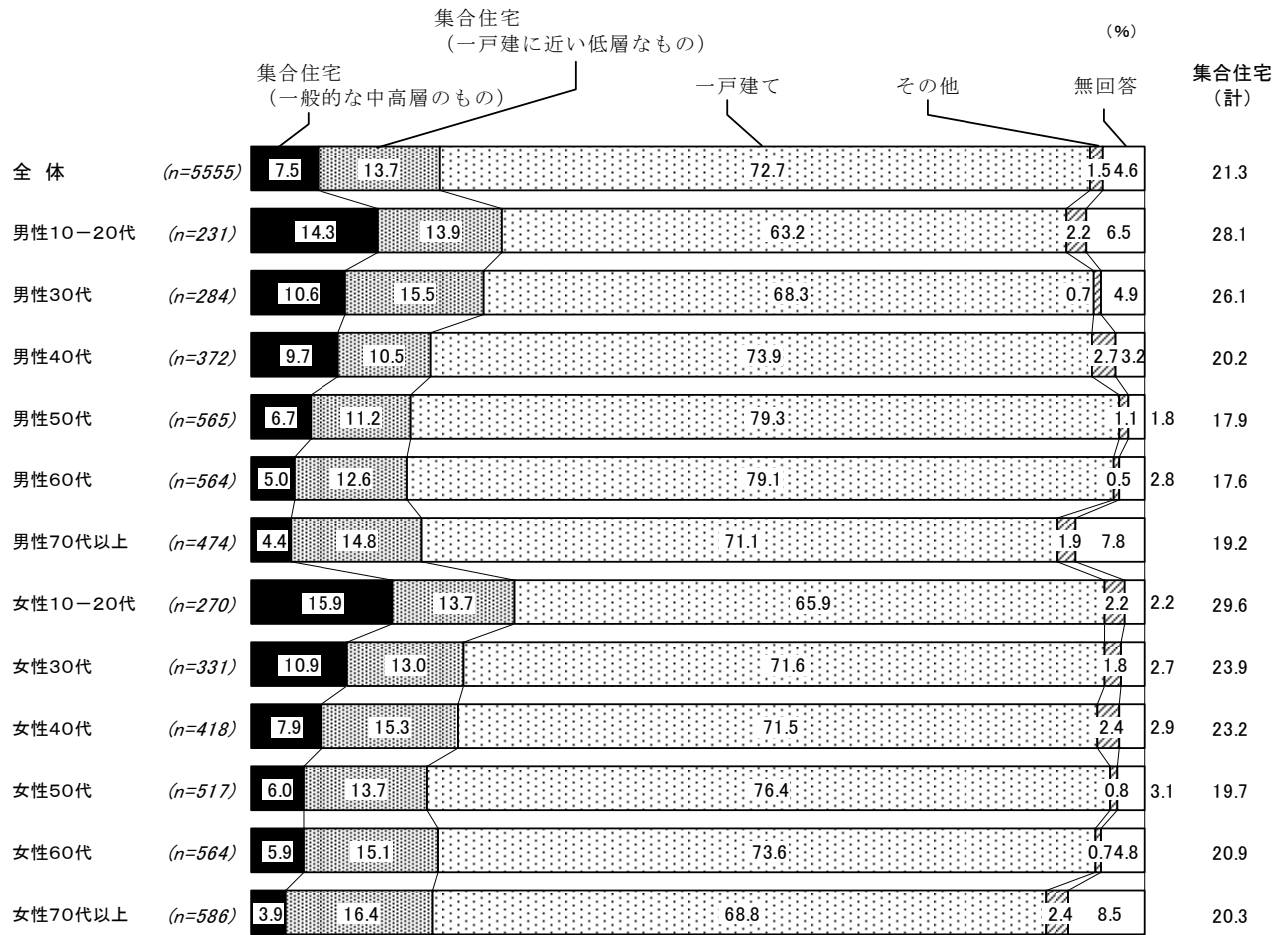
希望の建て方を性・年代別に見ると、いずれの層でも「一戸建て」を希望する者が多数を占めるが、男女とも若年齢層ほど「集合住宅(一般的な中高層のもの)」を希望する割合が高くなり、男女とも30代以下の層では1割を超える。(図表4-3-2②)

図表4-3-2 希望する避難期間中の住居(性・年代別)

①所有形態

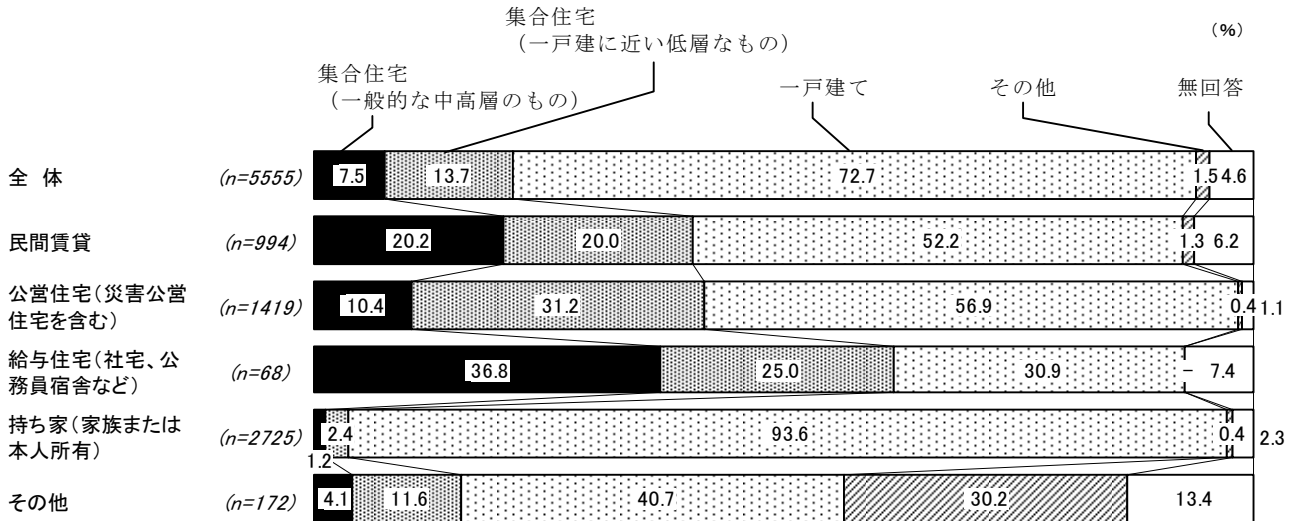


②建て方



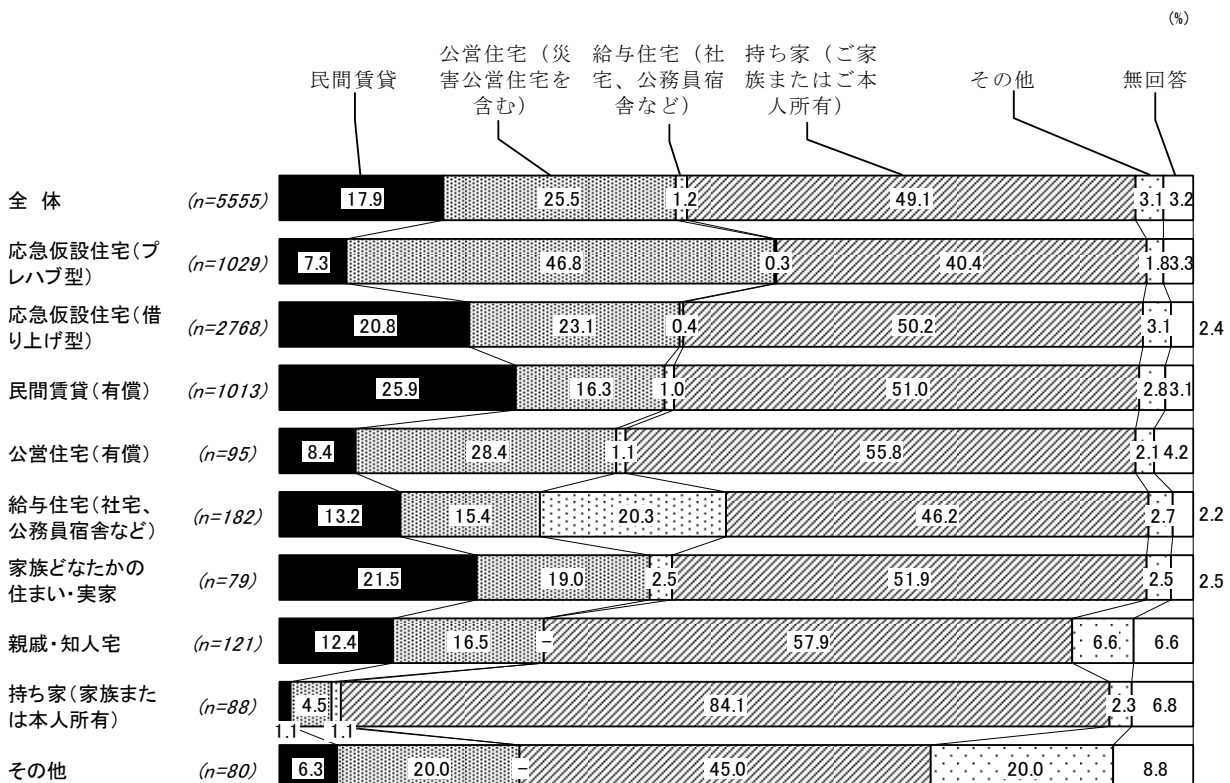
希望する所有形態別に希望する建て方を見ると、「一戸建て」の希望は、民間賃貸希望者(52.2%)、公営住宅(災害公営住宅を含む)希望者(56.9%)では5割台で、給与住宅(社宅・公務員宿舎など)希望者では30.9%であるのに対し、持ち家(家族または本人所有)希望者では93.6%が「一戸建て」を希望している。(図表 4-3-3)

図表 4-3-3 希望する避難期間中の住居(希望する所有形態別)



希望所有形態を現在の居住住居形態別に見ると、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」の希望は、応急仮設住宅(プレハブ型)居住者では46.8%で、他の居住形態に比べて要望者が多い。応急仮設住宅(借り上げ型)居住者では、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」の希望は23.1%にとどまり、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」50.2%のほが多数を占めている。民間賃貸(有償)居住者では、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」(51.0%)に次いで多いのは「民間賃貸」(25.9%)となっている。公営住宅(有償)居住者では、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」(55.8%)が最も多く、次いで「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(28.4%)となっている。(図表 4-3-4)

図表 4-3-4 希望する避難期間中の住居所有形態(現在の居住住居形態別)

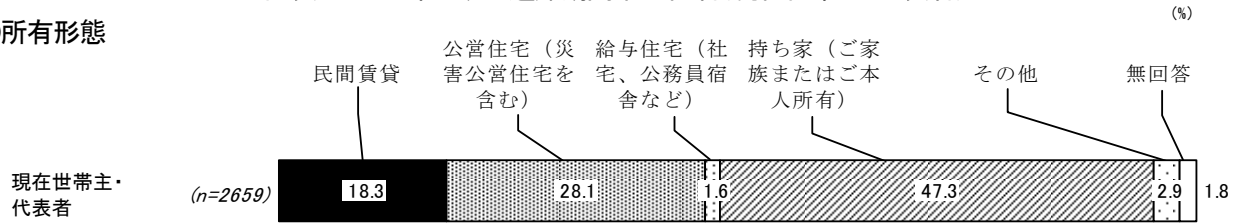


現在世帯主(または代表者、2,659 人)の希望する住居の所有形態を見ると、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」を希望する回答者が 47.3%で最も多く、次いで、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(28.1%)、「民間賃貸」(18.3%)、「給与住宅(社宅、公務員宿舎など)」(1.6%)となっている。(図表 4-3-5①)

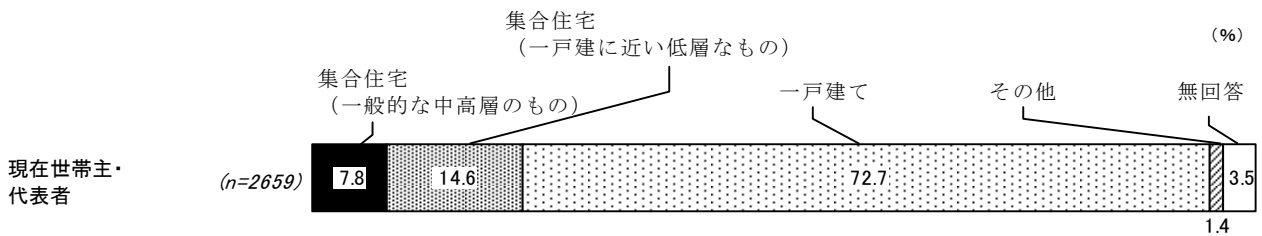
現在世帯主(または代表者)の希望する住居の建て方は、「一戸建て」72.7%が圧倒的に多く、次いで「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」14.6%、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」7.8%の順である。(図表 4-3-5②)

図表 4-3-5 希望する避難期間中の住居(現在世帯主・代表者)

①所有形態



②建て方



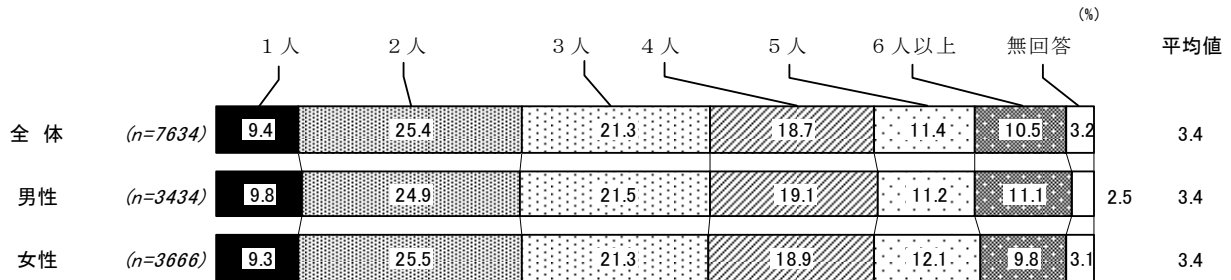
(4) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数

問 22 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に)

今後一緒に住む予定の世帯家族人数を聞いたところ、「1人」が9.4%、「2人」が25.4%、「3人」が21.3%、「4人」が18.7%、「5人」が11.4%、「6人以上」が10.5%である。(図表4-4-1)

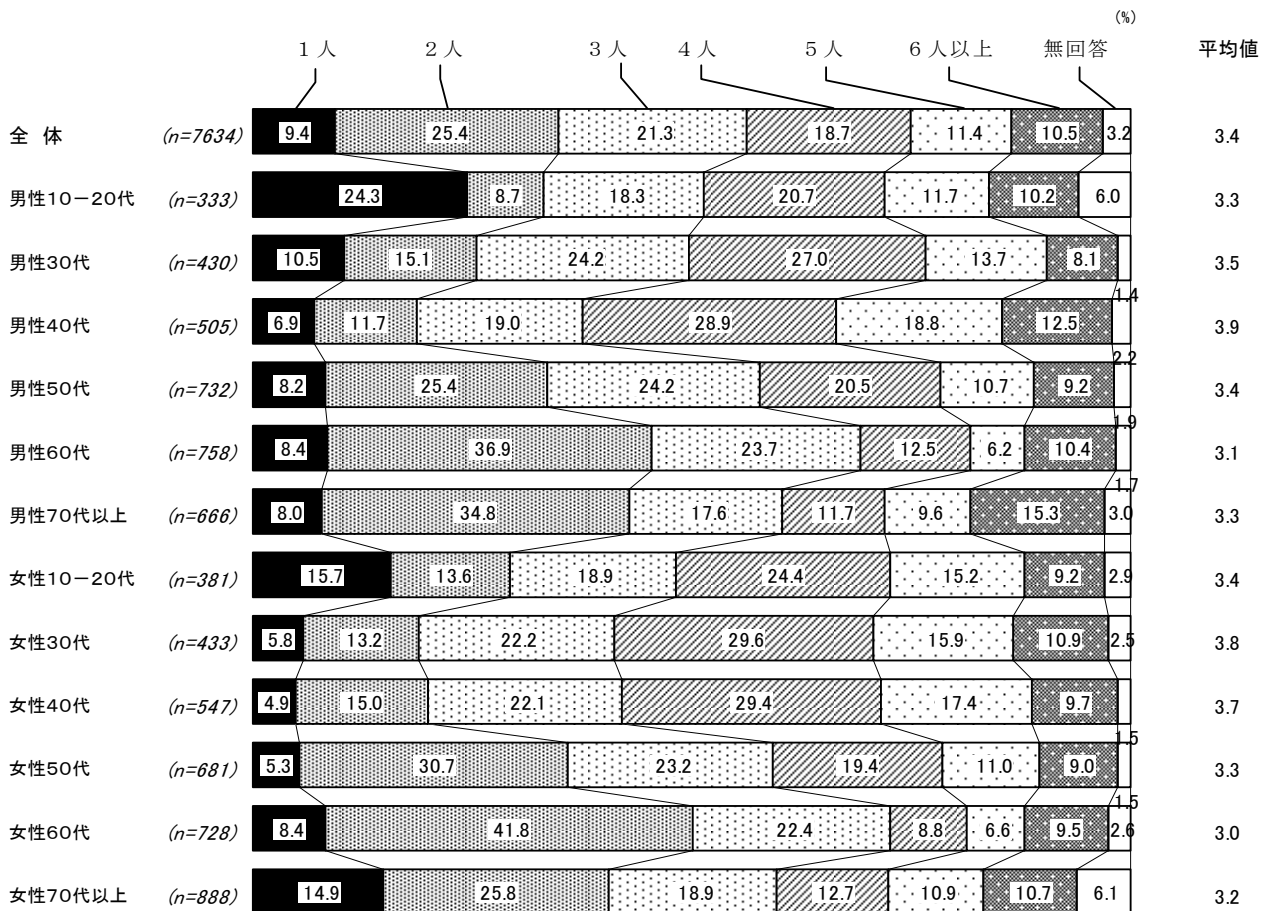
男女別に見ても、差はみられない。(図表4-4-1)

図表 4-4-1 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(男女別)



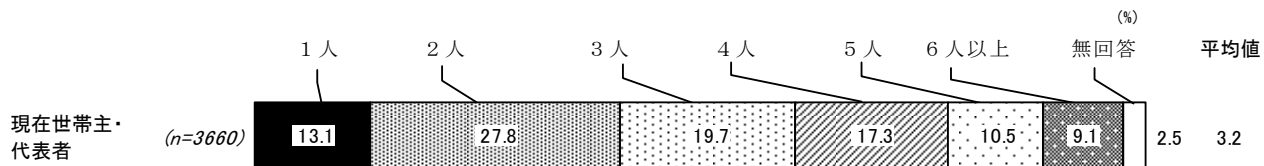
性・年代別に見ると、「1人」は、男性10-20代(24.3%)、女性10-20代(15.7%)、女性70代以上(14.9%)で、比較的多い。男性40代、女性30-40代では4人以上が他の年代よりも多くなっている。(図表4-4-2)

図表 4-4-2 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(性・年代別)



現在世帯主(または代表者、3,660 人)において、希望同居家族人数平均は 3.2 人である。これは、震災発生当時の同居家族人数平均の 3.2 人と同じであり、現在の同居家族人数平均の 2.6 人よりも多い人数となっている(p17 参照)。(図表 4-4-3)

図表 4-4-3 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(現在世帯主・代表者)





## 5. 町内外生活拠点に対する意見

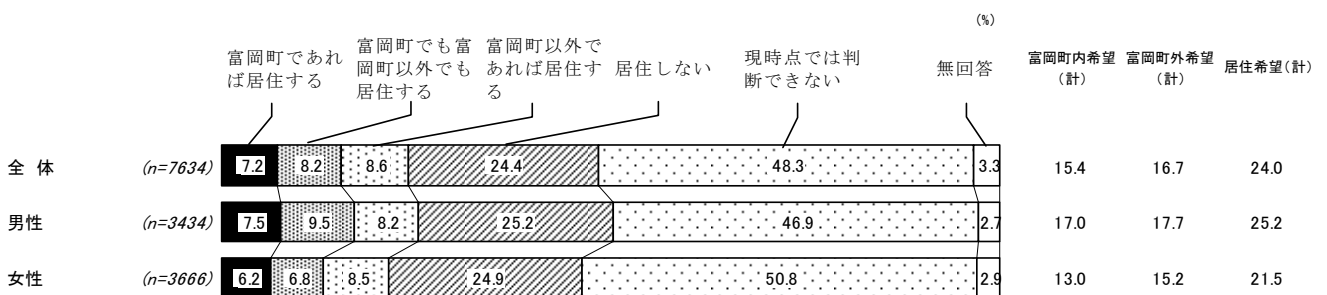
### (1) 町内外生活拠点への居住意向

問 23 町が、町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、あなたはそこに居住しますか。(○は1つ)

町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、居住するかどうか意向を聞いたところ、「現時点では判断できない」という回答者が48.3%であり、約半数を占めている。居住意向者は計24.0%であるが、「富岡町以外であれば居住する」(8.6%)、「富岡町でも富岡町以外でも居住する」(8.2%)、「富岡町であれば居住する」(7.2%)は、ほぼ同程度に分かれており、「富岡町でも富岡町以外でも居住する」をそれぞれ加えると、『富岡町内希望(計)』は15.4%、『富岡町外希望(計)』は16.7%で、わずかに町外希望者のほうが多い。また、「居住しない」との回答は24.4%で、居住意向合計と拮抗している。(図表5-1-1)

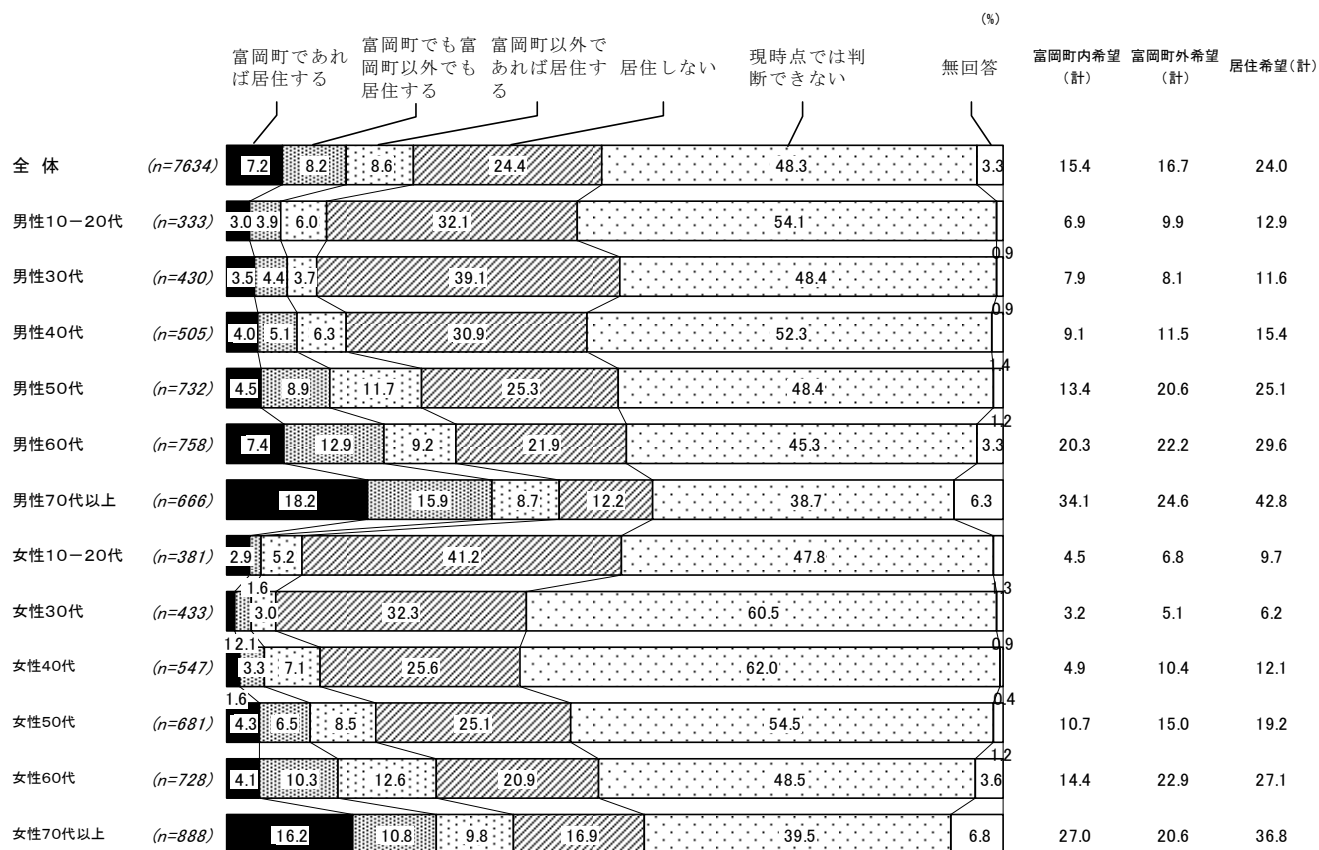
男女別に見ると、大きな差はみられない。(図表5-1-1)

図表 5-1-1 復興の拠点への居住意向(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも「現時点では判断できない」という回答が多いが、男性 40 代以下、女性 50 代以下の層では居住意向者の割合は 2 割未満であるのに対して、男性 50-60 代、女性 60 代では 2 割台、男女 70 代以上では 4 割前後と多くなっている。居住意向者の内訳として、男女とも 60 代以下の層では、富岡町外の設置希望が町内の設置希望よりも多いが、男女ともに 70 代以上は、町内の設置希望が町外の設置希望を上回っている。特に、70 代以上では「富岡町であれば居住する」が多く、男性 70 代以上で 18.2%、女性 70 代以上で 16.2%となっている。「居住しない」という回答は、男性 40 代以下、女性 30 代以下では 3 割を超えており、高齢層よりも多くなっている。(図表 5-1-2)

図表 5-1-2 復興の拠点への居住意向(性・年代別)



(2) 町内外生活拠点へ移転するまでに待てる年数

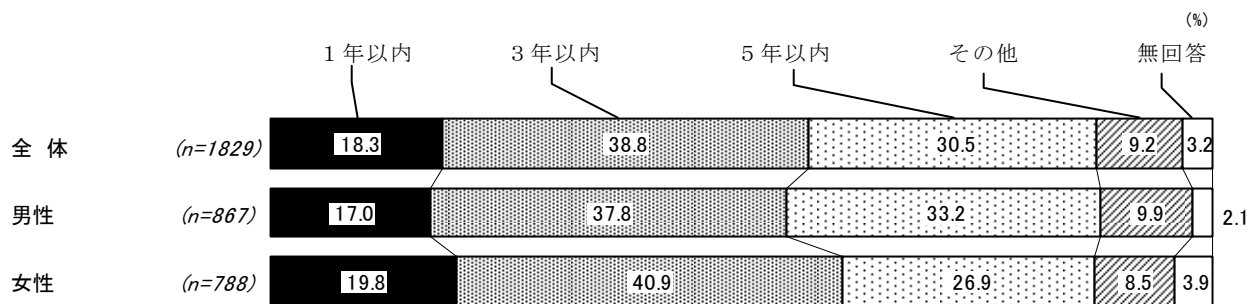
【問 23 で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

問 24 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこに移転するまで、現時点からどのくらいの期間であれば待つことができますか。(○は1つ)

町が、町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(1,829人)に、そこに移転するまで、どのくらいの期間であれば待つことができるかを聞いたところ、「3年以内」が38.8%で最も多い。次いで、「5年以内」が30.5%、「1年以内」が18.3%である。

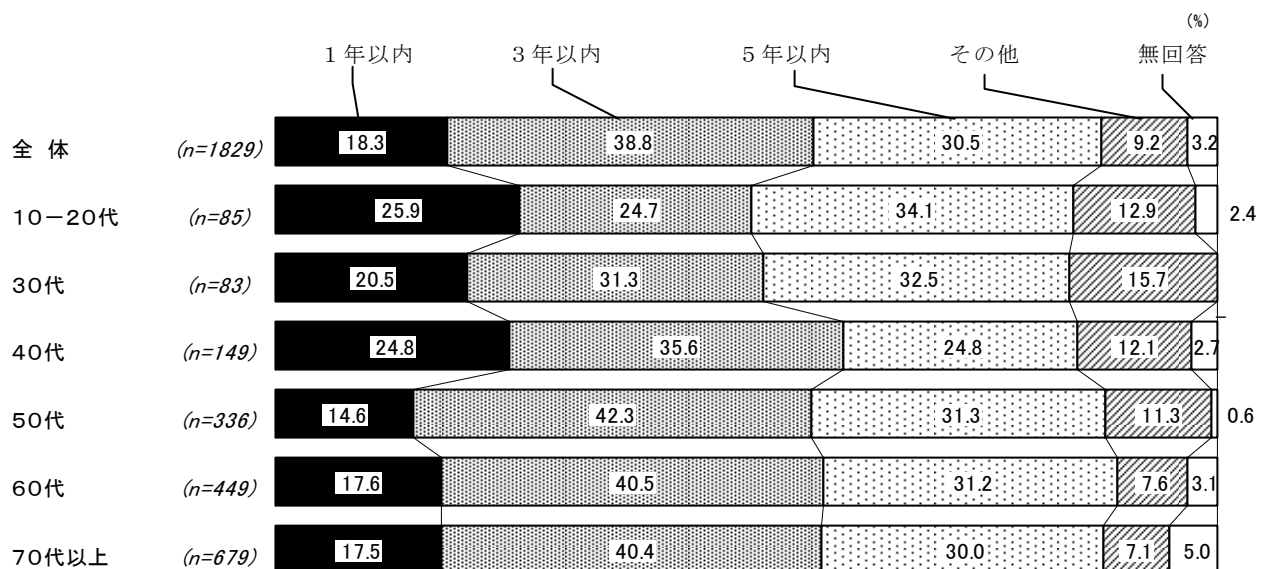
男女別に見ると、3年以内の合計では男性より女性がやや多く(男性 54.8%、女性 60.7%)、「5年以内」(同 33.2%、26.9%)は女性より男性にやや多い。(図表 5-2-1)

図表 5-2-1 復興拠点へ移転するまでの猶予年数(居住意向者)(男女別)



年代別に見ると、40代以下では「1年以内」が2割を超えて50代以上よりも多めである。「3年以内」との回答は50代以上では4割台で、40代以下よりも多めである。(図表 5-2-2)

図表 5-2-2 復興拠点へ移転するまでの猶予年数(居住意向者)(年代別)



(3) 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること

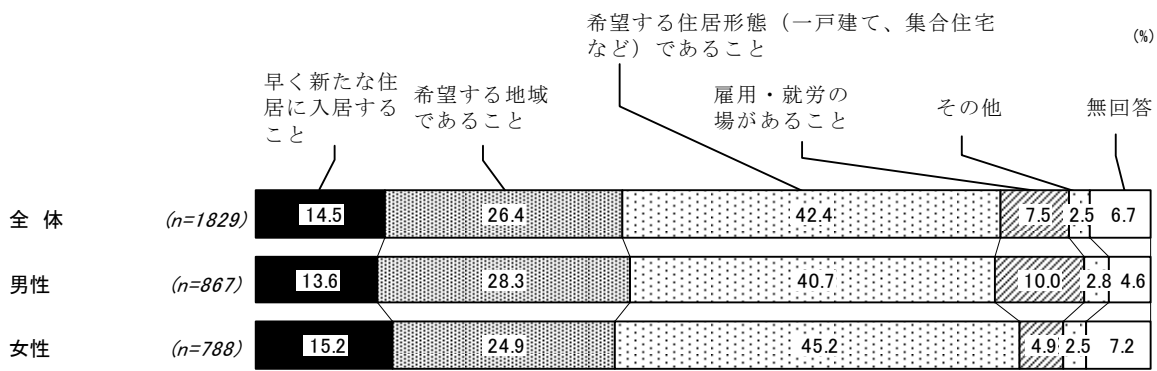
【問 23 で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

問 25 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこへ移転するかどうかを決める上で、あなたがもっとも優先することは何ですか。(○は1つ)

町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(1,829 人)に、そこへ移転するかどうかを決める上で最も優先することを聞いたところ、「希望する住居形態(一戸建て、集合住宅など)であること」が 42.4%で最も多い。次いで、「希望する地域であること」が 26.4%、「早く新たな住居に入居すること」が 14.5%、「就労・雇用の場があること」が 7.5%の順となっている。(図表 5-3-1)

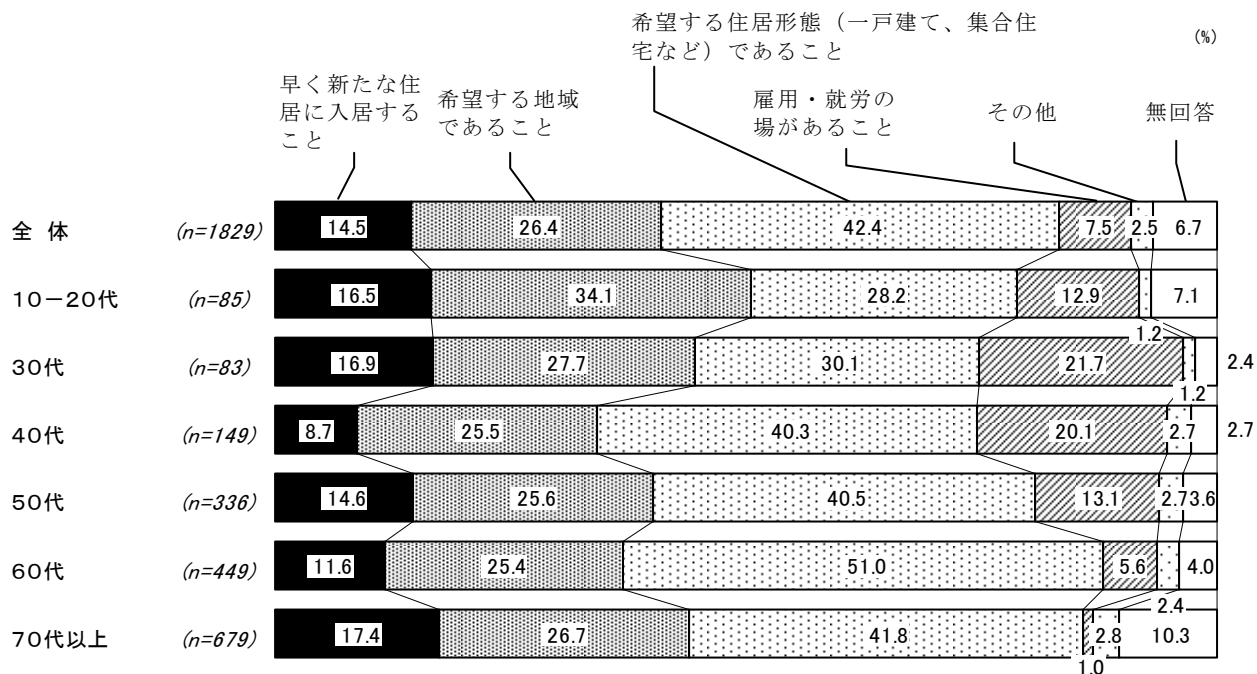
男女別に見ると、男女とも「希望する住居形態(一戸建て、集合住宅など)であること」(男性 40.7%、女性 45.2%)を最も優先するという回答者が4割を超えて多く、大きな開きはない。「雇用・就労の場があること」(同 10.0%、4.9%)は女性より男性の方がやや多くなっている。(図表 5-3-1)

図表 5-3-1 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること(男女別)



年代別に見ると、30代以上の年齢層では「希望する住居形態（一戸建て、集合住宅など）であること」が最も多く、特に50代では51.0%で半数を超える。10-20代では「希望する地域であること」が「希望する住居形態（一戸建て、集合住宅など）であること」（28.2%）を上回り、34.1%で最も多くなっており、他の年代層と傾向が異なっている。30-40代では、「雇用・就労の場があること」が2割を超えており、他の年代よりも多い。（図表5-3-2）

図表 5-3-2 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること（年代別）



(4) 生活拠点に求めるもの

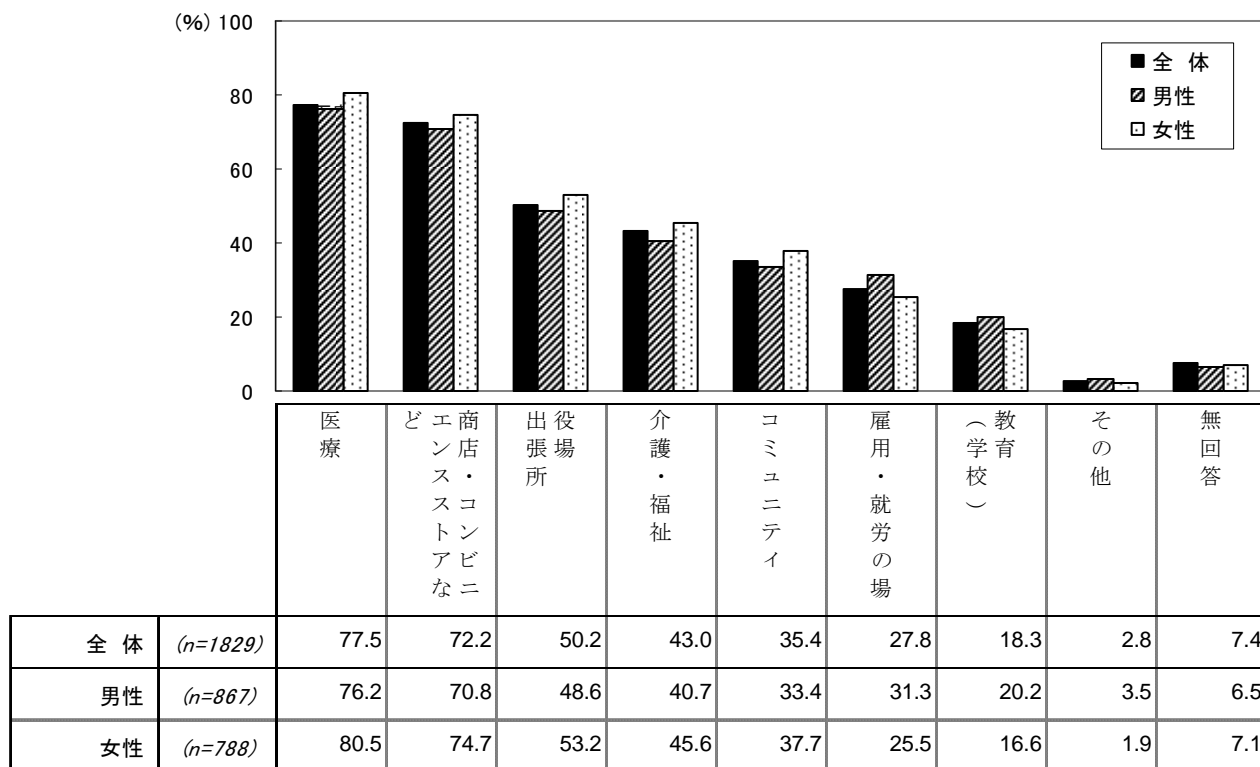
【問23で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

問 26 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこに求めるもの(住宅を除く)は何ですか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(1,829人)に、そこに求めるもの(住宅を除く)を複数回答で聞いたところ、「医療」が77.5%で最も多く、以下、「商店・コンビニエンスストアなど」(72.2%)、「役場出張所」(50.2%)、「介護・福祉」(43.0%)、「コミュニティ」(35.4%)、「雇用・就労の場」(27.8%)、「教育(学校)」(18.3%)の順となっている。(図表5-4-1)

男女別に見ると、「雇用・就労の場」(男性31.3%、女性25.5%)と「教育(学校)」(同20.2%、16.6%)は、女性より男性でやや高く、それ以外の項目は男性より女性でやや高い。(図表5-4-1)

図表5-4-1 復興拠点に求めるもの(居留意向者)(男女別)



年代別に見ると、いずれの層でも「医療」と「商店・コンビニエンスストアなど」の2項目は6割を超える高率で、優先度が高い。特に60代以上の層では「医療」は8割を超える。「雇用・就労の場」は40代以下の層で、「介護・福祉」は70代以上で、「役場出張所」は60代以上で、それぞれ5割を超えている。「教育(学校)」は30-40代で3割を超える。(図表5-4-2)

図表5-4-2 復興拠点に求めるもの(居留意向者)(年代別)

(%)

		医療	商店・コンビニエンスストアなど	役場出張所	介護・福祉	コミュニティ	雇用・就労の場	教育(学校)	その他	無回答
全体	(n=1829)	77.5	72.2	50.2	43.0	35.4	27.8	18.3	2.8	7.4
10-20代	(n=85)	61.2	70.6	43.5	25.9	35.3	58.8	27.1	1.2	7.1
30代	(n=83)	77.1	72.3	44.6	32.5	33.7	53.0	44.6	-	3.6
40代	(n=149)	67.1	69.8	48.3	22.8	25.5	51.0	34.9	4.7	7.4
50代	(n=336)	76.8	69.3	44.0	37.5	35.7	45.5	19.0	3.3	6.8
60代	(n=449)	81.3	75.1	53.5	41.6	39.6	24.7	15.6	3.8	5.6
70代以上	(n=679)	80.6	73.9	53.9	55.2	35.5	9.6	12.5	1.9	8.4

(5) 生活拠点を町外に設置する場合の望ましいコミュニティの単位

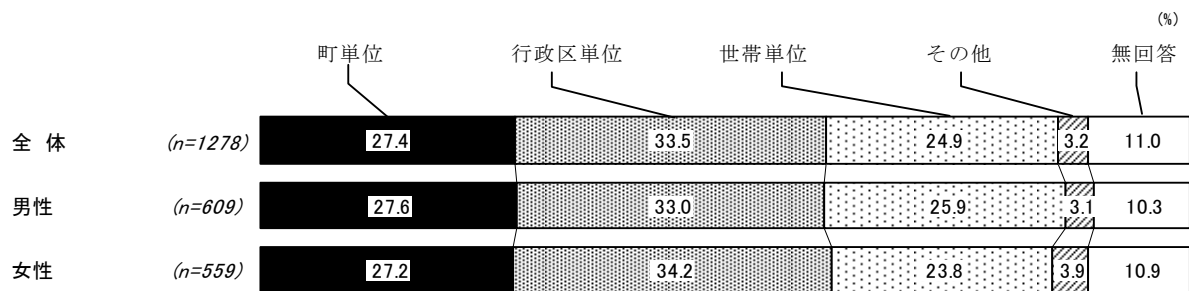
【問 23 で「2 富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「3 富岡町以外であれば居住する」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 29 へお進みください。】

問 27 町が生活の拠点となる場所を町外に設ける場合、富岡町民がどの程度でまとまって移転することが望ましいと考えますか。  
(○は1つ)

町が、生活の拠点となる場所を設ける場合「富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「富岡町以外であれば居住する」と回答した人(1,278 人)に、町外設置した生活拠点に富岡町民がどの程度のコミュニティの単位で移転することが望ましいと考えるかを聞いたところ、「行政区単位」が 33.5%、「町単位」が 27.4%、「世帯単位」が 24.9%となっている。(図表 5-5-1)

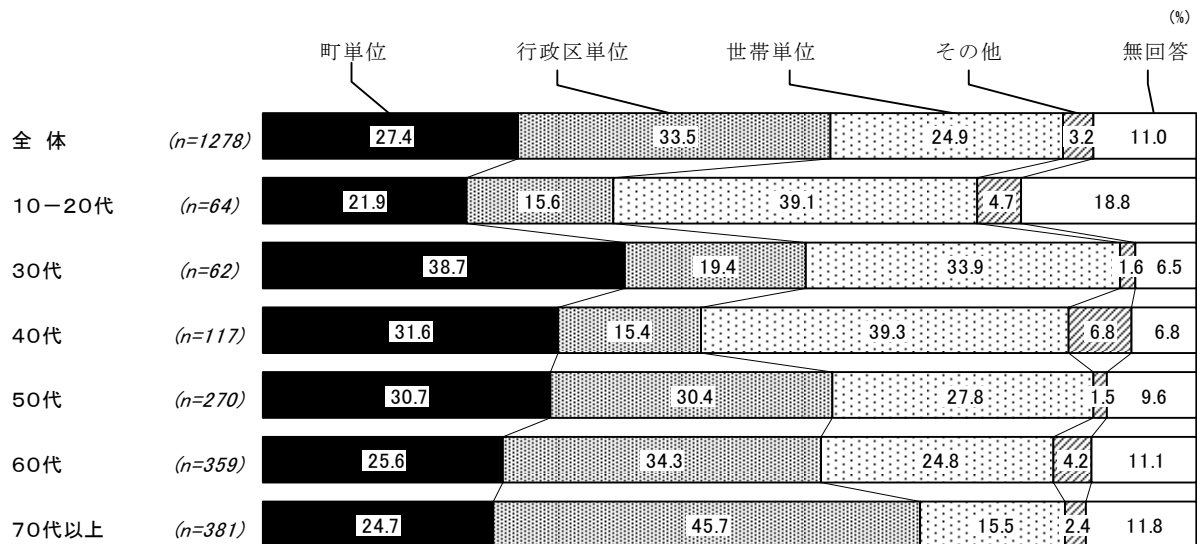
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 5-5-1)

図表 5-5-1 移転する場合の望ましいコミュニティの単位(居留意向者)(男女別)



年代別に見ると、「行政区単位」を希望する回答者は 50 代以上で 3 割を超えて多く、特に 70 代以上(45.7%)では 4 割を超える。「町単位」の希望者は 30-50 代で 3 割台である。「世帯単位」の希望者は、40 代以下の層で 3 割を超え、10-20 代、40 代では「町単位」「行政区単位」を抜いて最も回答が多い。(図表 5-5-2)

図表 5-5-2 移転する場合の望ましいコミュニティの単位(居留意向者)(年代別)





(6)他の町村の住民とともに移転することについて

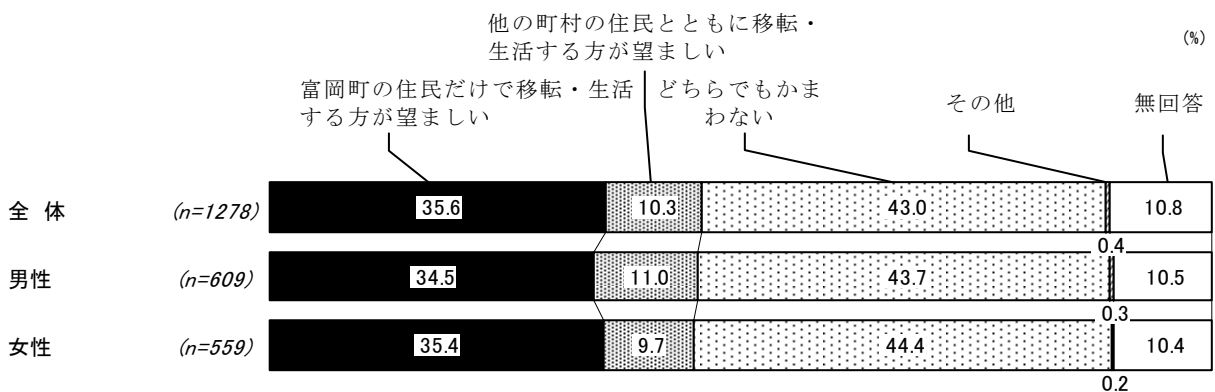
【問 23 で「2 富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「3 富岡町以外であれば居住する」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 29 へお進みください。】

問 28 町が生活の拠点となる場所を町外に設ける場合、他の町村の住民との連携や生活について、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

町が、生活の拠点となる場所を設ける場合、「富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「富岡町以外であれば居住する」と回答した人(1,278 人)に、町外設置した生活拠点に他の町村の住民とともに移転するとしたらどのように考えるかを聞いたところ、「富岡町の住民だけで移転・生活する方が望ましい」という回答が35.6%、「他の町村の住民とともに移転・生活する方が望ましい」が10.3%、「どちらでもかまわない」は43.0%である。(図表 5-6-1)

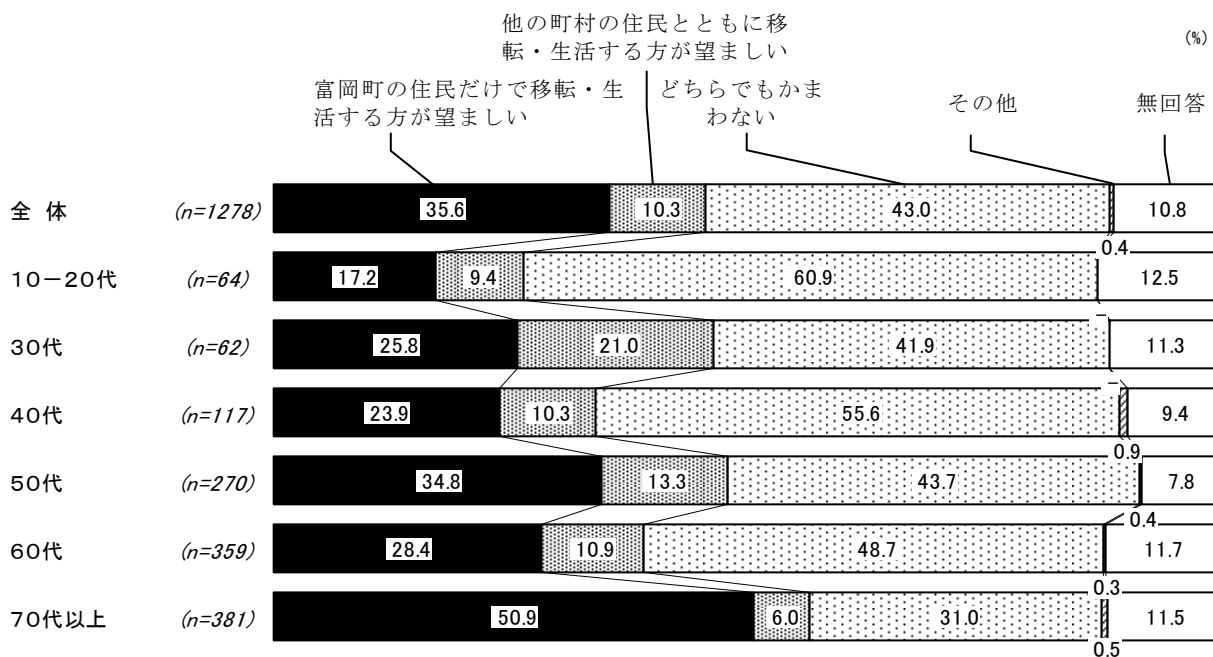
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 5-6-1)

図表 5-6-1 他の町村の住民とともに移転することについて(居住意向者)(男女別)



年代別に見ると、「どちらでもかまわない」という回答は60代以下の年代ではいずれも4割を超えて最も多い回答となっている一方で、70代以上の層で最も回答が多いのは「富岡町の住民だけで移転・生活する方が望ましい」で50.9%と半数を占めている。いずれの年代においても、「富岡町の住民だけで移転・生活する方が望ましい」は、「他の町村の住民とともに移転・生活する方が望ましい」よりも回答者が多くなっているが、30代ではともに2割台で回答率が接近している。(図表 5-6-2)

図表 5-6-2 他の町村の住民とともに移転することについて(居留意向者)(年代別)



## 6. 富岡町への帰還について

### (1) 富岡町へ帰還する前提として必要と思う条件

問 29 富岡町への帰還についておたずねします。  
 あなたは、どのような条件が整ったら富岡町へ帰還したいと考えますか。  
 帰還の前提として必要と考える条件の中で、あなたにとって特に重要度が高い前提内容から順に、「もっとも必要と思うもの」、  
 「2番目に必要と思うもの」、「3番目に必要と思うもの」を、下の中からそれぞれ1つずつ選び、数字に○をつけて教えてください。(○は1つずつ)

富岡町に帰還するための前提条件として、最も必要と思うもの、2番目に必要と思うもの、3番目に必要と思うものを聞いた。最も必要なものとしては「放射線量が低下すること」(39.8%)が、2番目に必要なものとしては「原子力発電所の安全性が確保されること」(17.8%)が、3番目に必要なものとしては「水道水等の生活用水が安全であることが確認されること」(14.5%)が、それぞれ最も多くあげられている。(図表 6-1-1)

1番目(最も必要)～3番目を合計すると、「放射線量が低下すること」(52.9%)、「原子力発電所の安全性が確保されること」(38.3%)、「水道水等の生活用水が安全であることが確認されること」(33.1%)の順で上位を占め、1番目・2番目・3番目の最上位項目が重視されている。以下、「町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること」(25.4%)、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」(23.0%)、「交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること」(17.7%)などがそれに続いている。(図表 6-1-1)

図表 6-1-1 帰還の前提として必要と考える条件

		水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	他の住民程と度戻ること	富岡町もしくは富岡町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	町内の学校が再開されること	原子力発電所の安全性が確保されること	放射線量が低下すること	その他	無回答
全体	(n=7634)	14.5	13.7	10.4	7.1	6.7	5.0	2.9	2.5	2.4	2.0	1.1	31.7
男性	(n=3434)	13.6	15.1	10.7	7.3	7.4	5.4	2.9	2.7	2.7	2.5	1.0	28.5
女性	(n=3666)	15.8	12.6	10.4	7.1	6.4	4.8	3.0	2.4	2.2	1.7	1.2	32.4

1 番目～3 番目の合計を性・年代別で見ると、「放射線量が低下すること」は男女ともに 30-40 代の層で回答が 6 割を超えて特に高い。「原子力発電所の安全性が確保されること」との回答は、男性 40 代以下の層、女性 50 代以下の層で 4 割を超え、それ以外の高年齢層に比べて高い。「水道水等の生活用水が安全であることが確認されること」は、いずれの性・年代層でも 3 割を超え、大きな差異は見られない。「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」との回答は、男女ともに 70 代以上の層では 35% 程度となっており、他層に比べて高い。(図表 6-1-2)

図表 6-1-2 帰還の前提として必要と考える条件 1 番～3 番目計(性・年代別)

(%)

		放射線量が低下すること	原子力発電所の安全性が確保されること	水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	他の住民がある程度戻ること	富岡町もしくは富岡町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	町内の学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=7634)	52.9	38.3	33.1	25.4	23.0	17.7	13.7	13.2	10.6	7.4	4.0	7.8
男性 10-20 代	(n=333)	59.8	42.6	33.0	25.8	12.3	22.8	17.7	20.7	6.6	6.9	6.9	3.6
男性 30 代	(n=430)	60.9	42.6	32.1	30.5	16.7	15.3	16.5	19.1	9.5	8.8	7.9	3.3
男性 40 代	(n=505)	61.4	42.6	31.1	29.9	17.2	16.6	13.7	18.2	8.9	9.9	5.3	4.6
男性 50 代	(n=732)	54.5	35.7	32.1	30.5	24.0	19.8	14.8	16.0	10.1	6.4	4.5	7.0
男性 60 代	(n=758)	53.2	38.1	31.3	26.8	25.1	16.5	14.8	10.7	13.2	7.7	4.5	7.3
男性 70 代以上	(n=666)	47.9	29.6	35.6	27.5	35.0	18.8	13.2	6.3	10.5	6.6	2.0	9.5
女性 10-20 代	(n=381)	59.6	41.5	37.8	26.8	14.7	18.6	17.1	18.4	9.4	5.2	4.2	5.5
女性 30 代	(n=433)	63.3	49.9	36.5	18.9	16.4	13.6	17.1	17.3	8.3	12.2	4.2	4.6
女性 40 代	(n=547)	60.5	48.6	38.8	24.3	13.9	15.7	11.3	13.5	10.1	9.3	5.7	5.7
女性 50 代	(n=681)	54.2	43.5	36.4	23.9	19.5	18.2	11.5	14.4	12.3	7.3	2.2	6.5
女性 60 代	(n=728)	46.8	39.8	31.7	19.2	25.0	20.1	12.9	11.3	12.1	6.6	2.5	8.8
女性 70 代以上	(n=888)	40.5	29.3	30.2	25.1	35.7	16.7	12.7	7.7	10.9	5.2	3.0	12.5

性・年代別に最も必要なものを見ると、いずれの層でも「放射線量が低下すること」が最も多く、次いで「原子力発電所の安全性が確保されること」の順である。(図表 6-1-3)

図表 6-1-3 帰還の前提として必要と考える条件 最も必要なもの(性・年代別)

(%)

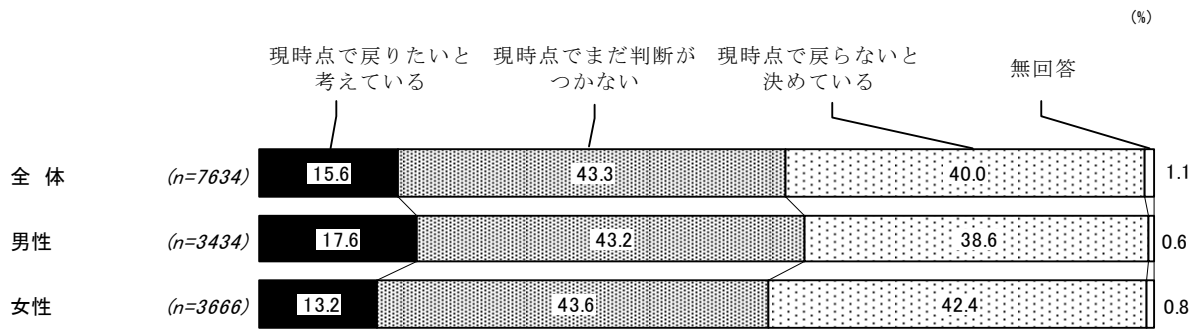
		放射線量が低下すること	原子力発電所の安全性が確保されること	水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	他の住民が戻ること	富岡町もしくは富岡町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	町内の学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=7634)	39.8	18.1	6.8	5.6	4.6	4.3	3.1	2.9	2.8	1.8	2.6	7.8
男性10-20代	(n=333)	39.6	20.7	5.7	2.7	6.0	5.4	3.0	4.8	0.6	2.1	5.7	3.6
男性30代	(n=430)	44.7	18.8	4.4	3.7	4.4	2.8	4.0	4.9	1.6	2.1	5.3	3.3
男性40代	(n=505)	42.0	21.0	4.4	3.2	4.4	4.6	2.4	5.0	2.6	2.6	3.6	4.6
男性50代	(n=732)	42.1	15.4	7.4	5.6	5.2	4.1	2.3	3.6	2.6	1.4	3.4	7.0
男性60代	(n=758)	40.1	18.1	6.1	5.1	5.1	4.1	4.2	1.5	4.4	1.3	2.8	7.3
男性70代以上	(n=666)	40.1	13.4	10.7	8.9	4.2	4.1	2.7	0.9	3.0	2.0	0.8	9.5
女性10-20代	(n=381)	45.4	16.0	8.1	2.6	3.9	5.0	3.9	3.4	1.0	1.6	3.4	5.5
女性30代	(n=433)	45.5	22.6	4.6	3.0	2.8	3.5	2.5	3.2	2.8	3.0	1.8	4.6
女性40代	(n=547)	41.9	23.6	6.9	2.9	3.5	3.1	2.4	2.7	2.0	2.0	3.3	5.7
女性50代	(n=681)	40.1	22.9	6.2	4.4	4.6	4.6	2.5	2.8	2.8	1.8	1.0	6.5
女性60代	(n=728)	35.4	21.2	5.5	7.4	3.7	4.8	4.0	2.9	3.6	1.5	1.2	8.8
女性70代以上	(n=888)	34.5	13.6	7.9	10.0	6.2	4.2	3.4	1.5	2.9	1.5	1.9	12.5

(2) 避難指示が解除された後の富岡町への帰還意向

問 30 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ)

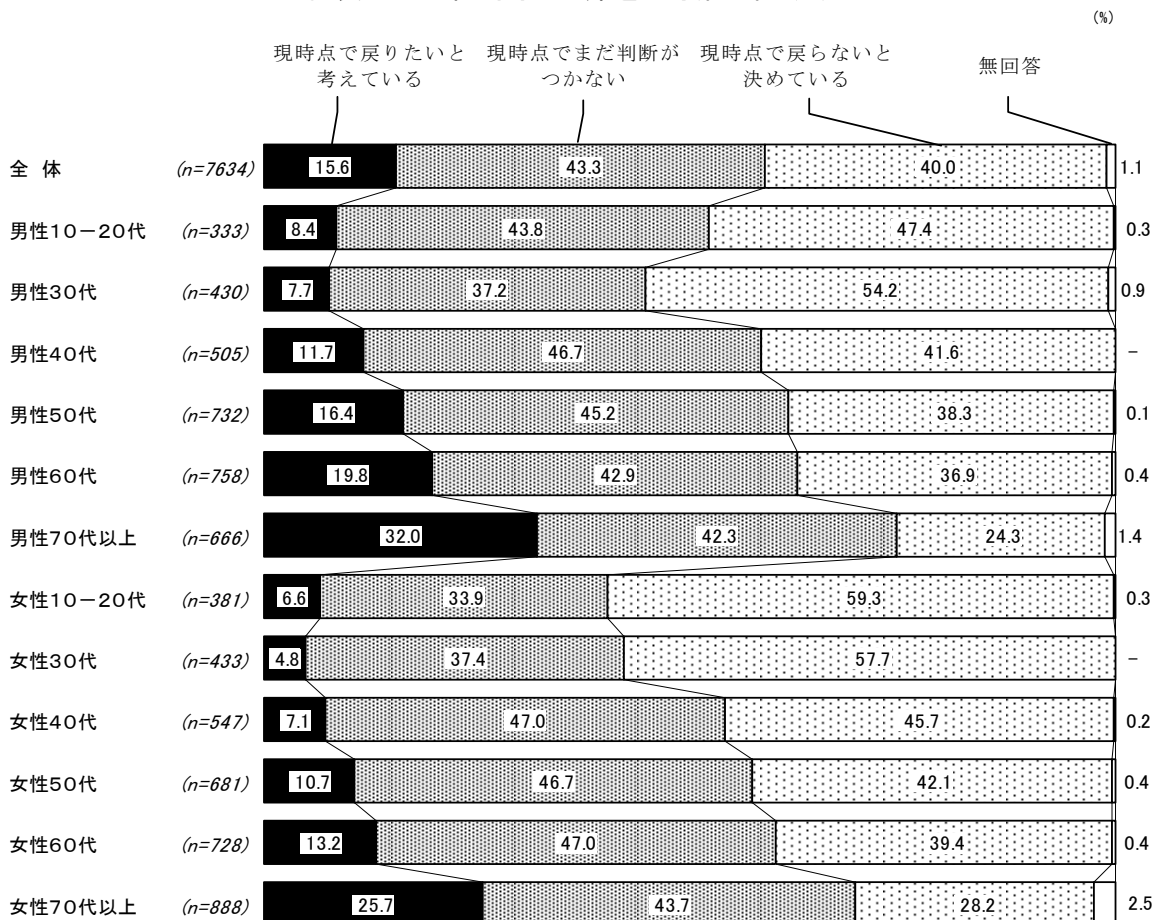
富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還についての考えを聞いたところ、「現時点で戻りたいと考えている」という回答者は15.6%で、「現時点でまだ判断がつかない」は43.3%、「現時点で戻らないと決めている」は40.0%となっている。男女別に見ると、「現時点で戻りたいと考えている」(男性17.6%、女性13.2%)は、女性より男性のほうがやや多く、「現時点で戻らないと決めている」(同38.6%、42.4%)は男性より女性のほうがやや多い。(図表6-2-1)

図表 6-2-1 富岡町への帰還意向(男女別)



性・年代別に見ると、「現時点で戻りたいと考えている」という回答は、男女とも30代が最も少なく(男性7.7%、女性4.8%)、30代以降年齢が上昇するほど多くなり、70代以上では3割前後に達している(男性32.0%、女性25.7%)。「現時点で戻らないと決めている」との考えが半数を超えて多いのは、男性30代(54.2%)、女性10-20代(59.3%)、女性30代(57.7%)の各層である。男性70代以上の層では、「現時点で戻りたいと考えている」(32.0%)が、「現時点で戻らないと決めている」(24.3%)を唯一上回っている。(図表6-2-2)

図表 6-2-2 富岡町への帰還意向(性・年代別)



(3)富岡町に帰還する際に行政に望む支援内容

【問 30 で「1 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

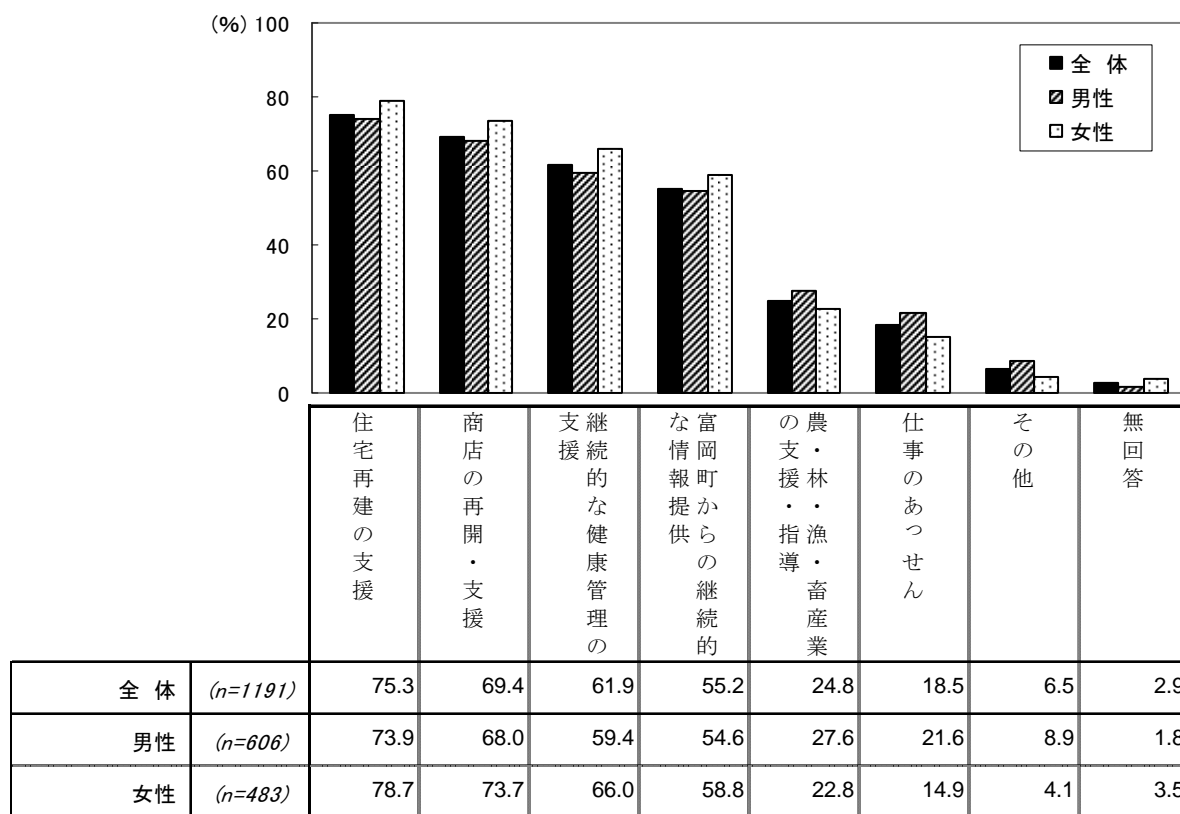
問 31 避難指示が解除され富岡町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点で戻りたいと考えている」と回答した人(1,191 人)に、避難指示が解除され富岡町に戻る時に、行政にどのような支援を望むかを聞いたところ、「住宅再建の支援」が 75.3%で最も多く、以下「商店の再開・支援」(69.4%)、「継続的な健康管理の支援」(61.9%)、「富岡町からの継続的な情報提供」(55.2%)、「農・林・漁・畜産業の支援・指導」(24.8%)、「仕事のあっせん」(18.5%)の順となっている。(図表 6-3-1)

男女別に見ると、「農・林・漁・畜産業の支援・指導」、「仕事のあっせん」が女性より男性に回答率がやや高めである以外は、いずれの項目も女性のほうが男性よりも回答率がやや高い。支援を望む項目の順位に男女差はみられない。(図表 6-3-1)

図表 6-3-1 富岡町に帰還する際に行政に望む支援内容(男女別)



年代別に見ると、いずれの層でも「住宅再建の支援」と「商店の再開・支援」が上位 2 項目にあげられている。「継続的な健康管理の支援」は 60 代以上の層では 6 割を超え、より強く望まれている。「仕事のあっせん」は 30 代以下で 4 割を超え、若年齢層を中心に多くなっている。(図表 6-3-2)

図表 6-3-2 富岡町に帰還する際に行政に望む支援内容(年代別)

(%)

		住宅再建の支援	商店の再開・支援	継続的な健康管理の支援	富岡町からの継続的な情報提供	農・林・漁・畜産業の支援・指導	仕事のあっせん	その他	無回答
全体	(n=1191)	75.3	69.4	61.9	55.2	24.8	18.5	6.5	2.9
10-20代	(n=54)	77.8	68.5	51.9	48.1	31.5	44.4	7.4	-
30代	(n=57)	71.9	78.9	47.4	45.6	22.8	40.4	3.5	-
40代	(n=104)	71.2	70.2	51.0	43.3	22.1	29.8	9.6	1.9
50代	(n=208)	75.0	70.2	53.8	53.4	23.6	32.7	7.7	0.5
60代	(n=254)	83.9	69.3	66.1	59.1	28.3	15.7	6.3	3.1
70代以上	(n=485)	73.0	68.9	69.1	59.2	24.1	6.0	6.0	4.5



(4)富岡町帰還までに待てる限度年数

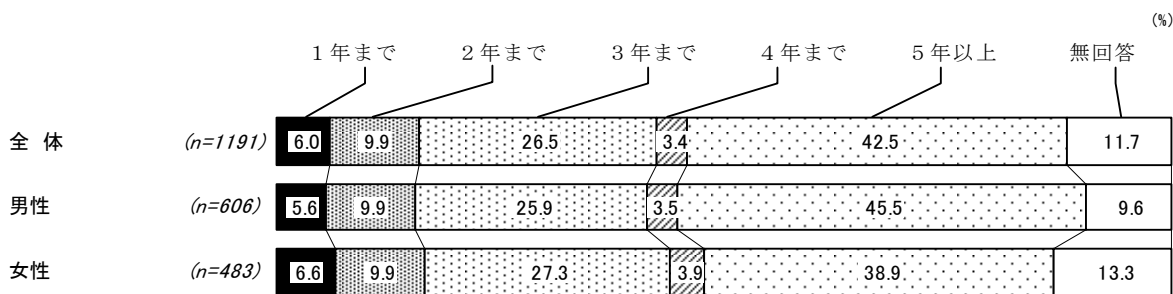
【問 30 で「1 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 32 富岡町に戻るまでの期間が何年までであれば待つことができますか。(具体的に)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点で戻りたいと考えている」と回答した人(1,191 人)に、富岡町に戻るまでの期間が何年までであれば待つことができるかを聞いたところ、「5 年以上」が 42.5%で最も多く、次いで「3 年まで」(26.5%)、「2 年まで」(9.9%)、「1 年まで」(6.0%)、「4 年まで」(3.4%)の順となっている。(図表 6-4-1)

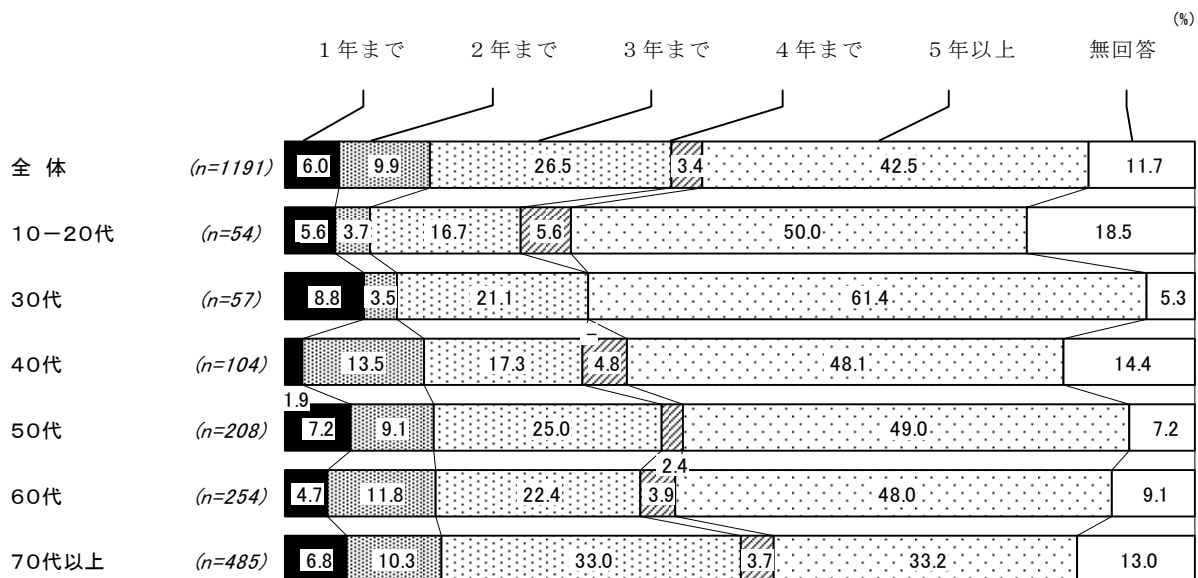
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 6-4-1)

図表 6-4-1 富岡町に戻るまでの待機可能な期間(男女別)



年代別に見ると、いずれの年代層でも「5 年以上」が最も多いが、30 代では 61.4%と特に多い。70 代以上では「5 年以上」(33.2%)と「3 年まで」(33.0%)がほぼ同程度となっている。(図表 6-4-2)

図表 6-4-2 富岡町に戻るまでの待機可能な期間(年代別)



(5)帰還を判断するのに必要な情報

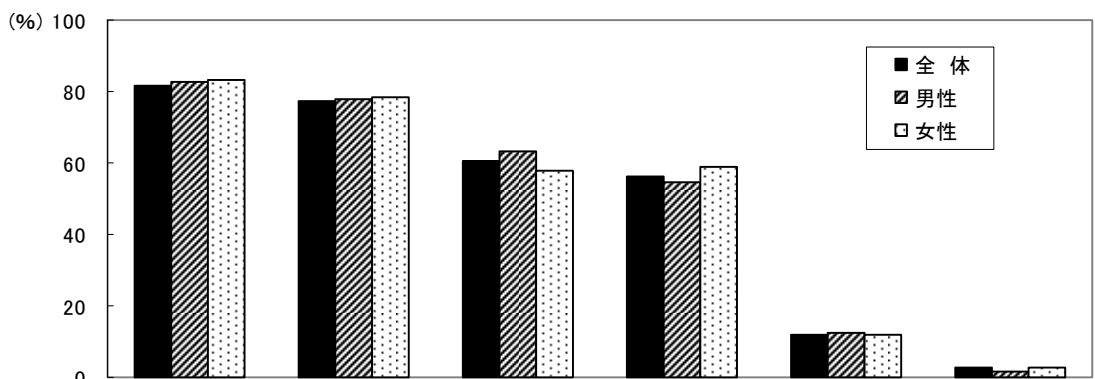
【問 30 で「2 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問33 富岡町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点でまだ判断がつかない」と回答した人(3,306人)に、富岡町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について聞いた。「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(81.9%)と「放射線量の低下の目途」(77.3%)の2項目が8割前後で並び、多くあげられている。以下、「受領する賠償額の確定」(60.3%)、「どの程度の住民が戻るかの情報」(56.3%)の順となっている。(図表6-5-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表6-5-1)

図表 6-5-1 帰還を判断するのに必要な情報(男女別)



		目途 ラ 途	目途 放 途	確 定 受 領 す る 賠 償 額 の	戻 ど る か の 程 度 の 情 報 の 住 民 が	そ の 他	無 回 答
全体	(n=3306)	81.9	77.3	60.3	56.3	11.7	2.8
男性	(n=1484)	82.7	77.7	63.0	54.4	12.2	1.8
女性	(n=1600)	83.1	78.6	57.6	58.9	11.8	2.8

性・年代別に見ても、上位2項目はいずれの層でも「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤の復旧時期の目途」と「放射線量の低下の目途」である。「受領する賠償額の確定」は、女性 30 代(37.7%)、男性 10-20 代(47.9%)では 5 割を下回り、他の性年代層ほど情報を必要としていない。(図表 6-5-2)

図表 6-5-2 帰還を判断するのに必要な情報(性・年代別)

		道路、鉄道、 学校、病院な どの社会基盤 (インフラ) の復旧時期の 目途	放射線量の低 下の目途	受領する賠償 額の確定	どの程度の住 民が戻るかの 情報	その他	無回答
全 体	(n=3306)	81.9	77.3	60.3	56.3	11.7	2.8
男性10-20代	(n=146)	74.0	71.9	47.9	51.4	6.2	2.7
男性30代	(n=160)	81.9	76.9	57.5	52.5	16.9	1.3
男性40代	(n=236)	85.6	76.3	60.2	52.5	17.8	0.4
男性50代	(n=331)	86.1	80.4	65.6	56.8	14.8	1.2
男性60代	(n=325)	82.2	80.6	68.3	54.8	11.1	0.9
男性70代以上	(n=282)	82.3	75.9	67.7	55.7	6.0	4.6
女性10-20代	(n=129)	81.4	78.3	54.3	58.9	10.1	1.6
女性30代	(n=162)	84.6	80.2	37.7	58.0	16.0	2.5
女性40代	(n=257)	87.9	82.5	58.8	61.1	17.1	0.4
女性50代	(n=318)	86.8	82.4	59.4	62.6	12.6	1.9
女性60代	(n=342)	81.9	77.5	60.5	55.3	10.5	3.2
女性70代以上	(n=388)	77.6	72.9	62.4	57.5	7.7	5.4

(6)富岡町へ帰還しない理由

【問 30 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

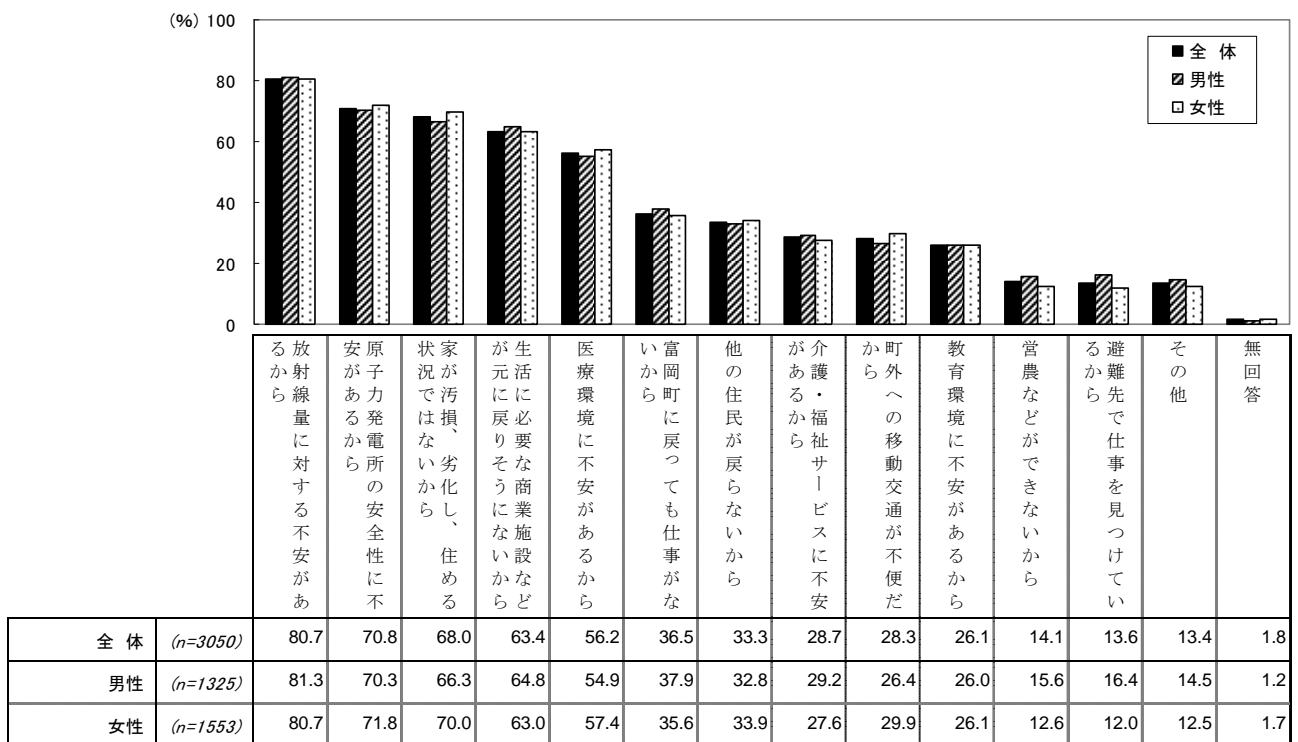
問 34 「現時点で戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(3,050 人)に理由を聞いたところ、「放射線量に対する不安があるから」が 80.7%で最も多くあげられ、以下「原子力発電所の安全性に不安があるから」(70.8%)、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(68.0%)、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(63.4%)、「医療環境に不安があるから」(56.2%)などの順となっている。(図表 6-6-1)

男女別に見ると、男女とも上位 5 項目は同じで、大きな男女差は見られない。(図表 6-6-1)

図表 6-6-1 富岡町へ帰還しない理由(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも上位にあげられている項目に大きな差はないが、男女とも10-20代では「富岡町に戻っても仕事がないから」(男性10-20代61.4%、女性10-20代58.0%)が6割前後で、他層よりも多い。男女とも70代以上の層では、「介護・福祉サービスに不安があるから」(男性70代以上43.8%、女性70代以上44.0%)が4割台で、他層より多くあげられている。また、男女とも30-40代では「教育環境に不安があるから」も4~5割と、比較的多くなっている。(図表6-6-2)

図表6-6-2 富岡町へ帰還しない理由(性・年代別)

		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	家が汚損、劣化する状況ではないから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうないから	医療環境に不安があるから	富岡町に戻っても仕事がないから	他の住民が戻らないから	介護・福祉サービスに不安があるから	町外への移動交通が不便だから	教育環境に不安があるから	営農などできないから	避難先で仕事を見つけているから	その他	無回答
全体	(n=3050)	80.7	70.8	68.0	63.4	56.2	36.5	33.3	28.7	28.3	26.1	14.1	13.6	13.4	1.8
男性10-20代	(n=158)	80.4	69.0	63.9	65.2	47.5	61.4	35.4	17.7	33.5	28.5	8.9	41.1	9.5	-
男性30代	(n=233)	80.7	71.7	61.4	61.8	50.2	45.5	32.6	18.9	33.9	41.6	9.0	22.3	19.7	0.4
男性40代	(n=210)	80.5	69.5	67.6	64.8	53.8	41.9	31.0	21.0	22.4	42.9	11.4	19.0	12.9	1.4
男性50代	(n=280)	81.4	68.6	64.3	66.8	50.7	44.3	37.1	32.9	23.2	22.5	17.1	12.9	17.1	0.4
男性60代	(n=280)	84.3	75.0	71.8	67.1	64.6	25.0	31.1	38.2	21.1	11.8	25.4	6.8	13.9	1.4
男性70代以上	(n=162)	79.0	65.4	67.9	61.7	61.1	9.9	27.8	43.8	28.4	9.9	17.9	3.1	9.9	4.3
女性10-20代	(n=226)	83.2	68.6	63.7	57.1	45.1	58.0	31.9	15.5	31.9	28.3	7.5	27.9	12.8	1.3
女性30代	(n=250)	84.0	73.6	62.4	64.8	57.6	41.2	35.6	15.6	30.4	54.8	5.6	14.8	19.2	0.8
女性40代	(n=250)	85.6	79.2	69.2	68.0	60.0	49.6	36.0	23.2	30.4	43.2	10.4	16.4	12.8	0.8
女性50代	(n=287)	83.6	73.2	71.8	67.9	60.6	42.5	36.2	29.6	24.4	15.7	17.1	9.8	10.1	0.7
女性60代	(n=287)	80.1	74.2	74.9	62.4	60.6	15.7	32.8	34.8	31.4	9.1	18.1	4.5	9.1	1.4
女性70代以上	(n=250)	67.6	60.8	76.0	56.4	58.0	10.8	29.6	44.0	32.0	10.0	15.2	2.0	12.0	5.2

(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング

1) 今後の生活拠点への転居時期

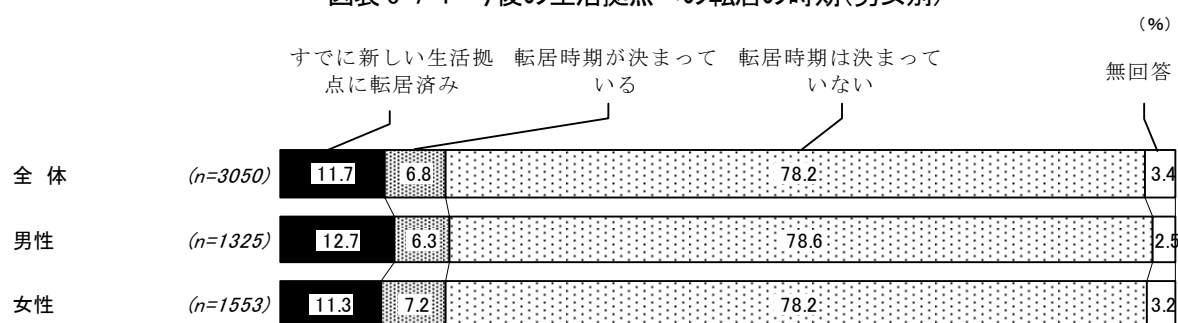
【問30で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問35 戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(○は1つ)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(3,050人)に今後の生活拠点への転居の時期を聞いたところ、「転居時期は決まっていない」(78.2%)が多数を占め、「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答者は11.7%、「転居時期が決まっている」は6.8%に留まる。(図表6-7-1)

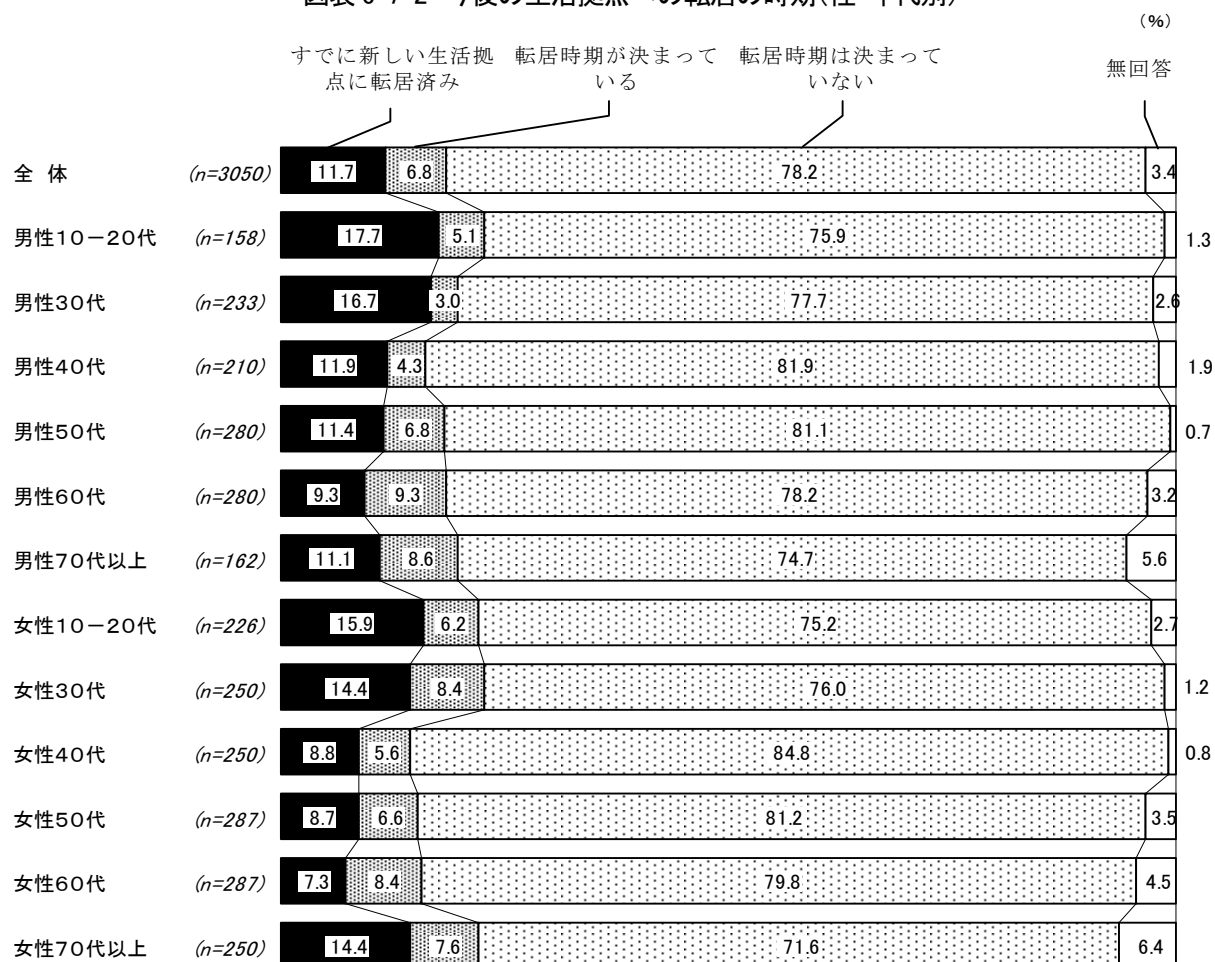
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表6-7-1)

図表 6-7-1 今後の生活拠点への転居の時期(男女別)



性・年代別に見ると、男女30代以下および女性70代以上で、「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答者が1割を超え、比較的多くなっている。(図表6-7-2)

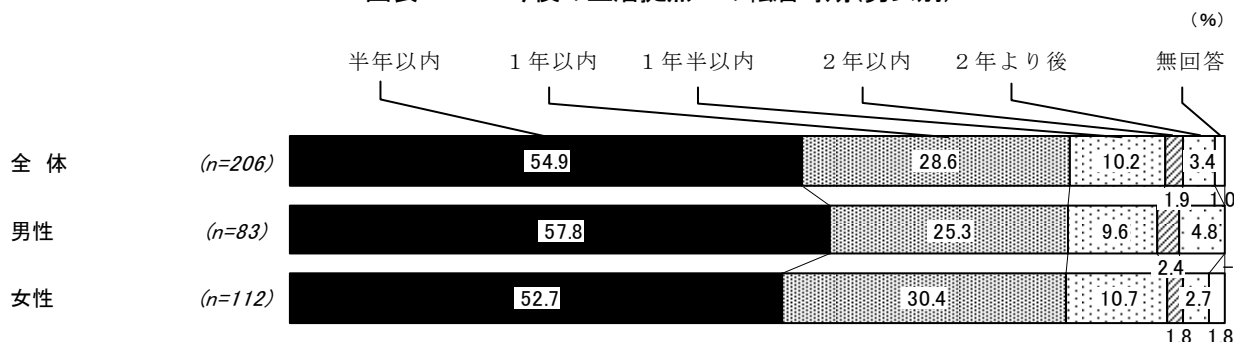
図表 6-7-2 今後の生活拠点への転居の時期(性・年代別)



今後の生活拠点への転居時期が決まっている人(206人)に転居時期を聞いたところ、「半年以内」が54.9%、「1年以内」が28.6%、「1年半以内」が10.2%、「2年以内」が1.9%、「2年より後」が3.4%となっている。8割以上(83.5%)は今後1年間に転居予定がある。(図表6-7-3)

男女別に見ると、男性は女性より「半年以内」と短期間の転居予定者がやや多い。(図表6-7-3)

図表 6-7-3 今後の生活拠点への転居時期(男女別)



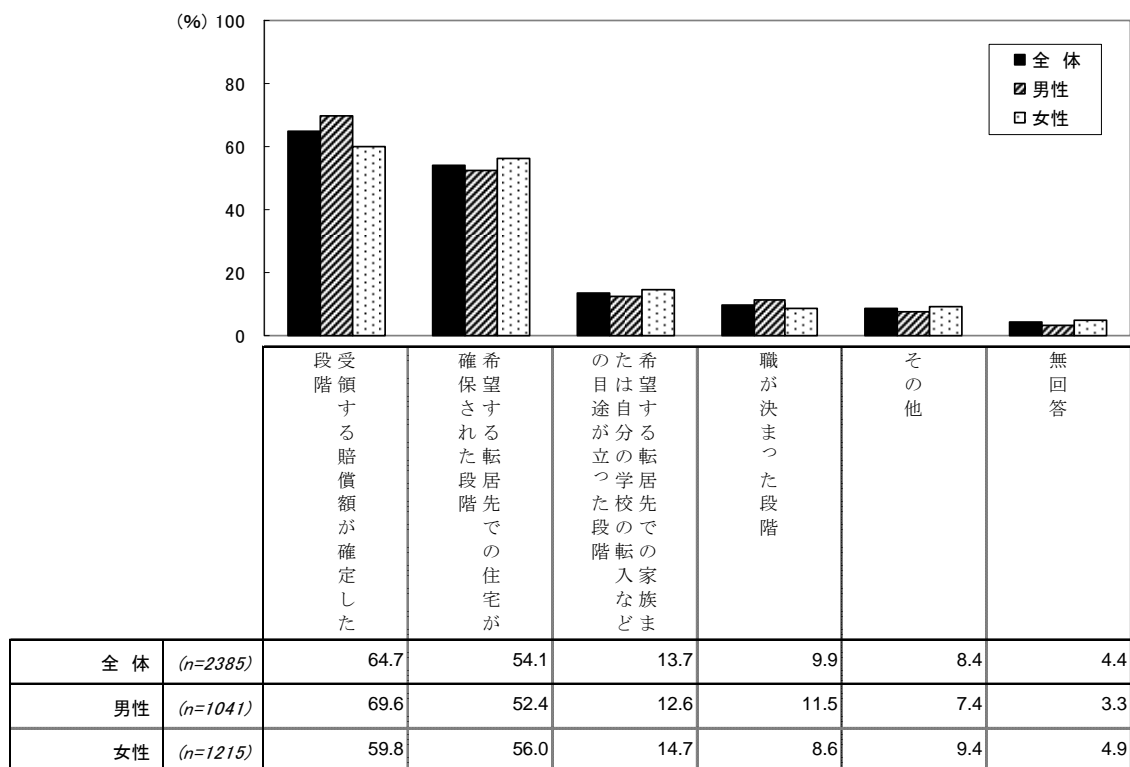
2) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階

【問35で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にかがいます。】  
 問36 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(〇はいくつでも)

富岡町への帰還意向はないが、今後の生活拠点への転居時期が決まっていない人(2,385人)に転居時期をどの段階で判断したいか複数回答で聞いたところ、「受領する賠償額が確定した段階」が64.7%で最も多く、次いで、「希望する転居先での住宅が確保された段階」が54.1%で、以降の「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」(13.7%)、「職が決まった段階」(9.9%)を引き離しており、二大判断段階となっている。(図表6-7-4)

男女別に見ると、「受領する賠償額が確定した段階」は、男性(69.6%)の方が女性(59.8%)より約10ポイント多くあげられている。(図表6-7-4)

図表 6-7-4 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(男女別)



性・年代別に見ると、「受領する賠償額が確定した段階」は男性 40 代以上で 7 割超、「希望する転居先での住宅が確保された段階」は女性 50-60 代で 6 割超となっており、それぞれ他の性・年代より多い。また、男女とも、30-40 代では「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」、10-20 代では「職が決まった段階」が 2 割台で、比較的多くなっている。(図表 6-7-5)

図表 6-7-5 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(性・年代別)

(%)

		受領する賠償額が確定した段階	希望する転居先での住宅が確保された段階	希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階	職が決まった段階	その他	無回答
全体	(n=2385)	64.7	54.1	13.7	9.9	8.4	4.4
男性10-20代	(n=120)	56.7	54.2	15.0	28.3	6.7	0.8
男性30代	(n=181)	59.1	48.1	21.5	15.5	8.3	3.3
男性40代	(n=172)	74.4	47.1	21.5	12.8	9.3	2.9
男性50代	(n=227)	71.4	54.2	9.3	11.5	7.5	1.8
男性60代	(n=219)	74.9	58.0	3.2	3.2	7.3	3.7
男性70代以上	(n=121)	78.5	50.4	6.6	2.5	4.1	8.3
女性10-20代	(n=170)	46.5	46.5	15.3	20.6	12.9	3.5
女性30代	(n=190)	54.7	50.5	28.9	9.5	12.1	4.2
女性40代	(n=212)	58.0	55.2	24.5	9.4	10.4	3.8
女性50代	(n=233)	63.9	64.4	10.7	8.2	8.6	3.0
女性60代	(n=229)	66.8	60.3	4.8	3.9	5.2	7.4
女性70代以上	(n=179)	65.9	55.3	5.6	2.2	8.4	7.3



(8) 今後の生活において行政に望む支援

【問 30 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

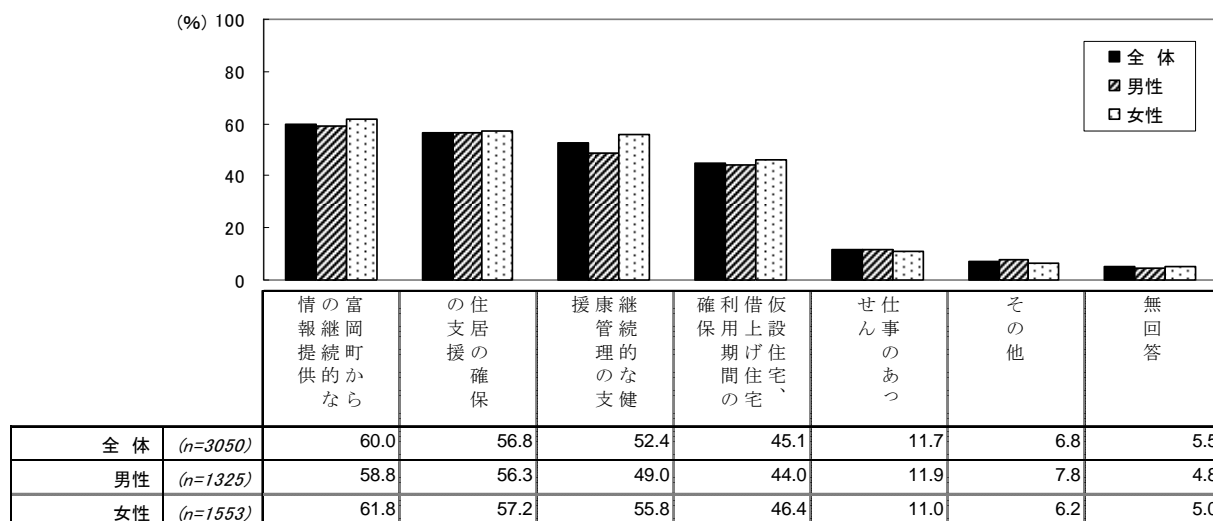
問 37 富岡町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(3,050人)に、富岡町に戻らない場合に今後の生活においてどのような支援を求めるか聞いたところ、「富岡町からの継続的な情報提供」が60.0%で最も多くあげられ、以下、「住居の確保の支援」(56.8%)、「継続的な健康管理の支援」(52.4%)、「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」(45.1%)と続く。「仕事のあっせん」は1割程度(11.7%)の希望率である。(図表6-8-1)

男女別に見ると、「継続的な健康管理の支援」(男性49.0%、女性55.8%)は、女性の方が男性よりやや多くあげている。(図表6-8-1)

性・年代別に見ると、いずれの層でも上位4項目は同じである。「仕事のあっせん」は、男女ともに10-20代では2割を超えている(男性20.9%、女性21.7%)。(図表6-8-2)

図表 6-8-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



図表 6-8-2 今後の生活において行政に望む支援(性・年代別)

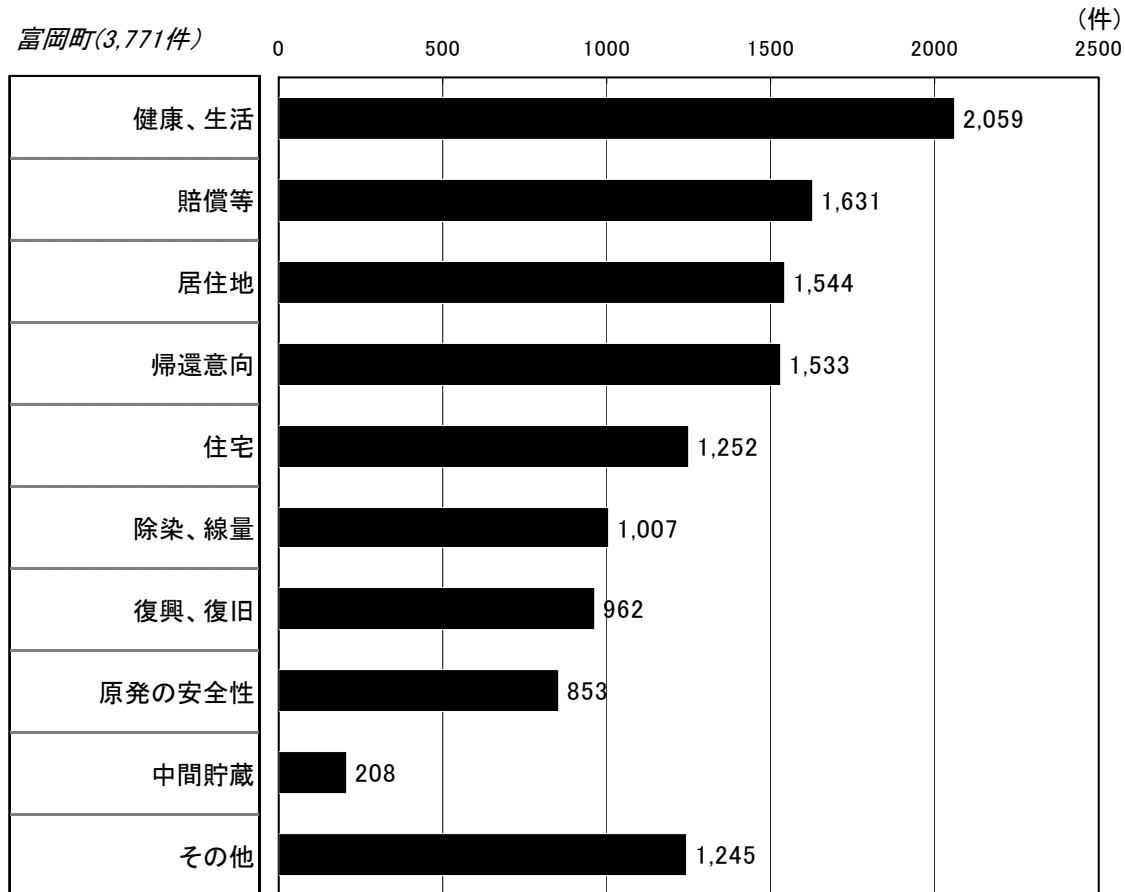
		富岡町からの継続的な情報提供	住居の確保の支援	継続的な健康管理の支援	仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保	仕事のあっせん	その他	無回答
全体	(n=3050)	60.0	56.8	52.4	45.1	11.7	6.8	5.5
男性10-20代	(n=158)	56.3	62.0	51.3	48.7	20.9	10.1	1.3
男性30代	(n=233)	58.4	48.5	52.4	43.3	12.4	9.4	6.4
男性40代	(n=210)	52.4	55.7	50.0	51.9	13.3	5.7	4.3
男性50代	(n=280)	52.1	58.9	38.9	39.3	15.0	7.1	5.4
男性60代	(n=280)	66.8	56.4	51.1	43.2	6.8	9.6	3.6
男性70代以上	(n=162)	67.3	58.0	54.3	39.5	3.7	3.7	7.4
女性10-20代	(n=226)	46.5	50.0	53.5	44.2	21.7	8.4	6.2
女性30代	(n=250)	64.0	51.2	62.4	45.6	13.6	8.0	2.0
女性40代	(n=250)	60.8	62.8	61.6	55.2	14.4	4.8	3.2
女性50代	(n=287)	64.1	63.8	48.1	48.8	10.8	5.2	4.2
女性60代	(n=287)	64.8	58.2	54.0	44.3	3.8	4.5	7.0
女性70代以上	(n=250)	68.4	55.6	56.0	40.0	3.6	7.2	6.8

## 7. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて

問 38 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、3,771 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「健康、生活」(2,059 件)に関する内容で、以下、「賠償等」(1,631 件)、「居住地」(1,544 件)、「帰還意向」(1,533 件)、「住宅」(1,252 件)、「除染、線量」(1,007 件)、「復興、復旧」(962 件)、「原発の安全性」(853 件)、「中間貯蔵」(208 件)という順となっている。(図表 7-1)

図表 7-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 7-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●健康、生活

性別	年齢	記載内容
男性	20代	見通しのない将来にとっても不安とストレスを感じている。
男性	30代	子供がいる家庭は、戻りたくてもほとんど戻る事はないと思います。
男性	40代	早く家族一緒に暮らしたい。それが一番です。
男性	60代	不安で、精神的にまいりそうです。
男性	70代	将来の見通しが見えず、困っている。
女性	20代	将来の生活設計などに、希望がもてない。
女性	30代	今後の事を考えると、とても不安です。
女性	50代	県外に避難している子供達のことも、もっと考えてほしい。
女性	60代	母が80代なのでこれからの健康を心配しています。自宅の方もどうなるか心配しています。
女性	80歳以上	孫のもどらない所にはもどれません。家族でくらししてきたので皆一緒にくらしたい。

●賠償等

性別	年齢	記載内容
男性	18～19歳	家に帰れないので賠償をきちんとしてください。
男性	40代	賠償を早くしてほしい。
男性	40代	避難生活が続く間は、賠償が続くように。
男性	50代	不動産などの財物賠償を、きちんと早く行って欲しい。
男性	80歳以上	不動産の補償を、早くして貰いたいです。
女性	20代	いわき市に無償の土地を探してください。
女性	30代	全額賠償を望みます。
女性	40代	帰還しない場合は、財物を全損として補償して欲しい。
女性	60代	家や土地を買い上げて欲しい。
女性	70代	賠償金を差別しないでほしい。

●居住地

性別	年齢	記載内容
男性	40代	復興を早く進めるために、地域に入れるようにして欲しい。
男性	50代	早期の区域再編。
男性	50代	土地価格が高騰しているので、みんなで住める広い土地を確保してほしい。
男性	60代	知らない地域での生活はこりごりです。
男性	70代	自然と共に生活を送りたい。そのためには県外で住居確保。
女性	20代	住みたい場所に住めない(空きがなさすぎる)。
女性	50代	私達は富岡には帰りません。早急に再編してもらいたい。
女性	50代	早く生活拠点の場所を決めて、居住できるようにしてほしい。
女性	60代	とにかく安心して、長く住めるところがほしいと思います。引越も、年々、大変になってくると思われれます。
女性	60代	富岡町の避難区域再編案等、納得出来ない事が多すぎる。

●帰還意向

性別	年齢	記載内容
男性	20代	富岡町民が何%位戻るのか心配です。
男性	30代	子供がいる家庭は、戻りたくてもほとんど戻る事はないと思います。
男性	50代	何でも早く決定してほしい。早く富岡町に帰してください。
男性	70代	即時帰宅を希望する。
男性	80歳以上	死ぬ前に帰りたい。
女性	30代	いつ帰れるのかはっきりして欲しい。
女性	40代	確実な安心・安全がないのに、なぜ帰らせようとするのか？
女性	60代	家が、住める状態ではない。まず、戻っても住むところだ。
女性	70代	町役場が一番に帰町して、町民の帰還を先導してほしい。
女性	80歳以上	一日でも早い帰宅を望んで居ります。

●住宅

性別	年齢	記載内容
男性	20代	県外の借上げ住宅の期限を、もう一度延ばしてほしい。
男性	30代	借上げ住宅の期間延長。
男性	40代	仮設と借上げの差があるのでなくして欲しい。町村間の差もあるのでなくして欲しい。
男性	50代	とにかく、早く災害公営住宅を建設してほしい。
男性	60代	富岡町の家、土地を買い上げてもらい、新たな住居を持ちたい。
男性	60代	関東地区に恒久的災害住宅の建設。
女性	30代	災害公営住宅の整備が遅すぎる。
女性	50代	早急に災害住宅を建ててほしい。
女性	60代	仮設にいます。安心して住める住宅を早く希望します。
女性	70代	高齢のため、高齢者が優先して住める集合住宅などを作ってほしい。
女性	80歳以上	今までどおり仮設で暮らしたい。みなと顔馴染みになったので。

●除染、線量

性別	年齢	記載内容
男性	20代	1日も早い除染をしてもらいたい。
男性	30代	無駄な除染はやめろ、税金のムダ。
男性	50代	山林の除染はどうするのか。
男性	60代	完全な除染などむりだから戻れないと思う。
男性	70代	周辺の森林等の除染をしないのでは、安心して居住することは出来ないと思う。
女性	20代	除染をしっかりとしてほしいです。第二発電所をしっかりと管理してほしいです。
女性	30代	早く除染作業を進めてほしい。
女性	50代	放射線量低下の目途がよくわからない。放射線量の数値により帰還の判断にする。
女性	60代	早期除染の実施と帰還困難区域の最小化。
女性	70代	早く除染をして、帰れる所はもどしてほしいです。

●復旧、復興

性別	年齢	記載内容
男性	20代	復興のために集めたお金を、復興のために使ってほしい。
男性	20代	交通手段も含め、復興できるように協力していきたいと考えております。
男性	30代	一日も早くインフラの整備をすること。
男性	50代	商店や病院、学校を、早く再開してほしい。
男性	60代	復旧、復興に対する国の責任が果たされていない。
女性	18～19歳	復興財源の使い方をもう少し考えて欲しい。
女性	20代	全住民が“戻りたい！”と思う復興をしてほしい。
女性	30代	復興させる気があるかわからない。
女性	40代	復興予算は、被災三県にのみ使われるべき。
女性	70代	ライフラインを復旧、スーパー等の復旧を望みます。

●原発の安全性

性別	年齢	記載内容
男性	40代	原子力発電所をコンクリート箱にして欲しい。爆弾である。
男性	40代	廃炉にならなければ、事故収束ではない。
男性	50代	原発が収束していないのに、その土地に人を戻そうとする国の考え方はおかしい。
男性	50代	まだまだ復興にはほど遠いと思う。今だから、安心な気持ちは全く感じない。
男性	70代	原発の本当の状況が知りたい。
女性	20代	原発が安定していたとしても、近くに建物自体残っていると言うので戻りたくない。
女性	30代	原発をやめて、安全なエネルギーに替えてください。
女性	50代	原発を安定させて欲しい。このような経験は、二度としたくないので、原発はなくして欲しい。
女性	60代	本当に原子力発電所の安全性が確保されるのか、それは何年後なのか。
女性	70代	放射線量が低下し、原子力発電の安全性が確保され、幼児でも安心して住める環境を望みます。

●中間貯蔵

性別	年齢	記載内容
男性	20代	原子力発電所がある町の責任として、中間貯蔵施設を早期につくるべきだと思う。
男性	30代	・福島県は第一・第二原発全基廃炉を求めているが、すぐに決定しないのが、今の地域住民の不満である。 ・中間貯蔵施設の建設も、最終処分場が決まらなければ、中間貯蔵施設がそのまま最終処分場となりそうで不安である。
男性	30代	除染しても町に戻る人は少ないと思うので、中間貯蔵施設を作るべきだと思う。町に戻りたい人もいると思うが、現実的には生活できないと思う。早く賠償を進めて新天地で生活基盤を整えた方が、場所は違えど以前の生活に戻れると思う。
男性	50代	理想論はよいから、現実的な判断が必要かと思う。はたして中間貯蔵施設を設置しても、他県に最終処分が出来るとは思えない。また、汚染物質を広範囲に移動するのも、安全性の問題から良いとは思えない。・国、県、町は、第一原発周りを最終処分場と判断すべき。
男性	70代	土地建物はすべて東電と国で適正な価格で買上げて、町全体を放射性廃棄物の貯蔵地にする。
女性	20代	・富岡には戻りたくないの、東電の賠償を一生分払ってもらいたい。富岡を除染するとかではなく、帰らないのだから。富岡に中間貯蔵施設を作ればいいのではないかと思います。若い方達は帰る気はないと思います。
女性	30代	中間貯蔵施設、最終処分場は警戒区域内につくるべき。これ以上、放射能汚染に苦しむ人が増えるべきではないと思うから。
女性	30代	とても悲しい事ですが、県外の汚染物質を県内に最終処分場を作り、富岡全体の土地は国で買上げてほしい。安全な地域に富岡町を形成してほしい。
女性	50代	避難が解除されれば戻りたかったが、中間貯蔵施設が近くにいくつも出来ることになり、元の生活は無理とあきらめた。
女性	60代	1日も早い復興を望みます。復興に際しては、放射線量の高い所で廃棄物を受け入れるしかないと思います。除染をしても、若い人が戻らないのなら町は成り立たない。除染が高額と聞いているので、その無駄を省き、別の物に当てるべきと思います。

●その他

性別	年齢	記載内容
男性	30代	復興への方針を、迅速に示してほしい。
男性	30代	国策の電力政策で進めてきた原発事故なので、国が責任を取ってほしい。
男性	40代	田畑の除染を行っても、農産物は売れないので、田畑の買い上げ等は考えて欲しい。
男性	50代	国や東電は、福島復興を本当に考えているのか？
男性	60代	広域行政(町村合併)に移行することも検討すべき。
女性	18～19歳	情報提供を県外にも欲しい。放射能の数値だけでなく。
女性	30代	国には嘘偽りなく真実を公表していただきたいと思います。
女性	60代	東電、国、県が、事の重大さを感じていないことに、とっても憤慨しています。
女性	60代	早くロードマップを示して欲しい。これからの生活が不安、早くこれからの方針を決めてください。
女性	70代	みんなと一緒に住みたい。田畑仕事がしたい。



### Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)





# 富岡町 住民意向調査

記入上の注意

## ● 調査をお願いする方

この調査は、満 18 歳以上のすべての富岡町住民にお願いしています。  
世帯で現在いっしょにお住まいの満 18 歳以上の方それぞれに、ご記入をお願いいたします。

## ● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、( )内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※調査票は無記名でお願いします。

## ● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**12月18日(火)まで**に、同封の返信封筒に入れ、最寄りの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。

- ご不明な点がございましたら、下記担当までご連絡ください。

### 復興庁

「富岡町住民意向調査」お問い合わせセンター  
フリーダイヤル 0120-677-061  
[期間: 12月4日(火)~12月25日(火)平日10時~17時]

### 福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号  
企画調整部避難地域復興局  
電話: 024-521-8436

### 富岡町

〒963-0201 福島県郡山市大槻町西ノ宮48-5  
企画課  
フリーダイヤル: 0120-33-6466

**東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。**

**【すべての方にうかがいます。】**

**問1** 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ) (n=7,634)

( 1.7) 杉 内	( 0.9) 赤 木	( 2.4) 下郡山	( 3.4) 小良ヶ浜
( 2.8) 仲 町	( 1.0) 上本町	( 0.8) 毛 萱	( 0.9) 栄 町
( 3.1) 高津戸	( 9.4) 王 塚	( 1.4) 仏 浜	(10.7) 新夜ノ森
( 3.1) 下千里	( 5.7) 本 町	( 1.8) 駅 前	( 0.5) 不 明
( 3.6) 大 菅	( 1.5) 岩井戸	( 6.2) 西 原	(わからない場合は住所を記載 してください)
( 4.4) 夜の森駅前北	( 6.4) 清 水	( 5.6) 中 央	[ ]
( 5.8) 夜の森駅前南	( 0.9) 上 郡	( 7.2) 小 浜	
( 5.2) 新 町	( 1.1) 太 田	( 2.1) 深 谷	

( 0.6) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

**問2** その行政区に、震災発生当時まで、あなたはどのくらいの期間お住まいでしたか。仕事や進学などで町を離れた期間は含まず、通算年数を教えてください。(○は1つ) (n=7,634)

(12.0) 生まれてからずっと	( 9.2) 1年以上5年未満	(36.5) 20年以上50年未満
( 2.5) 1年未満	(23.2) 5年以上20年未満	(15.8) 50年以上

( 0.7) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

**問3** 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ) (n=7,634)

(14.5) 自営業	(11.7) パート・アルバイト
(22.5) 会社員(内勤)	( 3.7) 学生 →3 ページ問4へ
( 9.7) 会社員(外勤)	(29.9) 無職(退職していた場合も含む) →3 ページ問4へ
( 3.4) 公務員(内勤)	( 2.2) その他 {具体的に
( 0.5) 公務員(外勤)	}

( 1.9) 無回答

**【仕事に就いていた方にうかがいます。】**

(2) 業種 (○は1つ) (n=4,921)

( 7.4) 農・林・漁・畜産業	(28.8) 卸・小売り・飲食、サービス業
(18.5) 建設業	( 1.4) 金融・保険業
(10.3) 製造業	( 8.4) 医療・福祉
( 9.7) 電気・ガス	( 4.5) 教育
( 2.3) 運輸業	( 4.4) その他 {具体的に
	}

( 4.3) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 4** あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

(1) 通勤・通学先(○は1つ) (n=7, 634)

(32. 6) 富岡町内	( 0. 5) 中通り(福島市、郡山市など)
( 0. 8) 川内村	( 8. 3) その他
(16. 0) 浪江町、双葉町、大熊町	〔具体的に〕
( 1. 1) 南相馬市	
( 3. 4) いわき市	
(35. 7) 通勤・通学はしていなかった →問5へ	

( 1. 6) 無回答

(2) 通勤・通学していた方は、その移動手段(○はいくつでも) (n=4, 781)

(76. 2) 自家用車・バイク	( 5. 9) 鉄道	( 6. 3) 徒歩のみ
( 6. 2) バス	( 5. 6) 自転車	( 2. 8) その他
〔具体的に〕		

( 4. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 5** あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所(市町村)と、店舗までの移動手段を教えてください。

(1) もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ) (n=7, 634)

(90. 6) 富岡町内	( 1. 8) いわき市
( 0. 0) 川内村	( 0. 2) 中通り(福島市、郡山市など)
( 3. 3) 浪江町、双葉町、大熊町	〔具体的に〕
( 0. 2) 南相馬市	
( 2. 6) 自分は買物に行っていなかった →問6へ	

( 0. 8) 無回答

(2) もっともよく行っていた買物場所へ行く際に利用していた移動手段をすべて教えてください。

(n=7, 370)

(○はいくつでも)

(88. 8) 自家用車・バイク	( 1. 1) 鉄道	(13. 6) 徒歩のみ
( 0. 6) バス	(11. 1) 自転車	( 1. 0) その他
〔具体的に〕		

( 0. 4) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 6** 震災前の富岡町で、あなたは、地域の活動や町内イベントに参加していましたか。(○は1つ)

(n=7, 634)

(20. 1) 積極的に参加していた	( 1. 3) 地域に活動やイベントがあることを知らなかった
(51. 7) たまに参加していた	〔具体的に〕
(25. 4) 参加していない	
( 0. 5) その他	

( 1. 1) 無回答

【すべての方にかがいます。】

**問7** 震災発生当時に、あなたは介護や福祉サービスを受けていましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=7, 634)

( 1.9) 通所系サービスを受けていた(デイサービス等)
( 1.0) 訪問系サービスを受けていた(ホームヘルプサービス等)
( 0.7) 施設・居住系サービスを受けていた(介護施設への入所など)
( 0.4) その他 (具体的に
(90.7) サービスを受けていなかった

( 5.8) 無回答

**現在の状況について教えてください。**

【すべての方にかがいます。】

**問8** あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

(10 または 11 の場合は、の中に具体的な地名をご記入の上、( )内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。) (n=7, 634)

(35.2) いわき市	( 0.8) 白河市
(22.4) 郡山市	( 0.6) 南相馬市
( 2.9) 三春町	( 3.9) 福島県内のその他の市町村 (具体的に記入ください。)
( 2.9) 福島市	→ <input type="text"/> (市・町・村)
( 2.0) 大玉村	
( 0.7) 会津若松市	(26.9) その他(具体的に記入ください。)
( 0.6) 田村市	→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)

( 1.1) 無回答

【すべての方にかがいます。】

**問9** 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(1) 所有形態(○は1つ) (n=7, 634)

(16.0) 応急仮設住宅(プレハブ型) →5 ページ問 10 へ	( 2.2) 家族どなたかのお住まい・実家
(47.6) 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの 借り上げ型(家賃無償)) →5 ページ問 10 へ	( 2.3) 親戚・知人宅
(18.6) 民間賃貸(有償)	( 4.1) 持ち家(ご家族またはご本人所有)
( 1.7) 公営住宅(有償)	( 1.9) その他 (具体的に
( 3.4) 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	

( 2.1) 無回答

【問9(1)所有形態で、「3」～「9」と回答した方にかがいます。】

(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=2, 621)

(53.8) 集合住宅(2階建て以上)	(36.4) 一戸建て	( 1.8) その他 (具体的に
( 1.5) 集合住宅(平屋建て)		

( 6.4) 無回答

【すべての方にかがいます。】

**問 10** 現在のあなたの職業を教えてください。

現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ) (n=7, 634)

- |                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| ( 4. 1) 自営業     | ( 5. 7) パート・アルバイト            |
| (15. 4) 会社員(内勤) | ( 2. 5) 学生 →6 ページ問 13 へ      |
| ( 6. 7) 会社員(外勤) | (55. 5) 無職(退職者も含む) →問 12-1 へ |
| ( 3. 1) 公務員(内勤) | ( 1. 9) その他 (具体的に            |
| ( 0. 4) 公務員(外勤) | )                            |

( 4. 8) 無回答

【問 10(1)職業で「1」～「6」または「9」と回答した方(仕事に就いている方)にかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ) (n=2, 841)

- |                   |                        |             |
|-------------------|------------------------|-------------|
| ( 2. 9) 農・林・漁・畜産業 | ( 2. 6) 運輸業            | ( 5. 2) 教育  |
| (23. 6) 建設業       | (20. 2) 卸・小売り・飲食、サービス業 | ( 8. 2) その他 |
| ( 9. 4) 製造業       | ( 1. 8) 金融・保険業         | ( 具体的に      |
| (12. 8) 電気・ガス・水道業 | ( 8. 6) 医療・福祉          | )           |

( 4. 6) 無回答

【問 10(1)職業で「2」～「6」または「9」と回答した方(自営業以外で仕事に就いている方)にかがいます。自営業の方は、問 13 へお進みください。】

**問 11** 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。

(○は1つ) (n=2, 529)

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| (61. 6) 同じ | (24. 8) 違う | (13. 6) 無回答 |
|------------|------------|-------------|



この設問の回答後は 6 ページ問 13 へ

【問 10(1)職業で、「8 無職(退職者も含む)」と回答した方にかがいます。】

**問 12-1** あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ) (n=4, 234)

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| (15. 4) 職を探している →6 ページ問 13 へ | (77. 8) 職を探していない |
|------------------------------|------------------|

( 6. 8) 無回答

【問 12-1 で「2 職を探していない」と回答した方にかがいます。】

**問 12-2** 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ) (n=3, 294)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| ( 3. 1) 元の地域・職場に戻る予定だから               |
| ( 5. 6) 希望する職場がないから                   |
| ( 1. 2) 当面賠償金で生活できるから                 |
| ( 5. 6) 震災を機にリタイア(退職など)したから           |
| (19. 0) 震災前からリタイア(退職など)しているから、専業主婦だから |
| (39. 8) 年齢的に困難・高齢のため                  |
| (13. 3) 病気・体調不良のため                    |
| ( 9. 8) その他 (具体的に                     |
| )                                     |

( 2. 5) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 13** 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。

(n=7, 634)

(○は1つ)

( 9. 4) 医療	(35. 3) コミュニティ形成(地域社会とのつながり)
( 3. 5) 教育	(18. 7) その他
( 4. 4) 介護・福祉	〔具体的に〕
(16. 5) 就労・労働	

(12. 2) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 14** 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(n=7, 634)

(○はいくつでも)

( 2. 8) 医療機関がない、もしくは少ない	( 5. 1) 診察・診療の質に満足できなくなった
(11. 7) 遠くまで通院することになった	( 1. 7) その他
( 3. 3) 特定の診療科がない	〔具体的に〕
(20. 1) かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	
(19. 1) どの病院に行けばよいかわからない	(45. 2) 特になし
(19. 6) 受付から診療まで時間がかかる	

( 5. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 15** ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=7, 634)

(42. 4) 自分も家族も、現在、介護・福祉サービスを受けていない	
( 1. 9) 施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)	
( 4. 3) どの施設・事業所を利用すればよいかわからない	
( 1. 2) 設備が整っていない	
( 1. 4) 職員が少ない(足りていない)	
( 1. 9) その他	〔具体的に〕
(41. 5) 特になし	

( 7. 6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 16** ご自身またはご家族が受けている教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=7, 634)

(36. 2) 自分も家族も、現在、学校に通っていない	
( 6. 5) 通学に時間がかかるようになった	
( 2. 7) 避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	
( 1. 9) 教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	
( 5. 7) 環境が変わったため、学習の進捗が遅れている	
( 3. 6) 避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある	
( 3. 1) その他	〔具体的に〕
(37. 5) 特になし	

(10. 4) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問17** ご自身の就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも) (n=7, 634)

(40. 5) 自分は、現在、就労していない	( 5. 6) 避難していることに対して職場の人の目が気になる
(16. 1) 通勤に時間がかかるようになった	( 4. 6) その他
( 4. 8) 震災前と違う職であり、慣れない	〔具体的に〕
(12. 5) 給与が減った	
( 7. 0) 長期雇用が保障されない	
	(21. 3) 特にない

( 7. 7) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問18** 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも) (n=7, 634)

(62. 1) 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)	〕
(37. 3) 避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)	
(19. 2) 気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない	
( 2. 0) その他〔具体的に	
(23. 9) 特にない	

( 3. 2) 無回答

ここからは、将来についての気持ちを教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

**問19** 震災発生当時にお住まいだった地区からの避難が続く場合、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。(○は1つ) (n=7, 634)

(24. 1) 今の住居で継続して暮らしたい → 8 ページ問 22 へ
(17. 7) 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)
(14. 0) 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)
(41. 1) 現時点ではわからない、判断できない

( 3. 1) 無回答

【問19で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】

**問20** 避難期間中の住居には、どのような所有形態、住宅の建て方を望みますか。

(1) 所有形態(○は1つ) (n=5, 555)

(17. 9) 民間賃貸	(49. 1) 持ち家(ご家族またはご本人所有)
(25. 5) 公営住宅(災害公営住宅を含む)	( 3. 1) その他〔具体的に
( 1. 2) 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	〕

( 3. 2) 無回答

\*「災害公営住宅」とは…今回の原子力災害による避難地域に指定され、帰宅が困難な方(もしくは住宅を失った方)に対して提供する低廉な家賃で入居できる公営住宅です。

(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=5, 555)

( 7. 5) 集合住宅(一般的な中高層のもの)	(72. 7) 一戸建て
(13. 7) 集合住宅(一戸建に近い低層なもの)	( 1. 5) その他〔具体的に
	〕

( 4. 6) 無回答

【問 19 で「3 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 22 へお進みください。】

**問 21** どちらに移動することを望みますか。(○はいくつでも) (n=1,067)

(17.2) 富岡町	(7.4) 広野町
(49.9) いわき市	(1.7) 川内村
(6.6) 郡山市	(2.5) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)
(0.8) 三春町	→ <input type="text"/> (市・町・村)
(1.3) 福島市	
(0.1) 大玉村	(3.7) 福島県以外の東北地方
(0.7) 会津若松市	(14.2) 関東地方
(1.1) 田村市	(8.1) その他の道府県
(0.2) 白河市	
(1.5) 南相馬市	(8.2) 決まっていない

(2.5) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 22** あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に) (n=7,634)

あなたご自身を含め、合計

(9.4) 1人	(25.4) 2人	(21.3) 3人
(18.7) 4人	(11.4) 5人	(10.5) 6人以上

(3.2) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 23** 町が、町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、あなたはそこに居住しますか。

(○は1つ) (n=7,634)

(7.2) 富岡町であれば居住する	(24.4) 居住しない →10 ページ問 29 へ
(8.2) 富岡町でも富岡町以外でも居住する	(48.3) 現時点では判断できない →10 ページ問 29 へ
(8.6) 富岡町以外であれば居住する	

(3.3) 無回答

【問 23 で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

**問 24** 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこに移転するまで、現時点からどのくらいの期間であれば待つことができますか。(○は1つ) (n=1,829)

(18.3) 1年以内	(9.2) その他
(38.8) 3年以内	[ 具体的に ]
(30.5) 5年以内	

(3.2) 無回答



【問 23 で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

**問 25** 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこへ移転するかどうかを決める上で、あなたがもっとも優先することは何ですか。(○は1つ) (n=1, 829)

- |                                    |        |
|------------------------------------|--------|
| (14. 5) 早く新たな住居に入居すること             |        |
| (26. 4) 希望する地域であること                |        |
| (42. 4) 希望する住居形態(一戸建て、集合住宅など)であること |        |
| ( 7. 5) 雇用・就労の場があること               |        |
| ( 2. 5) その他                        | 〔具体的に〕 |

( 6. 7) 無回答

【問 23 で「1」「2」「3」と回答した方(町内外の生活拠点に居住したい方)にうかがいます。】

**問 26** 町が町内外に生活の拠点となる場所を設ける場合、そこに求めるもの(住宅を除く)は何ですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 829)

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| (77. 5) 医療              | (35. 4) コミュニティ |
| (43. 0) 介護・福祉           | (50. 2) 役場出張所  |
| (18. 3) 教育(学校)          | ( 2. 8) その他    |
| (27. 8) 雇用・就労の場         | 〔具体的に〕         |
| (72. 2) 商店・コンビニエンスストアなど |                |

( 7. 4) 無回答

【問 23 で「2 富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「3 富岡町以外であれば居住する」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 29 へお進みください。】

**問 27** 町が生活の拠点となる場所を町外に設ける場合、富岡町民がどの程度でまとまって移転することが望ましいと考えますか。(○は1つ) (n=1, 278)

- |               |              |
|---------------|--------------|
| (27. 4) 町単位   | (24. 9) 世帯単位 |
| (33. 5) 行政区単位 | ( 3. 2) その他  |
|               | 〔具体的に〕       |

(11. 0) 無回答

【問 23 で「2 富岡町でも富岡町以外でも居住する」、または「3 富岡町以外であれば居住する」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 29 へお進みください。】

**問 28** 町が生活の拠点となる場所を町外に設ける場合、他の町村の住民との連携や生活について、あなたはどのように考えますか。(○は1つ) (n=1, 278)

- |                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| (35. 6) 富岡町の住民だけで移転・生活する方が望ましい   |        |
| (10. 3) 他の町村の住民とともに移転・生活する方が望ましい |        |
| (43. 0) どちらでもかまわない               |        |
| ( 0. 4) その他                      | 〔具体的に〕 |

(10. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 29** 富岡町への帰還についておたずねします。

あなたは、どのような条件が整ったら富岡町へ帰還したいと考えますか。

帰還の前提として必要と考える条件の中で、あなたにとって特に重要度が高い前提内容から順に、「もっとも必要と思うもの」、「2番目に必要と思うもの」、「3番目に必要と思うもの」を、下のア～サの中からそれぞれ1つずつ選び、数字に○をつけて教えてください。(○は1つずつ) (n=7, 634)

帰還の前提条件	優先順位⇒	もっとも必要と思うもの (○は1つ) ↓	2番目に必要と思うもの (○は1つ) ↓	3番目に必要と思うもの (○は1つ) ↓
	ア) 放射線量が低下すること		(39.8)	(11.0)
イ) 原子力発電所の安全性が確保されること		(18.1)	(17.8)	( 2.4)
ウ) 水道水等の生活用水が安全であることが確認されること		( 6.8)	(11.8)	(14.5)
エ) 富岡町もしくは富岡町から通勤できる範囲で雇用が確保されること		( 2.9)	( 5.3)	( 5.0)
オ) 災害公営住宅が整備されること		( 2.8)	( 4.9)	( 2.9)
カ) 交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること		( 4.3)	( 6.4)	( 7.1)
キ) 医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること		( 5.6)	( 7.1)	(10.4)
ク) 町内の学校が再開されること		( 1.8)	( 3.1)	( 2.5)
ケ) 町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること		( 4.6)	( 7.2)	(13.7)
コ) 他の住民がある程度戻ること		( 3.1)	( 3.9)	( 6.7)
サ) その他 (具体的に)		( 2.6)	( 0.4)	( 1.1)

( 7.8) (21.1) (31.7) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

**問 30** 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ) (n=7, 634)

(15.6) 現時点で戻りたいと考えている	
(43.3) 現時点でまだ判断がつかない	→11 ページ問 33 へ
(40.0) 現時点で戻らないと決めている	→11 ページ問 34 へ

( 1.1) 無回答

【問 30 で「1 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

**問 31** 避難指示が解除され富岡町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 191)

(75.3) 住宅再建の支援	(69.4) 商店の再開・支援
(61.9) 継続的な健康管理の支援	(24.8) 農・林・漁・畜産業の支援・指導
(18.5) 仕事のあっせん	( 6.5) その他
(55.2) 富岡町からの継続的な情報提供	(具体的に)

( 2.9) 無回答

【問30で「1 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問32 富岡町に戻るまでの期間が何年までであれば待つことができますか。(具体的に) (n=1,191)

現時点から (6.0) 1年まで (9.9) 2年まで (26.5) 3年まで (3.4) 4年まで (42.5) 5年以上

(11.7) 無回答



この設問の回答後は12ページ問38へ

【問30で「2 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問33 富岡町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも) (n=3,306)

- (60.3) 受領する賠償額の確定
- (56.3) どの程度の住民が戻るかの情報
- (81.9) 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
- (77.3) 放射線量の低下の目途
- (11.7) その他 (具体的に

(2.8) 無回答



この設問の回答後は12ページ問38へ

【問30で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問34 「現時点で戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも) (n=3,050)

- (80.7) 放射線量に対する不安があるから
- (70.8) 原子力発電所の安全性に不安があるから
- (13.6) 避難先で仕事を見つけているから
- (36.5) 富岡町に戻っても仕事がないから
- (68.0) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
- (14.1) 営農などができないから
- (28.3) 町外への移動交通が不便だから
- (56.2) 医療環境に不安があるから
- (28.7) 介護・福祉サービスに不安があるから
- (26.1) 教育環境に不安があるから
- (63.4) 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
- (33.3) 他の住民が戻らないから
- (13.4) その他 (具体的に

(1.8) 無回答

【問30で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問35 戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(〇は1つ)

「2 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入ください。

(n=3,050)

(11.7) すでに新しい生活拠点に転居済み →12ページ問37へ

(6.8) 転居時期が決まっている →12ページ問37へ

(n=206)

- (54.9) 半年以内 (28.6) 1年以内 (10.2) 1年半以内
- (1.9) 2年以内 (3.4) 2年より後 (1.0) 無回答

(78.2) 転居時期は決まっていない

(3.4) 無回答

【問 35 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

問 36 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(〇はいくつでも) (n=2, 385)

- (64. 7) 受領する賠償額が確定した段階  
(54. 1) 希望する転居先での住宅が確保された段階  
(13. 7) 希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階  
( 9. 9) 職が決まった段階  
( 8. 4) その他 (具体的に

( 4. 4) 無回答

【問 30 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 37 富岡町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。

(〇はいくつでも) (n=3, 050)

- (56. 8) 住居の確保の支援 (60. 0) 富岡町からの継続的な情報提供  
(52. 4) 継続的な健康管理の支援 ( 6. 8) その他  
(11. 7) 仕事のあっせん (具体的に  
(45. 1) 仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保

( 5. 5) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 38 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

あなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 39 あなたの性別(〇は1つ) (n=7, 634)

- (45. 0) 男性 (48. 0) 女性

( 7. 0) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 40 あなたの現在の年齢(〇は1つ) (n=7, 634)

- ( 2. 1) 1 8～1 9 歳 ( 6. 9) 4 0～4 4 歳 ( 8. 5) 6 5～6 9 歳  
( 3. 3) 2 0～2 4 歳 ( 7. 3) 4 5～4 9 歳 ( 7. 0) 7 0～7 4 歳  
( 4. 3) 2 5～2 9 歳 ( 9. 1) 5 0～5 4 歳 ( 6. 3) 7 5～7 9 歳  
( 4. 7) 3 0～3 4 歳 (10. 3) 5 5～5 9 歳 ( 8. 9) 8 0 歳以上  
( 7. 1) 3 5～3 9 歳 (12. 2) 6 0～6 4 歳

( 2. 0) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 41 あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ) (n=7, 634)

(46. 0) 当時世帯主だった (51. 1) 当時世帯主ではなかった

( 2. 9) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 42 あなたは現在、世帯主又は世帯の代表ですか。(○は1つ) (n=7, 634)

(47. 9) 現在世帯主又は世帯の代表 → 問 43 へお進みください

(42. 5) 世帯主ではないし、世帯の代表でもない → ご質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。

( 9. 5) 無回答

最後に、世帯・ご家族の状況を教えてください。

【問42で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 43 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 震災当時、富岡町にお住まいだったご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。

同居していなかったご家族は除いてご回答ください。(具体的に) (n=3, 660)

震災発生当時の世帯合計人数(あなたを含めて)	(14. 8) 1人	(26. 1) 2人	(20. 4) 3人
	(17. 5) 4人	(10. 4) 5人	( 9. 8) 6人以上

( 0. 9) 無回答

(2) 震災当時、富岡町と一緒ににお住まいであった方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。

震災当時の学齢・年齢でご回答ください。同居していなかったご家族は除いてご回答ください。

(○はいくつでも) (n=3, 660)

(12. 1) 未就学児(小学校入学前)	( 9. 3) 中学生	(82. 0) 15~64歳の方(中学生・高校生を除く)
(14. 3) 小学生	( 9. 3) 高校生	(47. 0) 65歳以上の方

( 1. 5) 無回答

【問42で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 44 震災当時のお住まいでは、ペットを飼っていましたか。(○はいくつでも) (n=3, 660)

(57. 3) ペットは飼っていなかった	( 7. 1) その他のペットを飼っていた
(25. 2) 犬を飼っていた	〔具体的に〕
(14. 0) 猫を飼っていた	

( 3. 8) 無回答

【問42で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

問 45 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

(1) 所有形態(○は1つ) (n=3, 660)

(78. 8) 持ち家(ご家族またはご本人所有)	( 0. 8) 間借り
(12. 8) 民間賃貸	( 0. 2) その他
( 3. 7) 公営住宅	〔具体的に〕
( 3. 0) 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	

( 0. 7) 無回答

(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=3, 660)

(85. 3) 一戸建て	( 0. 4) その他	〔具体的に〕
(11. 4) 集合住宅(2階建て以上)		
( 1. 3) 集合住宅(平屋建て)		

( 1. 6) 無回答

【問42で「1 現在世帯主又は世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

**問 46** 現在の世帯構成についてうかがいます。

- (1) 現在、あなたがお住まいの住宅のご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。同居していないご家族は除いてご回答ください。(具体的に) (n=3, 660)

現在の同居人数 (あなたを含めて)	(21.5) 1人	(35.2) 2人	(19.1) 3人
	(11.9) 4人	( 6.6) 5人	( 3.7) 6人以上

( 2.0) 無回答

- (2) 現在、一緒にお住まいの方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。現在の学齢・年齢でご回答ください。同居していないご家族は除いてご回答ください。(〇はいくつでも) (n=3, 660)

( 8.7) 未就学児(小学校入学前)	( 7.4) 中学生	(78.8) 15~64歳の方(中学生・高校生を除く)
(10.6) 小学生	( 7.3) 高校生	(45.7) 65歳以上の方

( 0.2) 無回答

- (3) 現在のお住まいでは、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも) (n=3, 660)

(75.4) ペットは飼っていない	( 3.0) その他のペットを飼っている
(13.0) 犬を飼っている	〔具体的に〕
( 5.8) 猫を飼っている	

( 4.8) 無回答

- (4) 現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時ご一緒にお住まいであった世帯のご家族でまとまって避難していますか。(〇は1つ) (n=3, 660)

(49.7) 世帯でまとまって避難している → 質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。
(29.3) 合計2か所に分かれて避難している
( 9.2) 合計3か所に分かれて避難している
( 1.7) 合計4か所以上に分かれて避難している

(10.1) 無回答

【問 46(4)で「2」「3」「4」と回答した方(分散して避難している方)にうかがいます。】

- (5) 現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。(具体的に) (n=1, 473)

(37.3) 1人	(26.3) 2人	(16.6) 3人
( 9.8) 4人	( 4.4) 5人	( 2.4) 6人以上

( 3.2) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、  
**12月18日(火)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。**

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。